

継続的な改善活動のために！

2019

在学生・卒業生・教職員

KIT総合アンケート調査結果 [報告書 (抜粋)]

学校法人 金沢工業大学

KIT総合アンケート調査結果について

学長 大澤 敏

平成31年の大学進学率は過去最高の53.7%に達し、大学教育のユニバーサル化が続いています。このような中で学生の考え方、気質も大きく変化しています。これに予測困難な社会情勢が加わり、社会から必要とされる大学を標榜する本学は、常に教育の質を分析し、不断の改革を行う必要があります。科学技術立国として世界の中で日本が発展するための理工系総合大学として存続し続けるためには、社会の変化に対応しながら、イノベーションを創出できる人材の育成が不可欠です。一方で、教育の質保証や卒業生や在学生の本学に対する満足度等に関しては、従来から不明な点が多いのが現状であります。新入生から卒業生までを網羅したKIT総合アンケート結果は、本学の教育の改善に対して多くの示唆を与えるものです。

金沢工業大学の教育目標は、「自ら考え行動する技術者の育成」です。学生は本学の教育システムの中で学び、基礎知識と技能を確実に身につけ、それを基に、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に行動する人材として社会で活躍することになります。最も大切なことは、1日150科目以上開講される授業と課外活動の質、それに係わる教職員の行動であり、これが学生の成長にどのようにつながっているのかについて、学生・卒業生・教員・職員の区分で分析し、如何なる改善をなすべきかを知り、それを基にした教育改革を進める必要があります。

通常、この種のアンケートは自己点検・自己評価の下に行われる訳ですが、本学では第三者である(有)アイ・ポイントにアンケートの設計から調査結果の評価並びに分析に至るまで全てを依頼いたしましたので、より客観性のある報告書になり得たものと考えております。

本アンケートはこれからも継続して実施すると共に、今回得られた結果を踏まえて本学の工学教育・技術者教育へフィードバックしながら、卒業生・修了生・在学生の更なる満足度の向上に資することに致したく思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

最後になりましたが、本アンケートにご協力いただきました関係各位に対しまして、心より感謝申し上げます。

目次

※本報告書(抜粋)のページ番号は、報告書(全文)の目次に対応しているため、連動しておりません。

<1>	本調査の全体像	1
<2>	在学生、卒業・修了生の基本属性	9
<3>	在学中の目的・目標意識	15
<4>	大学に対する満足度	21
<5>	授業・学習支援の評価	33
<6>	課外活動に関して	53
<7>	勉強、課外活動に費やした時間に関して	59
<8>	大学院進学に関して	65
<9>	教職員と大学の改善取り組み状況の評価	73
<10>	KIT-IDEALSに関して	79
<11>	卒業時の能力	87
<12>	卒業・修了生アンケートの分析結果	93
<13>	新入生アンケートの分析結果	103
<14>	教職員アンケートの分析結果	135
<15>	全体のまとめ	149
<16>	調査票見本	159

<1-1> 調査の目的と概略

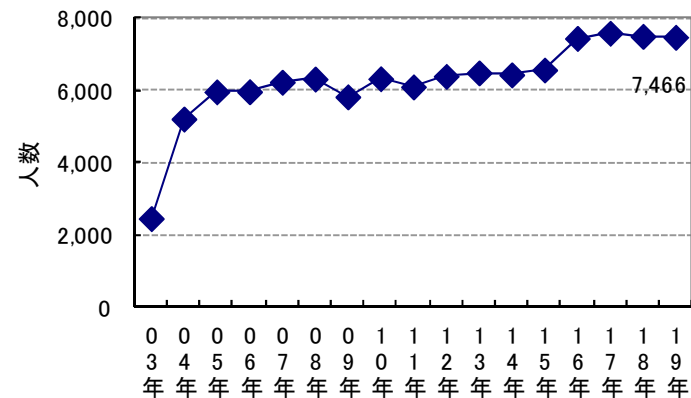
■ 調査目的

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)を取り囲む関係者の中から、「在学生(新生～卒業・修了直前)」「卒業・修了生」「教員」「職員」を対象として、KITに対する評価や満足度を聞き、過去の回答と比較しながら現状を把握することを主目的としている。
- 上記の各層が「KITをどのように見ているか?」「各々の見方にはどのような違いがあるのか?」「以前とどのように変わっているのか?」といった基礎的な情報を把握し、今後の学校運営、広報の検討に活用できるようとりまとめている。
- 本調査は2003年より実施しており、今回が17回目となる。同一内容で比較できる設問に関しては時系列変化で分析している。

■ 調査方法

調査時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年2月～4月に実施。 ・ 在学生への調査期間は、2005年の調査より、年度当初(4月)から年度末(2月)に変更している。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「在学生」は学内で配布、「教職員」はメールで配信し、回収ボックスで回収した。「卒業・修了生」は郵送によって配布、回収した。 ・ すべて『無記名式』とした。
回収数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の全回収数は7,466サンプルであった。 ・ 属性別の回収数は下記の通り。
調査主体	学校法人 金沢工業大学
集計分析	(有)アイ・ポイント

■ 回答者数推移(企業担当者をのぞく)



■ 年度別回収数

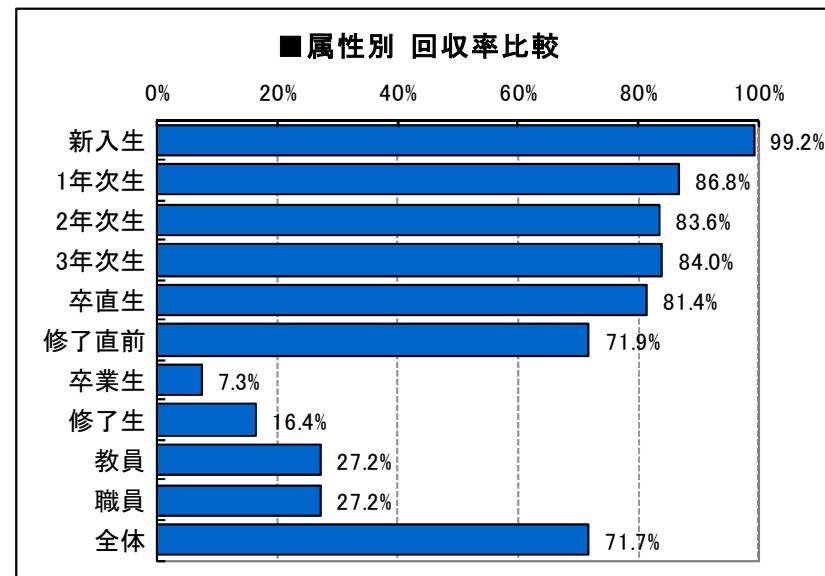
対象者	調査時点での属性	03年 回収数	04年 回収数	05年 回収数	06年 回収数	07年 回収数	08年 回収数	09年 回収数	10年 回収数	11年 回収数	12年 回収数	13年 回収数	14年 回収数	15年 回収数	16年 回収数	17年 回収数	18年 回収数	19年 回収数
新生	入学直後	724	1,672	1,610	1,747	1,642	1,652	1,568	1,723	1,607	1,745	1,886	1,614	1,664	1,604	1,541	1,641	1,592
1年次生	1年次終了時点	106	1,007	1,379	1,364	1,505	1,461	1,369	1,293	1,411	1,299	1,562	1,587	1,447	1,519	1,361	1,384	1,438
2年次生	2年次終了時点	49	792	1,533	1,313	1,267	1,455	1,146	1,185	1,022	1,321	1,059	1,337	1,545	1,439	1,497	1,422	1,321
3年次生	3年次終了時点	106	449	441	599	768	793	643	760	781	756	741	769	744	1,520	1,312	1,350	1,387
卒業・修了直前	卒業・修了直前	976	914	610	549	669	664	711	960	808	873	829	790	865	970	1,509	1,364	1,424
卒業・修了生	卒業・修了生	163	107	97	80	90	57	110	137	149	146	144	104	125	124	121	138	124
教員	在職中の教員	143	133	151	157	136	118	118	112	115	108	118	131	80	134	127	106	102
職員	在職中の職員	187	131	134	153	144	109	155	148	202	139	143	93	91	122	106	86	78
企業担当者	卒業生の就職企業	—	—	485	—	—	660	—	—	686	—	—	872	—	—	846	—	—
全体(企業除く)		2,454	5,205	5,955	5,962	6,221	6,309	5,820	6,318	6,095	6,387	6,482	6,425	6,561	7,432	7,574	7,491	7,466

※2014年より、「卒業・修了直前」は「卒業直前」と「修了直前」に、「卒業・修了生」は「卒業生」と「修了生」に分けて調査票を作成したが、件数としては合わせた数で表示している。

■属性別回収率

属性	配布数	回収数	回収率
新入生	1,605	1,592	99.2%
1年次生	1,657	1,438	86.8%
2年次生	1,581	1,321	83.6%
3年次生	1,651	1,387	84.0%
卒業直前	1,574	1,281	81.4%
修了直前	199	143	71.9%
卒業生	1,300	95	7.3%
修了生	177	29	16.4%
教員	375	102	27.2%
職員	287	78	27.2%
全体	10,406	7,466	71.7%

※属性別回収率の「配布数」は実際に調査票を配布した数となる。

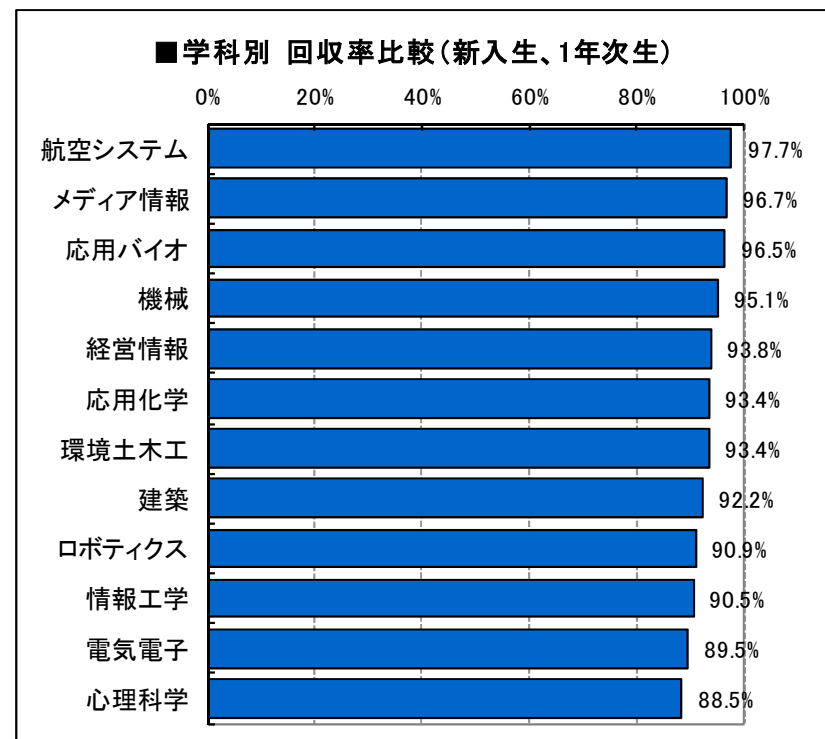


■学部別・学科別回収率(新入生、1年次生)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	1,953	1,797	92.0%	機械	405	385	95.1%
				航空システム	130	127	97.7%
				ロボティクス	220	200	90.9%
				電気電子	506	453	89.5%
				情報工学	495	448	90.5%
				環境土木工	197	184	93.4%
情報 フロンティア 学部	537	507	94.4%	メディア情報	304	294	96.7%
				経営情報	129	121	93.8%
				心理科学	104	92	88.5%
建築学部	450	415	92.2%	建築	450	415	92.2%
バイオ・化学部	322	306	95.0%	応用化学	152	142	93.4%
				応用バイオ	170	164	96.5%
全体	3,262	3,025	92.7%	全体	3,262	3,025	92.7%

※12学科体制の新入生と1年次生を合わせて集計している。

※回収率に関しては、学科無回答の5名は除外して集計している。

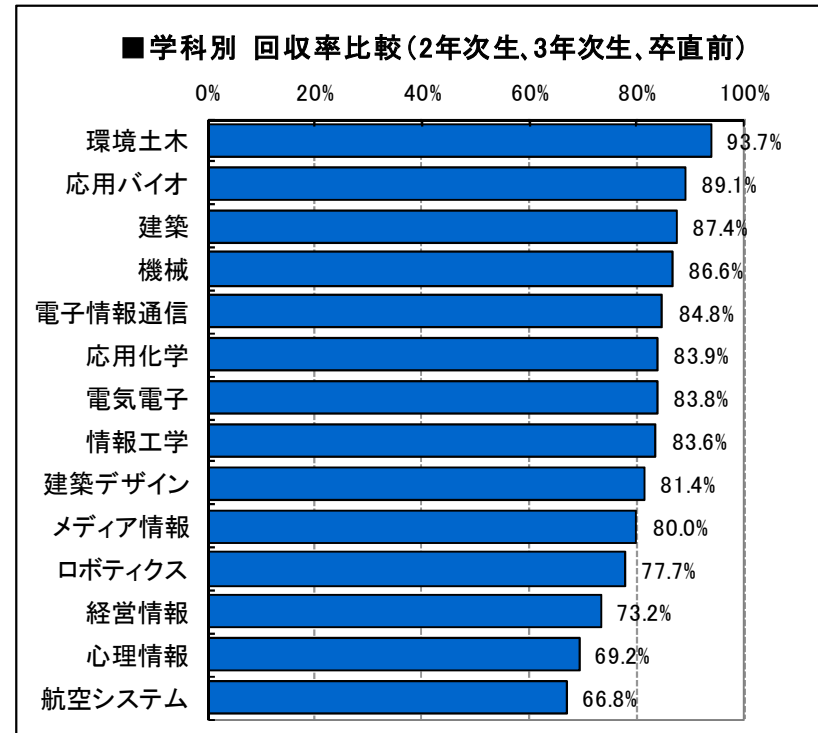


■学部別・学科別回収率(2年次生、3年次生、卒業直前)

学部	学部別 在籍者数	学部別 回収数	学部別 回収率	学科	学科別 在籍者数	学科別 回収数	学科別 回収率
工学部	2,589	2,133	82.4%	機械	688	596	86.6%
				航空システム	199	133	66.8%
				ロボティクス	364	283	77.7%
				電気電子	575	482	83.8%
				電子情報通信	112	95	84.8%
				情報工学	651	544	83.6%
情報 フロンティア 学部	731	560	76.6%	メディア情報	445	356	80.0%
				経営情報	153	112	73.2%
				心理情報	133	92	69.2%
建築学部	1,034	894	86.5%	建築デザイン	430	350	81.4%
				建築	349	305	87.4%
				環境土木	255	239	93.7%
バイオ・化学部	452	392	86.7%	応用化学	205	172	83.9%
				応用バイオ	247	220	89.1%
全体	4,806	3,979	82.8%	全体	4,806	3,979	82.8%

※14学科体制の2年次生、3年次生、卒直前を合わせて集計している。

※回収率に関しては、学科無回答の10名は除外して集計している。



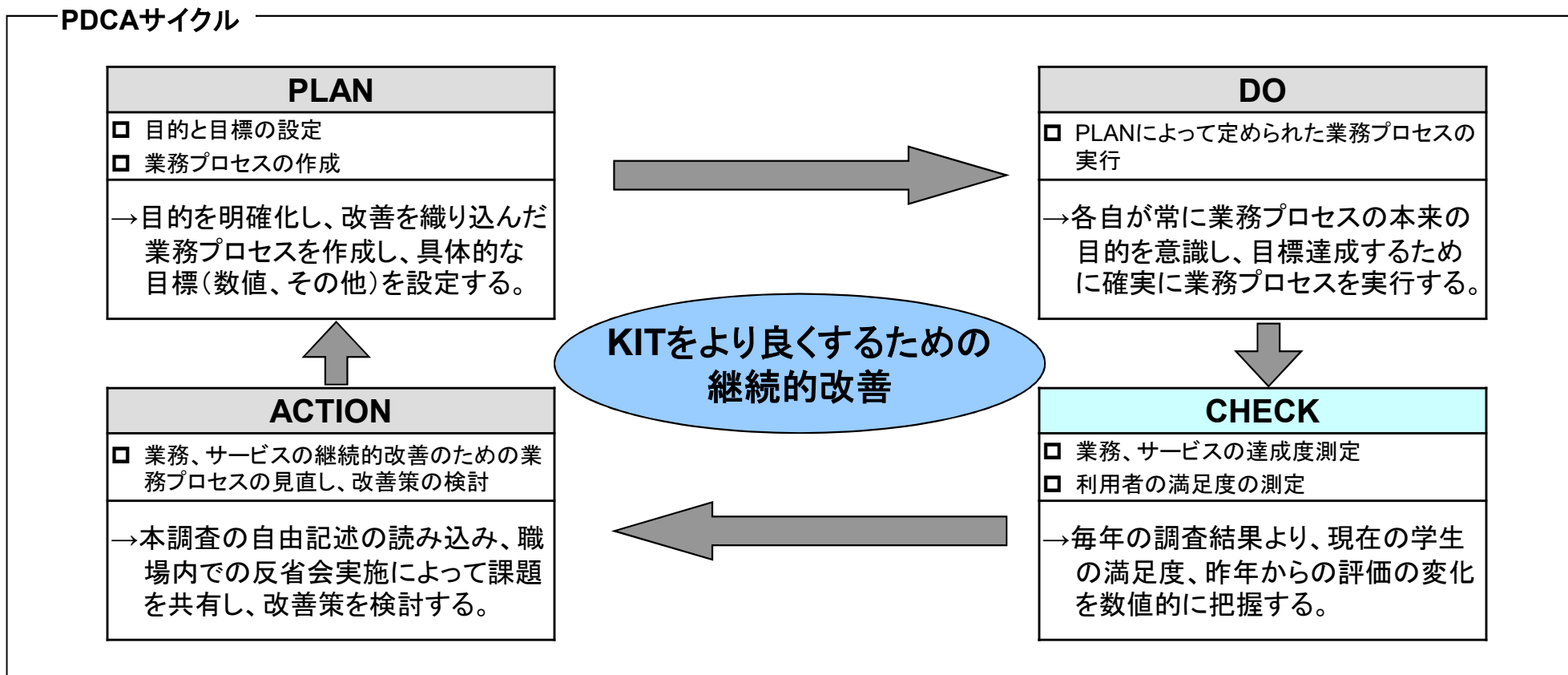
■集計に関して

分野	注意点
分析に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・「目的・目標意識」「総合満足度」などの、重要な指標に関しては「単純集計」「年度別比較」の他に「男女別」「学年別」「学科別」などの属性別のグラフを提示し、分析を行っているが、その他の項目に関しては「単純集計」「年度別比較」のみの分析とし、属性別に関しては巻末にグラフだけを掲載している。 ・「新入生」アンケートに関しては、入試広報などに活用するために属性別の集計も分析している。また、「卒業・修了生」「教職員」についても属性別の分析を行っている。
無回答に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・特に但し書きがない場合は、無回答は集計から除外している。
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 ・今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 ・加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 ・「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> ・折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
誤差に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。
属性別比較に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内では属性別比較を行っているが、「全体集計」と「属性別比較」の結果が異なっているケースもある。これは、「全体集計」ではすべてのデータが集計対象となるが、属性が未回答の場合は「属性別集計」では集計対象とならないためであり、これらの数値は、そのまま表示している。
学科別集計に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、「新入生」「1年次生」は12学科体制、「2年次生」「3年次生」「卒直前」は14学科体制となっているが、学科別集計に関しては下記の通りに12学科体制に調整して集計している。 ・14学科体制の「電気電子工学科」と「電子情報通信工学科」を12学科体制の「電気電子工学科」として集計し、同様に「建築デザイン学科」と「建築学科」を「建築学科」として集計している。

<1-2> 調査の位置づけ

■ PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

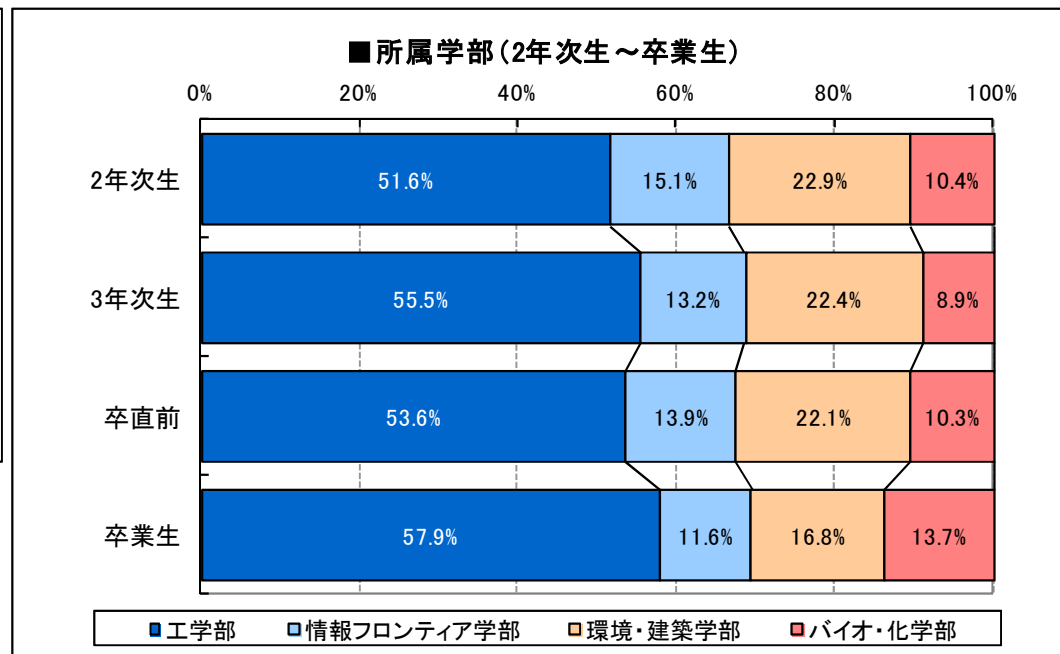
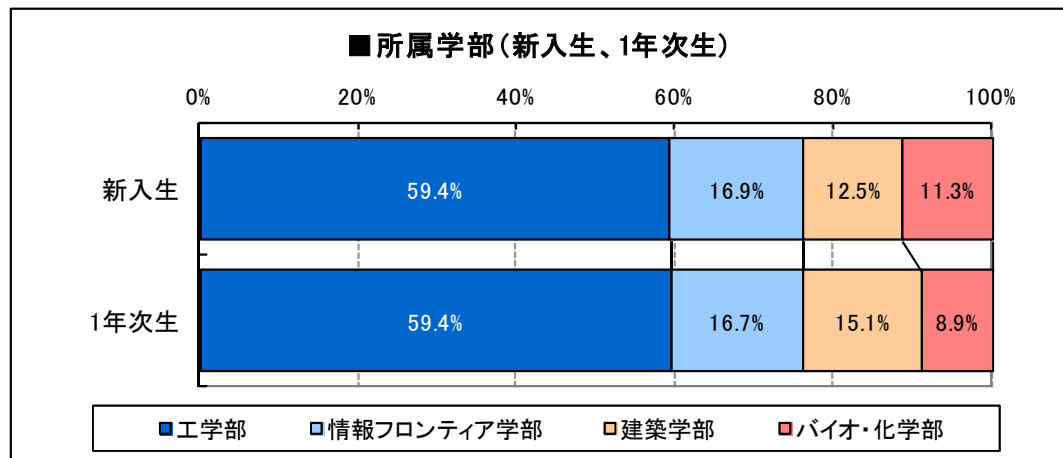
本報告書は前出の目的に基づいて作成されているが、具体的なPDCAサイクルの中では下記のように位置づけられる。



- 今回の調査によって得られた「KIT関係者のKITに対する評価、満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「他の施設や機能と比較して評価がどうであったか？」という相対的な結果を見るよりも、「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見る方が、よりPDCAのサイクルに則した見方ができるものと思われる。
- また、今後の改善策を検討するためには「自由記述」が有効であり、多くのヒントが含まれているものと思われる。
- 本調査企画は昨年から改善を重ねて内容を見直しているため、質問方法、選択肢などが異なる部分もあるが、今後はこれらの違いをできるだけ少なくし、より比較検討が行いやすい内容にしていく予定である。

<2-1> 在学生・卒業生の基本属性

■所属学部、学科



■所属学科

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	情報工学科	環境土木工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理科学科	建築学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
新入生	13.0%	3.8%	6.4%	15.5%	14.6%	6.2%	9.4%	4.3%	3.1%	12.5%	5.0%	6.2%	100.0%
1年次生	12.5%	4.7%	6.9%	14.4%	15.1%	6.0%	10.0%	3.6%	3.0%	15.1%	4.3%	4.5%	100.0%

	機械工学科	航空システム工学科	ロボティクス学科	電気電子工学科	電子情報通信工学科	情報工学科	メディア情報学科	経営情報学科	心理情報学科	建築デザイン学科	建築学科	環境土木工学科	応用化学科	応用バイオ学科	総計
2年次生	14.7%	2.4%	7.2%	11.5%	2.2%	13.6%	11.1%	1.8%	2.2%	10.2%	6.7%	6.1%	4.4%	6.0%	100.0%
3年次生	14.9%	4.1%	6.8%	11.9%	2.7%	15.0%	8.0%	2.6%	2.7%	8.2%	7.9%	6.4%	4.3%	4.6%	100.0%
卒直前	15.3%	3.4%	7.4%	12.9%	2.3%	12.3%	7.8%	4.1%	2.0%	8.1%	8.5%	5.6%	4.2%	6.1%	100.0%
卒業生	13.7%	7.4%	7.4%	14.7%	4.2%	10.5%	3.2%	4.2%	4.2%	8.4%	6.3%	2.1%	3.2%	10.5%	100.0%

※学科別集計に関しては12学科体制に調整して集計している。詳細は「<1-1> 調査の目的と概略」の「■集計に関して」を参照のこと。また、ここでは「無回答」は除外して集計している。

■出身地域

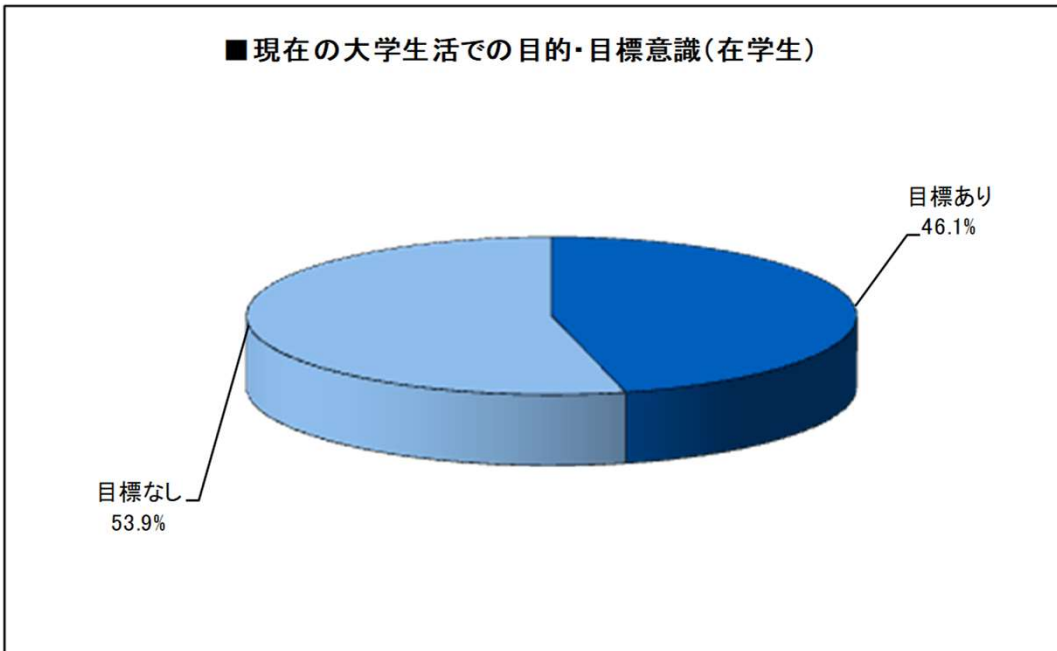
■在学生の出身地域

	北海道・東北	関東	甲信越	北陸	東海	関西	中国・四国	九州・沖縄	全体
1年次生	58	100	194	650	222	125	52	26	1,427
	4.1%	7.0%	13.6%	45.6%	15.6%	8.8%	3.6%	1.8%	100.0%
2年次生	50	60	196	645	193	110	39	17	1,310
	3.8%	4.6%	15.0%	49.2%	14.7%	8.4%	3.0%	1.3%	100.0%
3年次生	50	66	213	624	215	143	44	19	1,374
	3.6%	4.8%	15.5%	45.4%	15.6%	10.4%	3.2%	1.4%	100.0%
卒業直前	49	57	175	600	208	120	41	26	1,276
	3.8%	4.5%	13.7%	47.0%	16.3%	9.4%	3.2%	2.0%	100.0%
修了直前	10	13	20	41	33	17	3	3	140
	7.1%	9.3%	14.3%	29.3%	23.6%	12.1%	2.1%	2.1%	100.0%
全体	217	296	798	2560	871	515	179	91	5,527
	3.9%	5.4%	14.4%	46.3%	15.8%	9.3%	3.2%	1.6%	100.0%

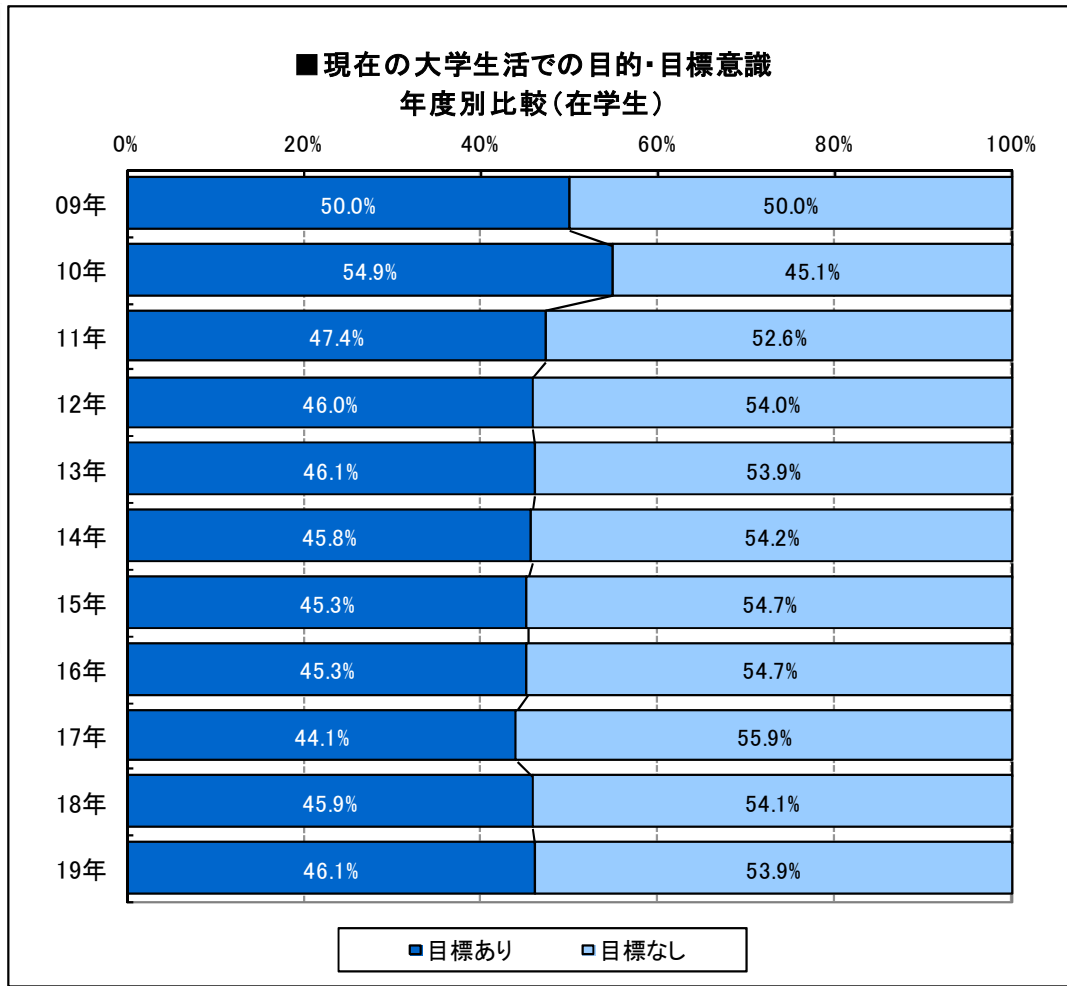
<3-1> 在学中の目的・目標意識

■現在の目的・目標意識

- 「大学生活を送る上での目的・目標の有無」は、「目標あり」が46.1%、「目標なし」が53.9%であり、「目標なし」の方が7.8ポイント多かった。
- 年度別比較を見ると、「目標あり」は前回は0.2ポイントとわずかに上回っていたが、11年からほぼ横這い状態が続いていた。



目標あり(46.1%) < 目標なし(53.9%)

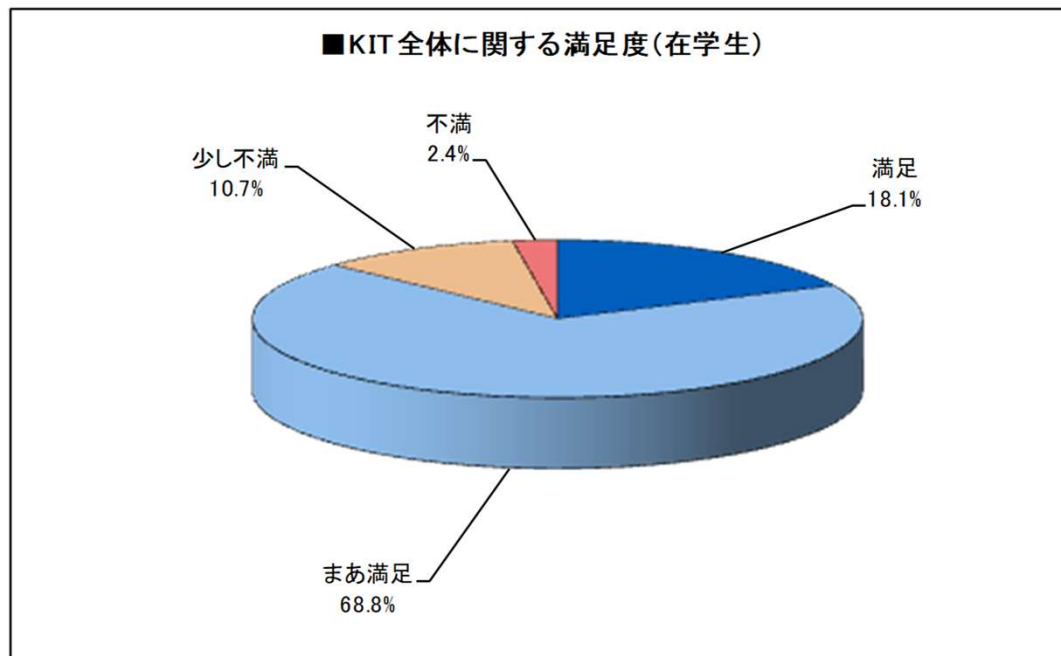


※この質問は「新入生」「在学生(卒・修直前を含む)」「卒業生」「修了生」に聞いているが、このページのグラフは年度別の比較が可能な「在学生」のみを対象として比較しており、次項以降のグラフは「新入生」「卒業生」「修了生」も含めて比較をしている。

<4-1> KITの総合満足度

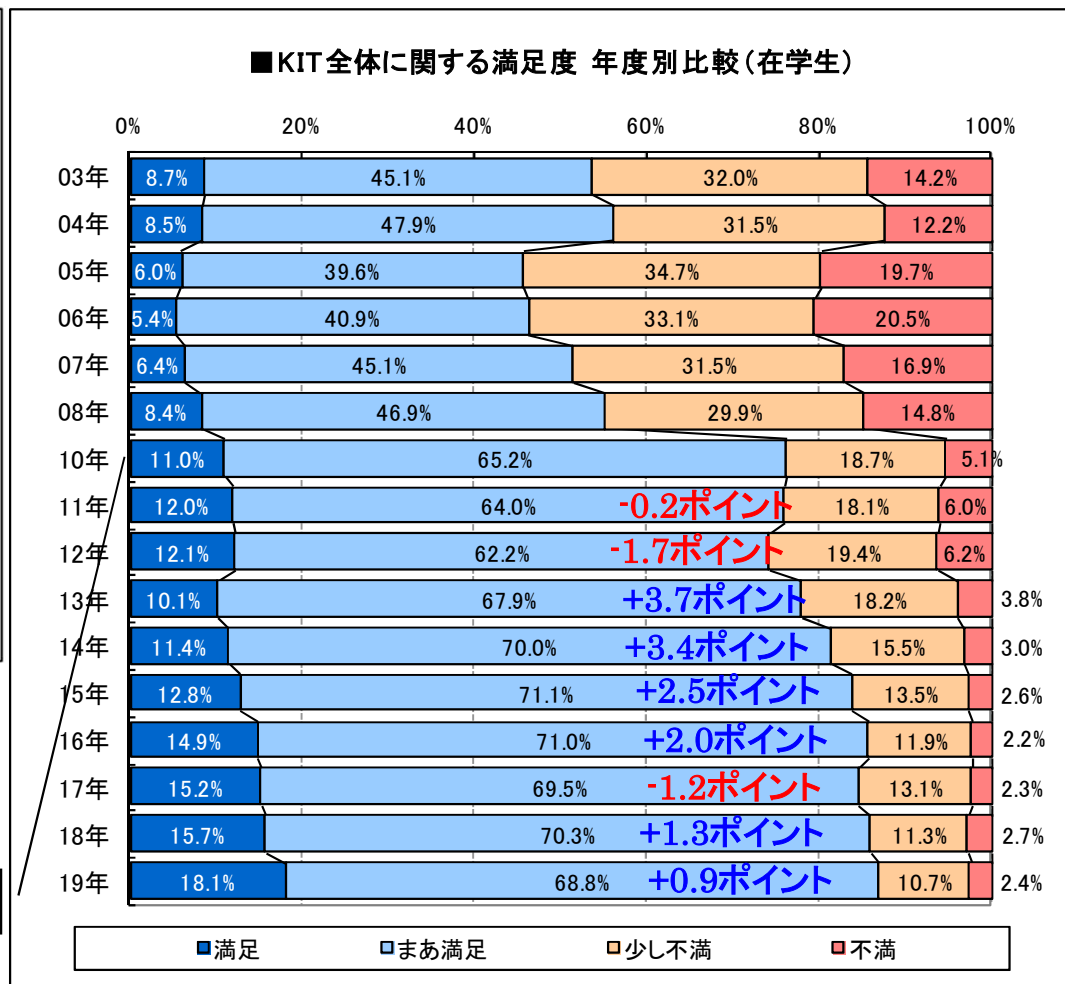
■KIT全体に関する満足度

- 「KIT全体に関する満足度」に対しては「満足」が18.1%、「まあ満足」が68.8%であり、合わせると86.9%が満足という回答であった。一方、不満という回答の合計は13.1%であった。
- 総合満足度は08年までは「今のKITに満足していますか?」と聞いており、09年には質問自体を削除している。そして、10年からは「KIT全体に関する満足度」として「満足」～「不満」を選ぶ聞き方になっている。
- 聞き方が統一された10年以降を見ると、満足という回答の合計は12年頃までは80%弱で横這いであったが、13年からは増加する傾向が続いていた。そして、今回(19年)は前回を0.9ポイント上回って、過去最高の満足度となった。特に「満足」だけを見ると前回を2.4ポイント上回っており、こちらも過去最高であった。



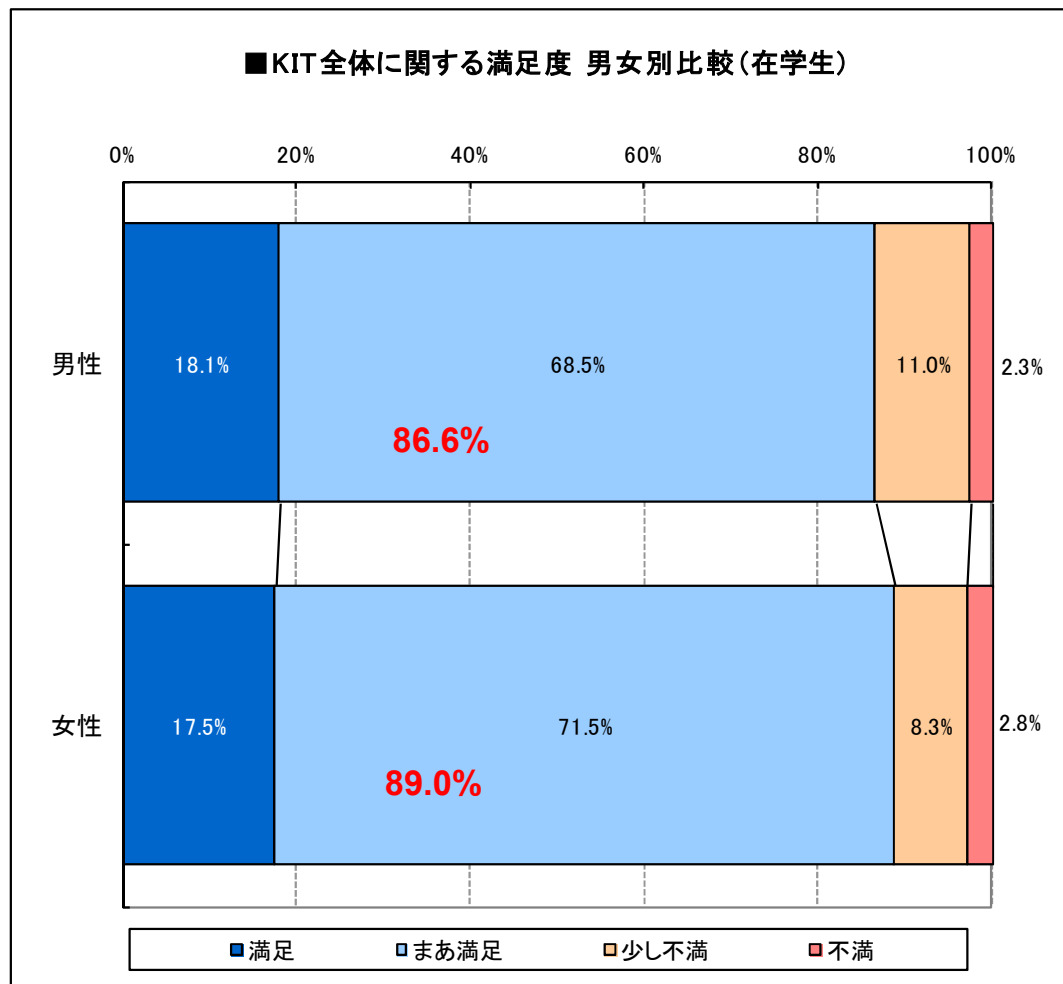
満足している(86.9%) > 不満を持っている(13.1%)

10年から聞き方が変わっている



■KIT全体に関する満足度 男女別比較

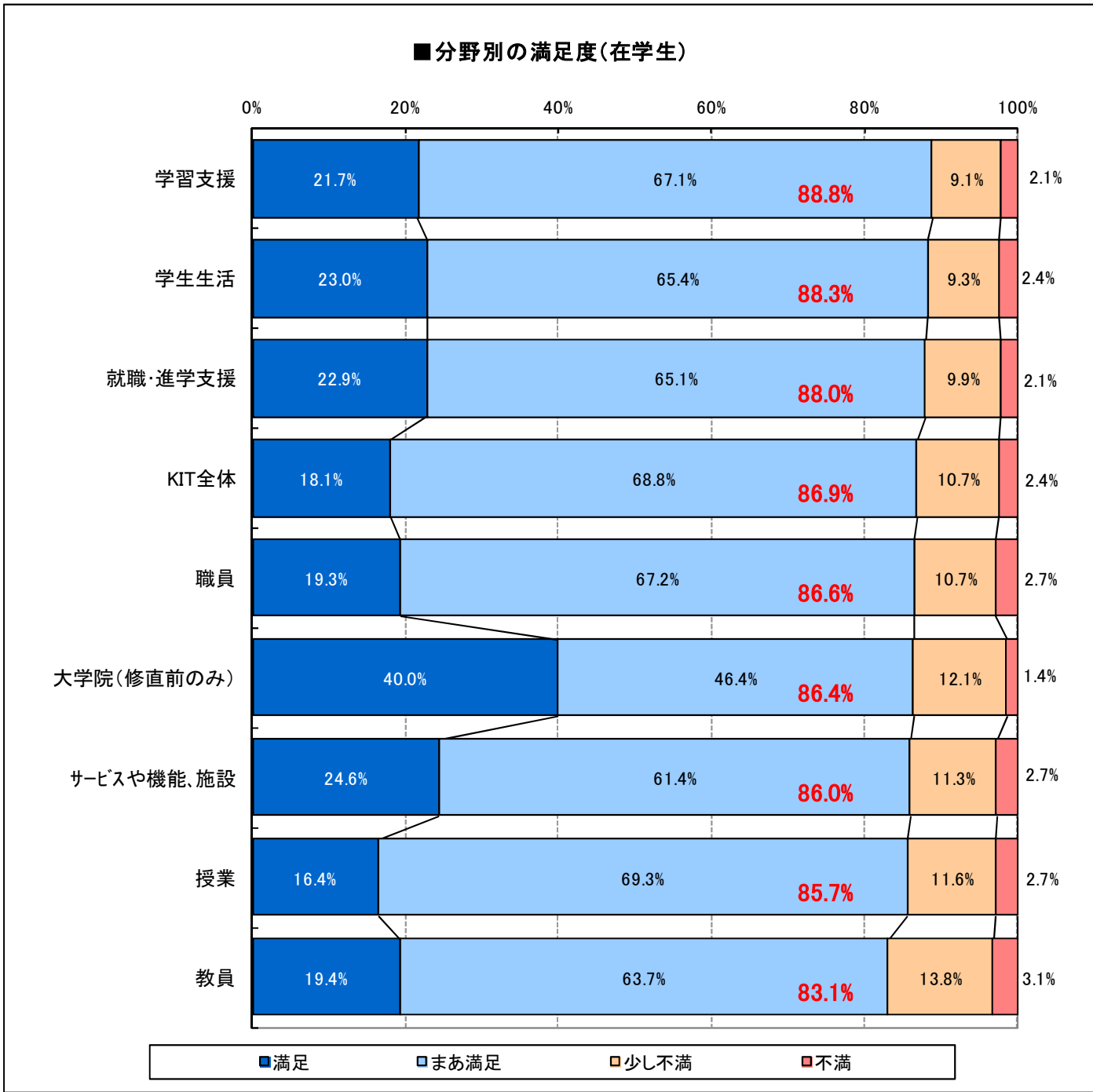
- 男女別に満足度を比較したところ、満足という回答の合計は「男性」では86.6%、「女性」では89.0%であり、わずかではあるが「女性」の方が満足度が高かった。



<4-2>分野別の満足度

■分野別満足度

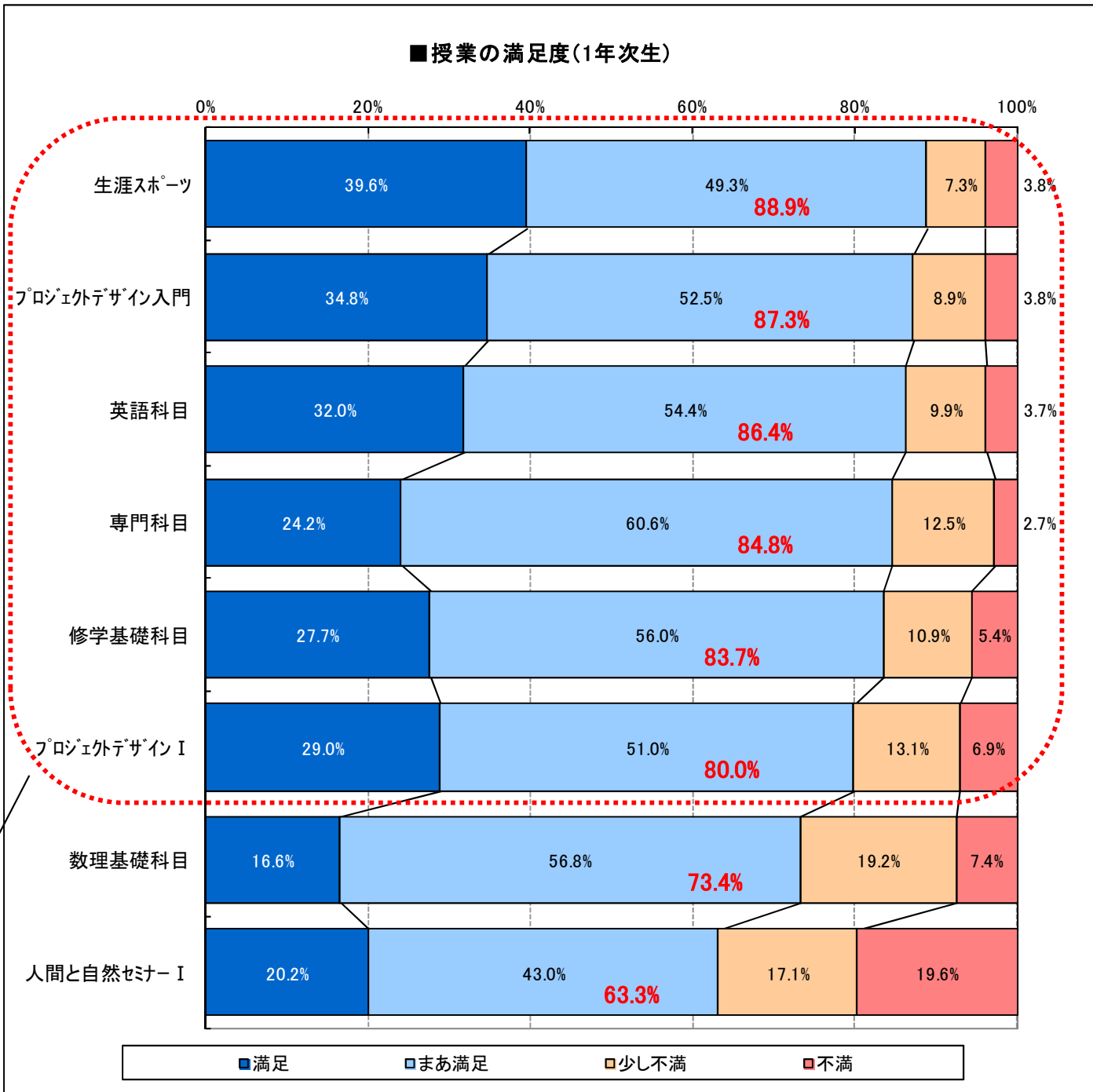
- 分野別の満足度で、最も満足度が高かったのは「学習支援」の88.8%であり、次いで、「学生生活」が88.3%、「就職・進学支援」が88.0%と続いていた。そして、「満足」だけを見ると「修了直前」だけに聞いた「大学院」が40.0%と突出していた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「教員」の83.1%であり、最も高い「学習支援」との差は5.7ポイントと小さく、満足度として決して低いものではなかった。そして、「授業」が85.7%、「サービスや機能、施設」が86.0%と続いていた。



<5-1>授業の満足度

■授業の満足度 1年次生

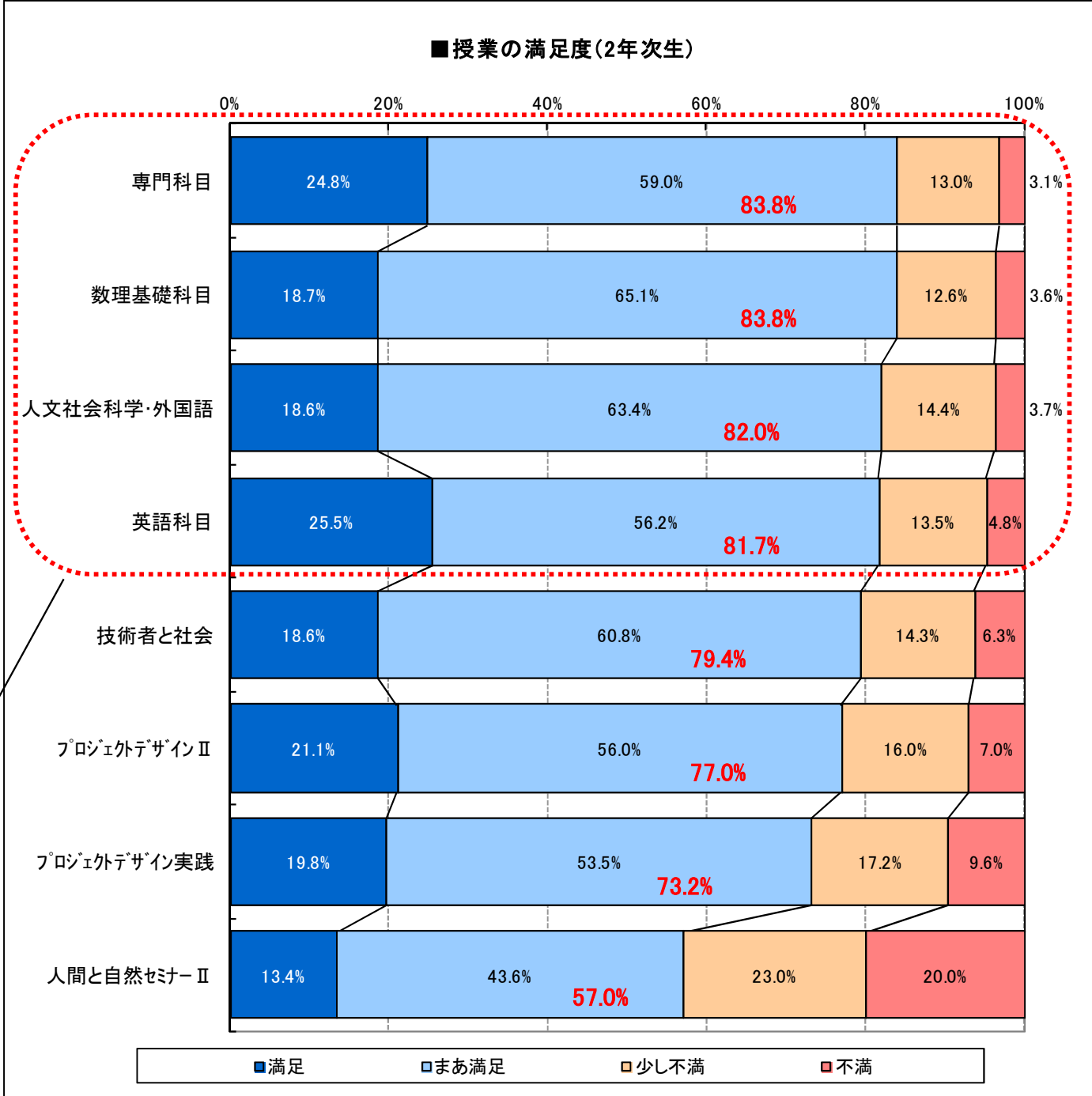
- 「1年次生」の授業満足度は、「数理基礎科目」と「人間と自然セミナー I」の2科目以外で8割を超えていた。
- 満足度が最も高かったのは「生涯スポーツ」の88.9%であり、次いで、「プロジェクトデザイン入門」が87.3%、「英語科目」が86.4%と続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「人間と自然セミナー I」の63.3%であり、「不満」が19.6%と多い点が特徴的であった。そして、「数理基礎科目」が73.4%で続いていた。



満足している層が8割以上

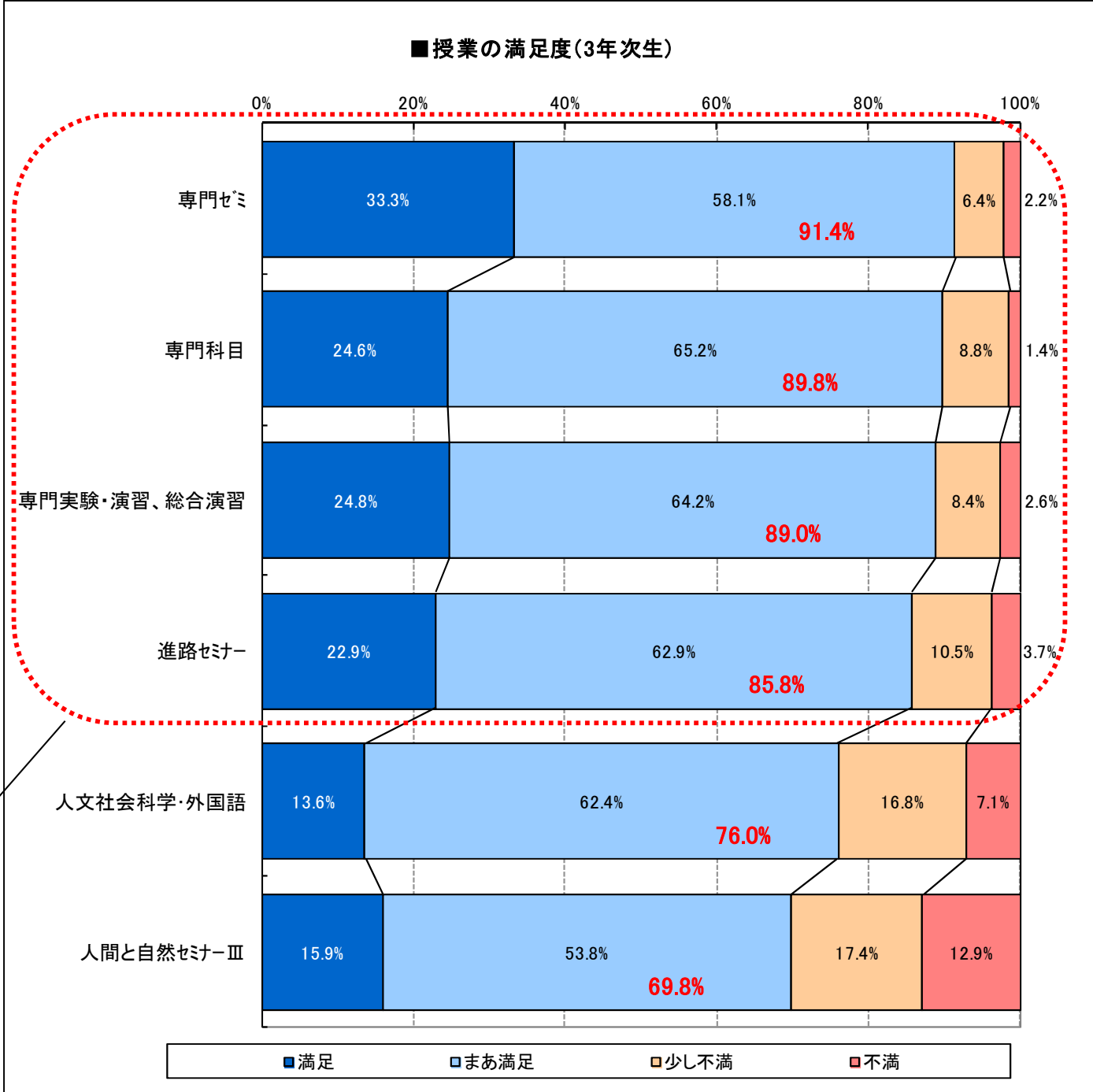
■授業の満足度 2年次生

- 「2年次生」の授業で最も満足度が高かったのは「専門科目」と「数理基礎科目」の83.8%であり、「人文社会科学・外国語」の82.0%、「英語科目」の81.7%と続いており、ここまでの4科目は満足度が8割を超えていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅡ」の57.0%であり、他の科目と比べて低さが目立っていた。そして、「プロジェクトデザイン実践」が73.2%、「プロジェクトデザインⅡ」が77.0%と続いていたが、これらの満足度は決して低いものではなかった。



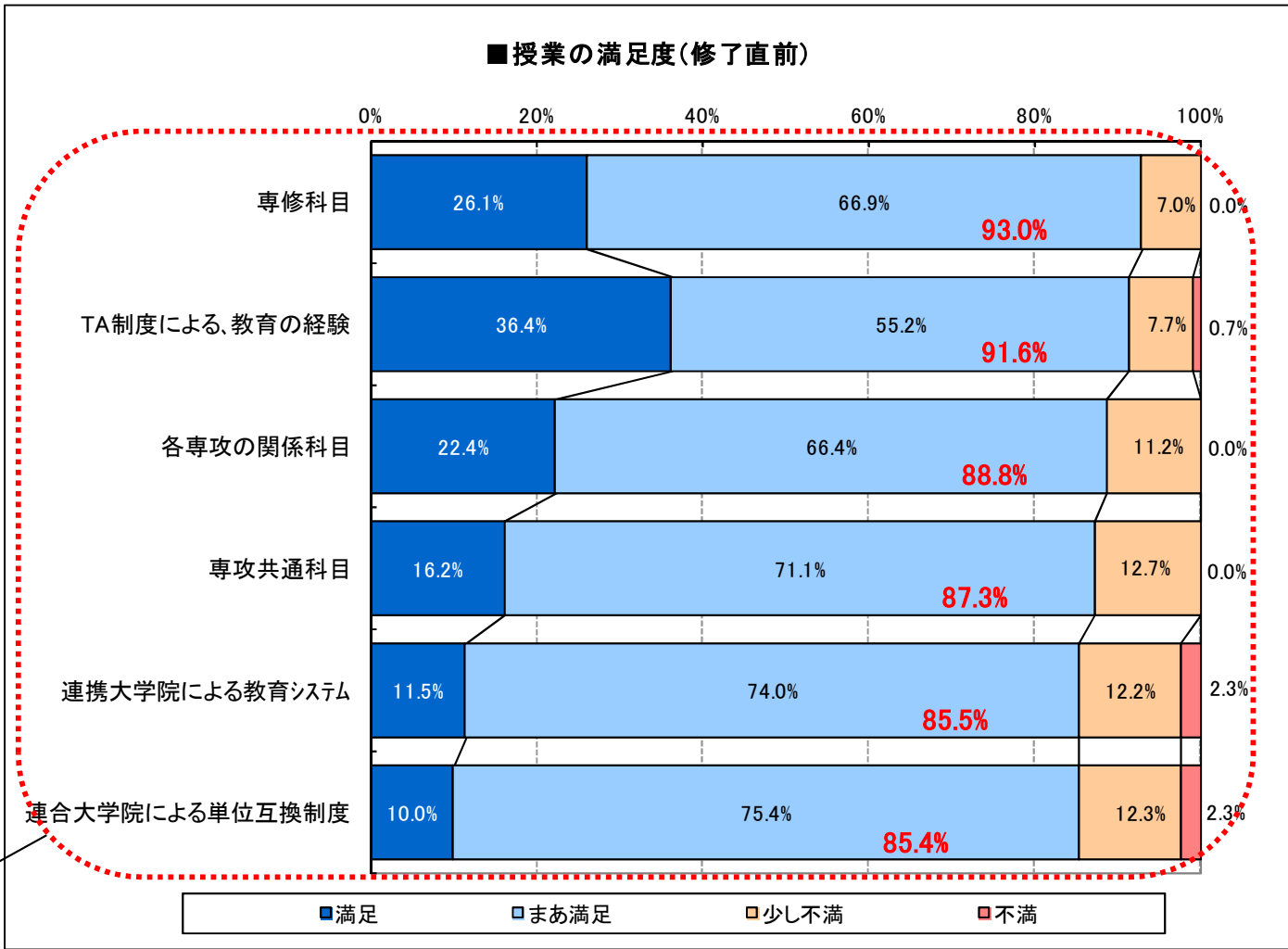
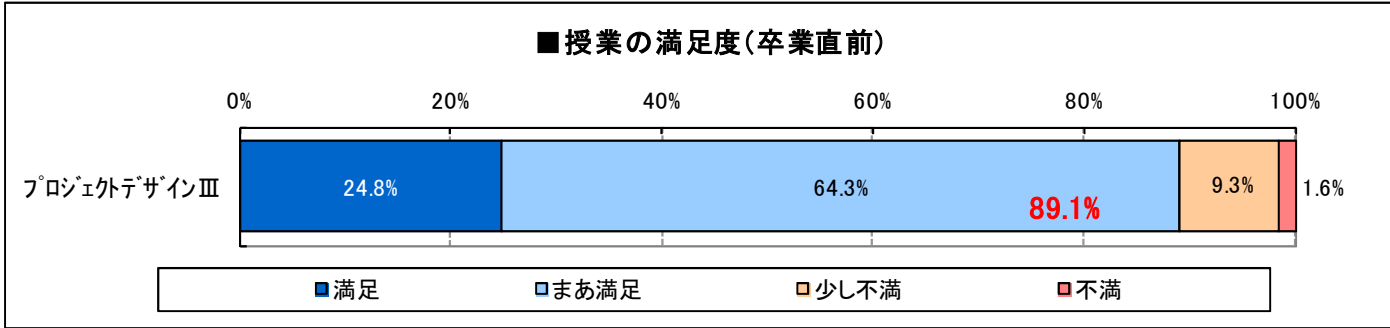
■授業の満足度 3年次生

- 「3年次生」の授業で最も満足度が高かったのは「専門ゼミ」の91.4%であり、「満足」が33.3%と多い点が特徴的であった。次いで、「専門科目」が89.8%、「専門実験・演習、総合演習」が89.0%、「進路セミナー」が85.8%と続き、ここまでの4科目では満足度が8割を超えており、専門系の科目の満足度の高さがうかがえた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「人間と自然セミナーⅢ」の69.8%であり、続いて「人文社会科学・外国語」が76.0%であった。



■授業の満足度 卒業・修了直前

- 「卒業直前」の授業満足度は「プロジェクトデザインⅢ」だけであるが、満足度は89.1%であった。
- 「修了直前」では全科目で満足度が8割を超えていた。中でも最も高かったのは「専修科目」の93.0%であり、「TA制度による、教育の経験」が91.6%で続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「連合大学院による単位互換制度」の85.4%だったが、決して低い満足度ではなかった。



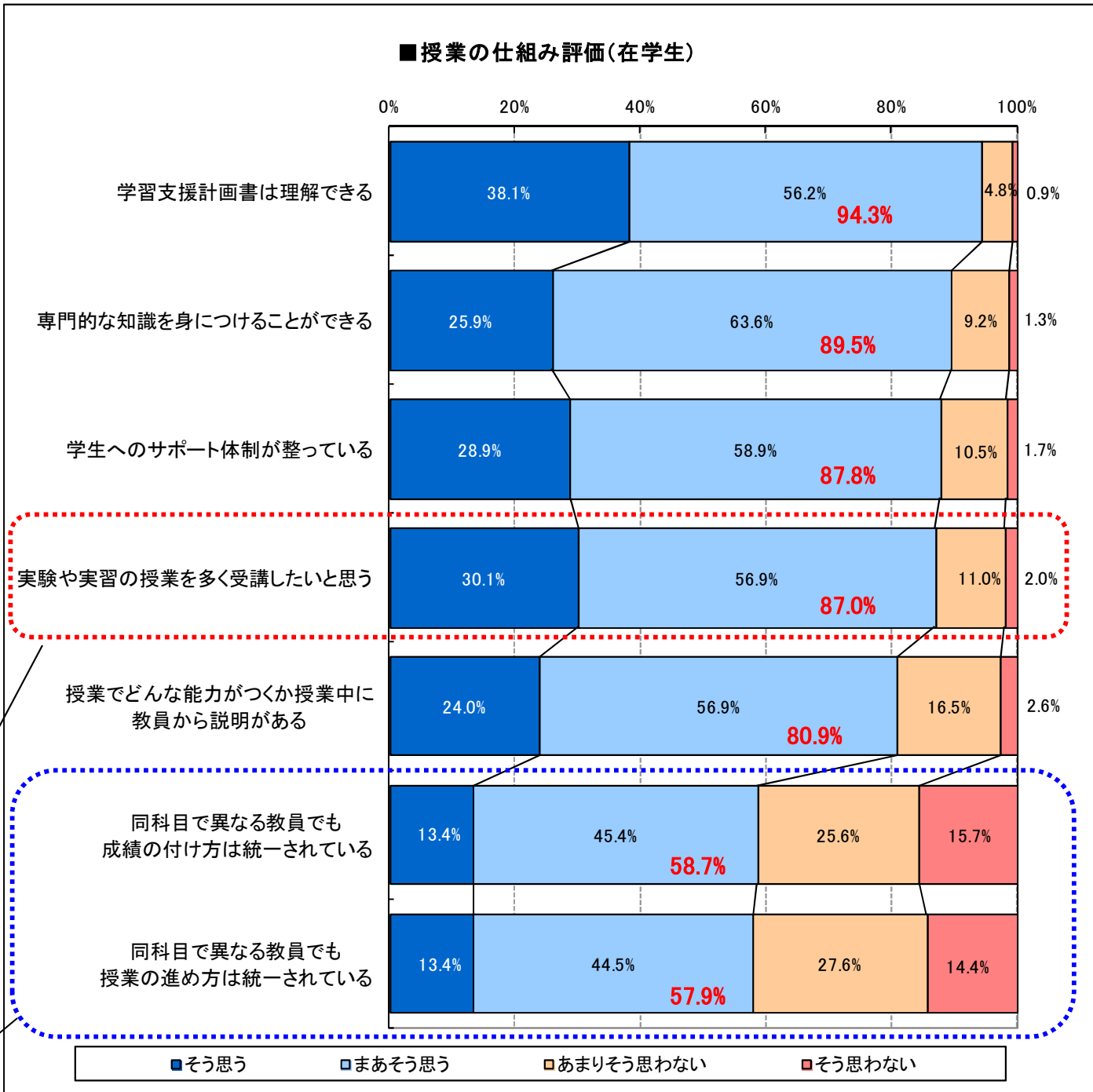
<5-2> 授業の仕組み評価

■ 授業の仕組み評価

- 授業の仕組みの評価には、現状の評価を聞く質問と要望を聞く質問が混在している。
- 現状の評価を聞く質問で「そう思う」と「まあそう思う」の合計が最も多かったのは「学習支援計画書は理解できる」の94.3%であり、「そう思う」が38.1%と多かった。次いで、「専門的な知識を身につけることができる」が89.5%、「学生へのサポート体制が整っている」が87.8%で続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「同科目で異なる教員でも授業の進め方は統一されている」の57.9%で、次いで、「同科目で異なる教員でも成績の付け方は統一されている」が58.7%となっており、「同科目で異なる教員の対応」に大きな不満を持っていることがわかった。
- 要望を聞く質問は「実験や実習の授業を多く受講したいと思うか？」と聞いているが、肯定的な回答が87.0%であり、強い要望が確認できた。

要望を聞く質問

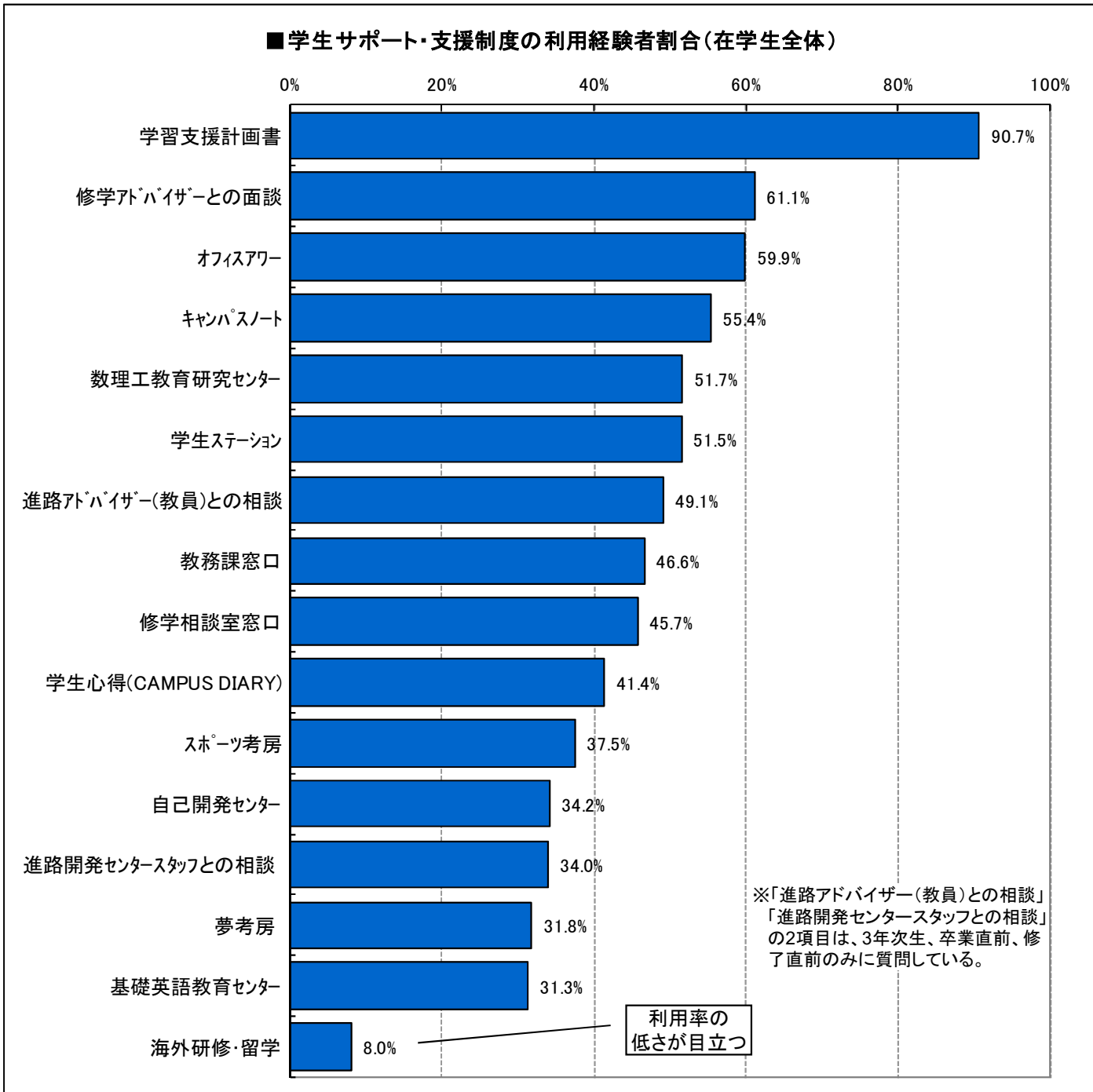
「同科目で異なる教員」の対応に大きな不満が見られる



<5-3> 学生サポート・支援制度の利用状況

■ 学生サポート・支援制度の利用経験者割合

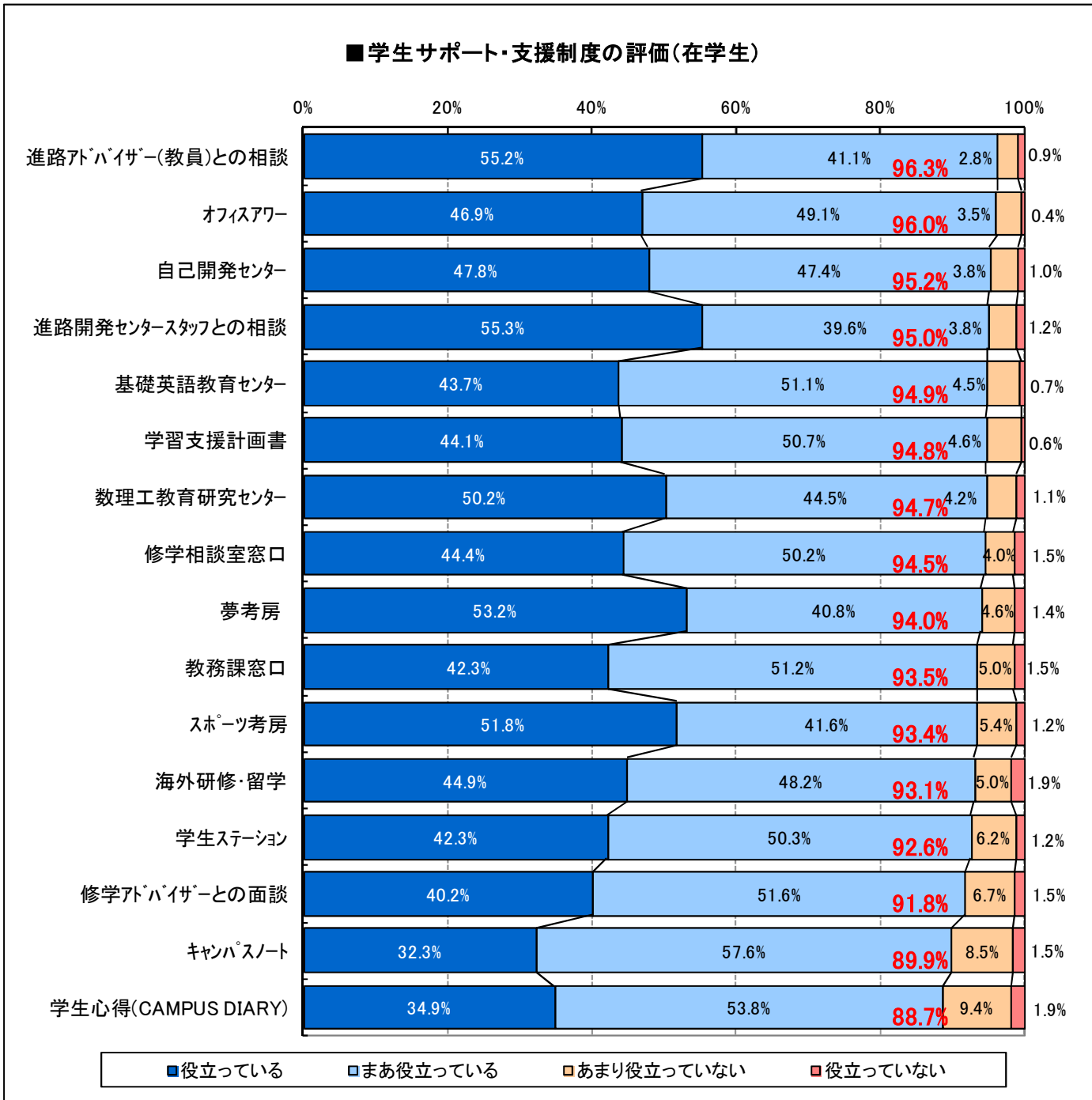
- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合を見たところ、最も多かったのは「学習支援計画書」の90.7%であり、他の項目とは大きな差がついていた。
- 上記に続いて、「修学アドバイザーとの面談」が61.1%、「オフィスアワー」が59.9%、「キャンパスノート」が55.4%と続いていた。
- 一方、利用経験者が最も少なかったのは「海外研修・留学」の8.0%であり、こちらは他の項目と比べて利用率の低さが目立っていた。



<5-4> 学生サポート・支援制度の評価

■ 学生サポート・支援制度の評価

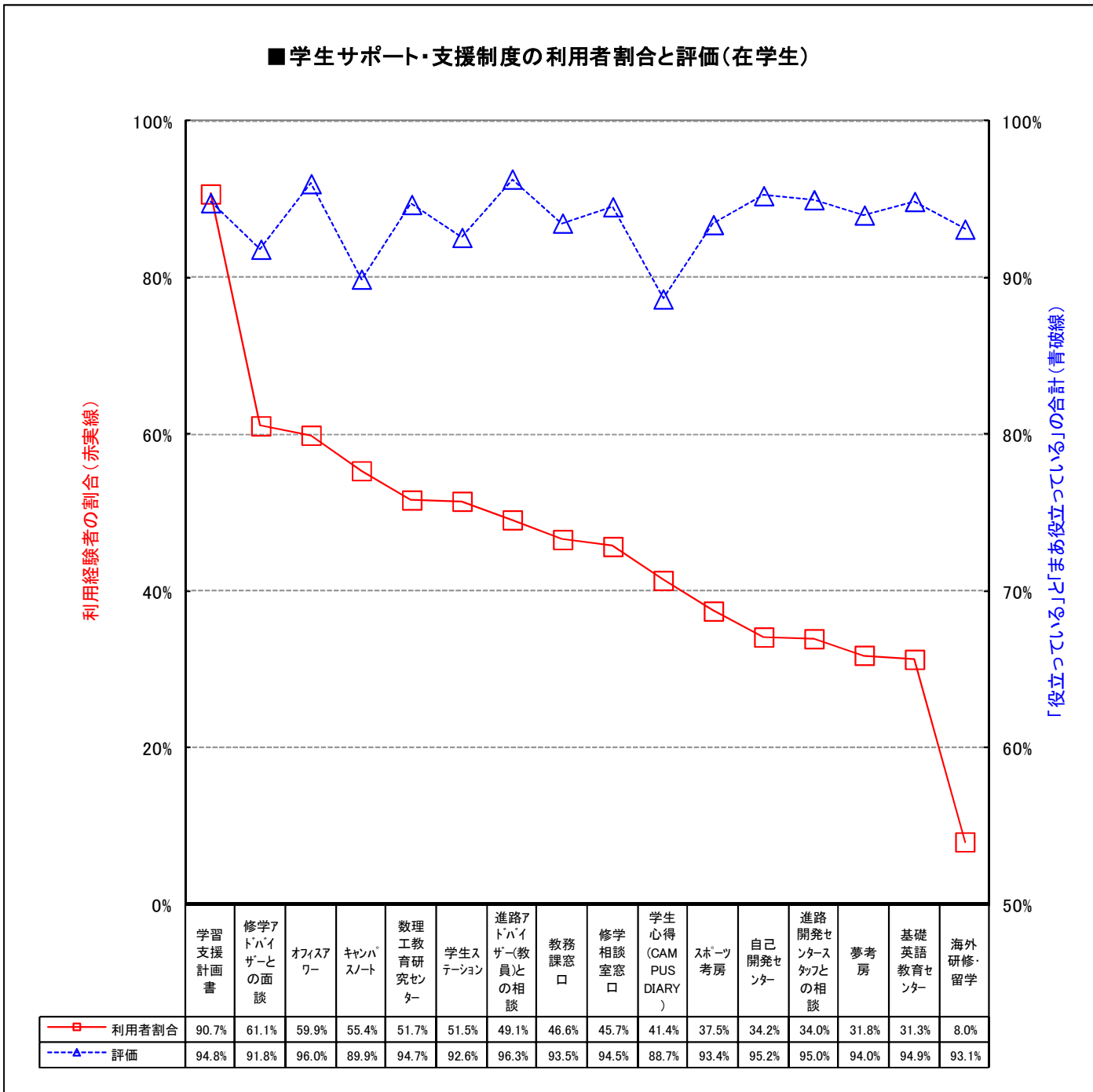
- 「学生サポート・支援制度」の利用者に対して、各々のサポート・支援策が役立っているかを聞いた。
- 肯定的な意見の合計を見ると、ほとんどの項目で9割以上となっており、評価は非常に高いと言える。
- 最も評価が高かったのは「進路アドバイザー（教員）との相談」であり、96.3%が肯定的な意見であった。次いで、「オフィスアワー」が96.0%、「自己開発センター」が95.2%と続いていた。
- 「役立っている」だけを見ると、「進路開発センタースタッフとの相談」が55.3%、「進路アドバイザー（教員）との相談」が55.2%、「夢考房」が53.2%であり、非常に高い評価をしている学生が多かった。
- 一方、最も評価が低かったのは「学生心得（CAMPUS DIARY）」の88.7%で、「キャンパスノート」が89.9%、「修学アドバイザーとの面談」が91.8%で続いていた。



<5-5> 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価

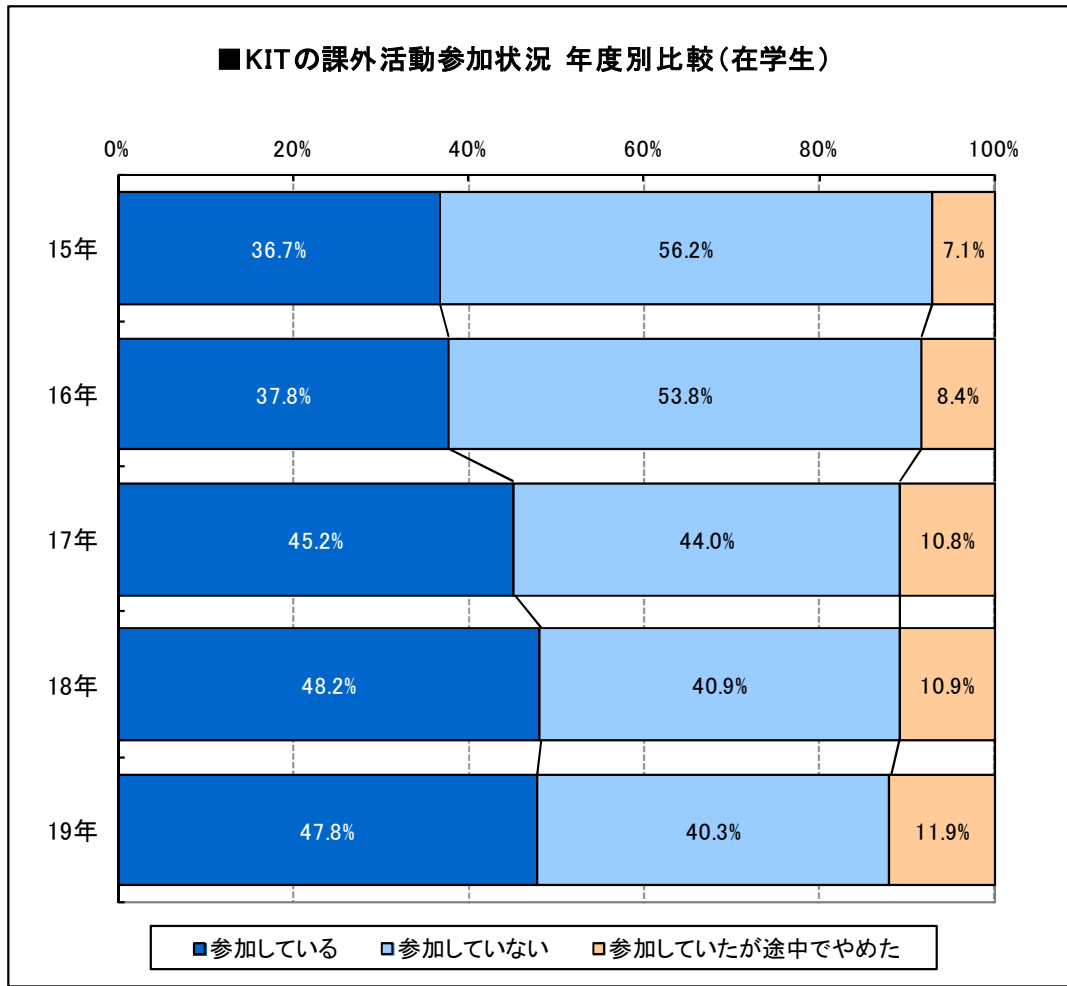
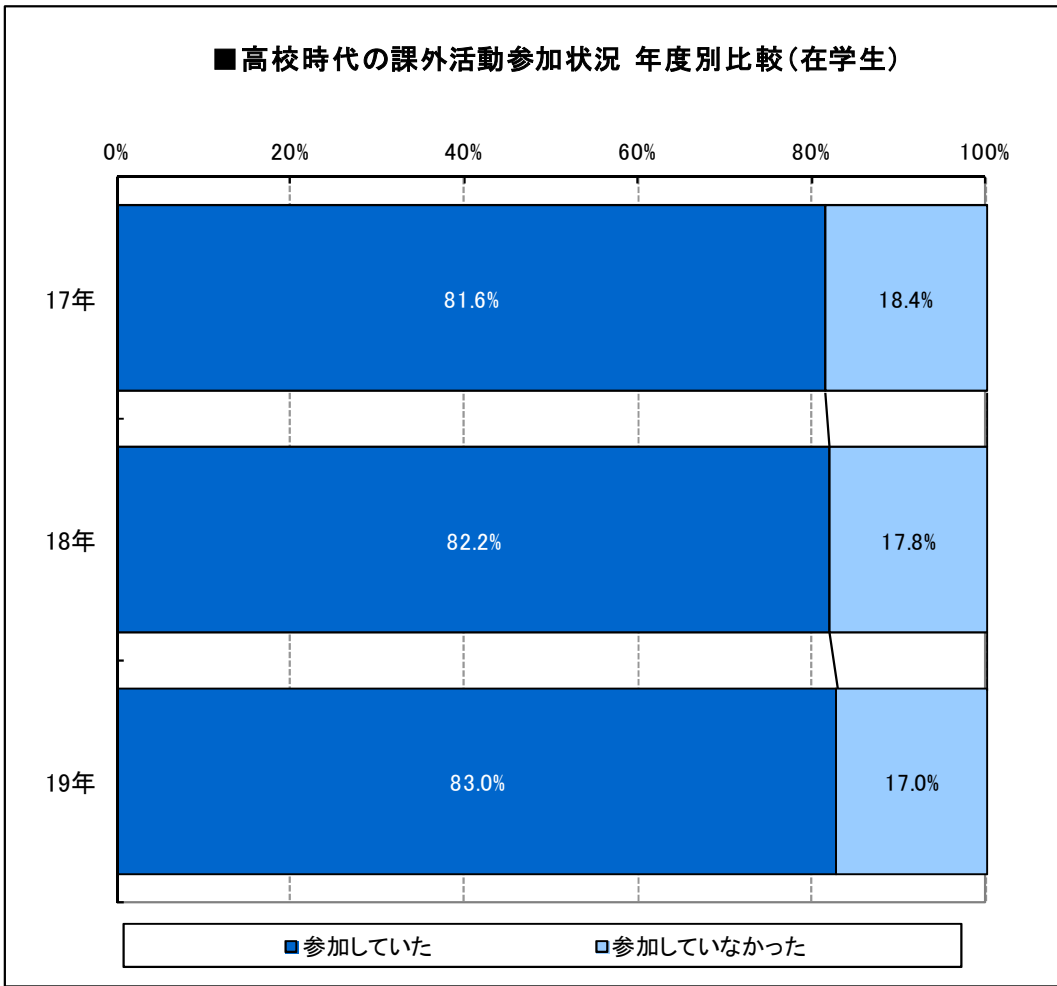
■ 学生サポート・支援制度の利用者割合と評価の比較

- 学生サポート・支援制度の利用経験者の割合と内容評価を1つのグラフにまとめた。赤い実線が利用経験者の割合で、グラフの左側の数値軸に対応しており、青い破線は「役立っている」と「まあ役立っている」の合計で、右の数値軸に対応している。
- 利用経験者の割合は、「学習支援計画書」の90.7%と、「海外研修・留学」の8.0%が突出しており、全体としては非常に大きな差がついていた。しかし、評価を見るとほとんどの項目で9割以上が肯定的な評価であり、利用者の多少に関わらず、各々の評価は非常に高いことが確認できた。



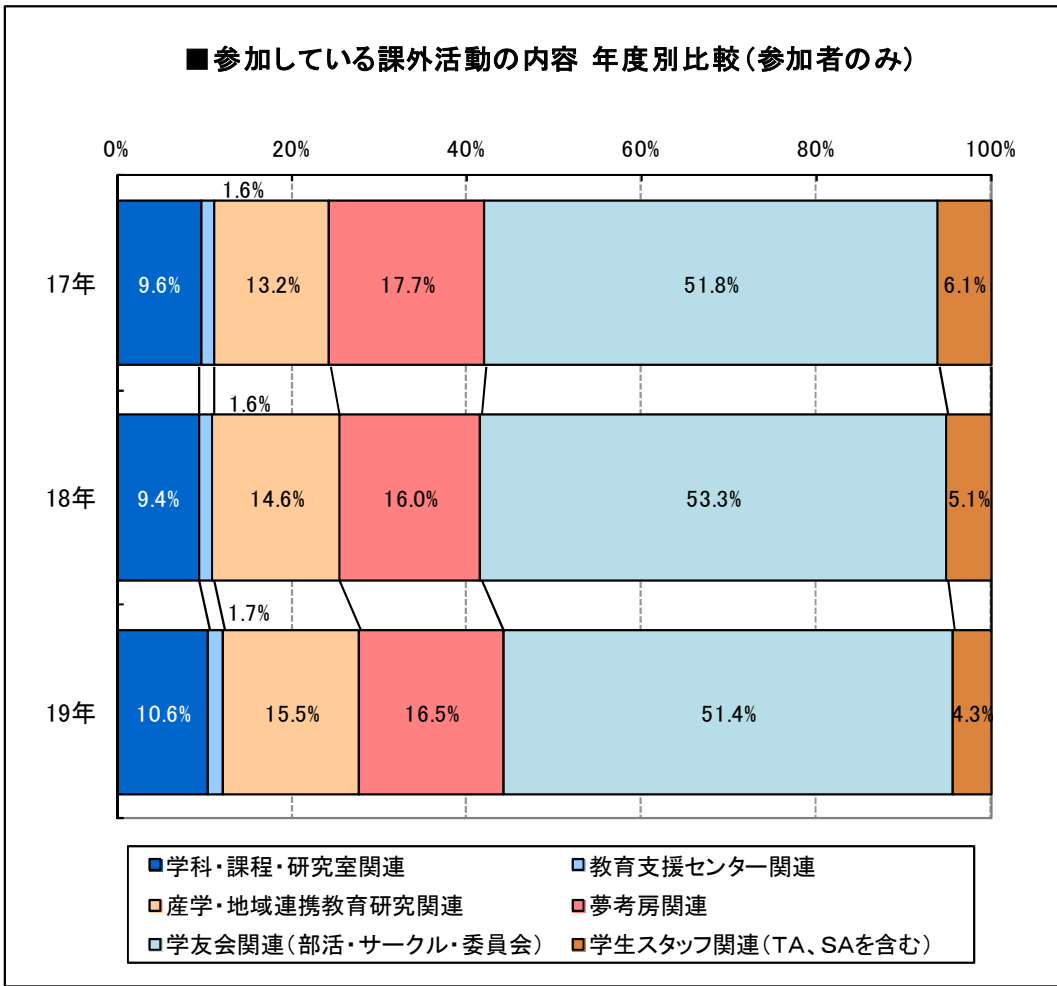
■ 高校時代の課外活動参加状況、KITの課外活動の参加状況

- 高校時代の課外活動の参加状況は、「参加していた」が83.0%で前回は0.8ポイント上回っていた。
- KITでの課外活動への参加状況は、「参加している」が47.8%で前回は0.4ポイント下回っており、「参加していない」も前回は0.6ポイント下回って40.3%となっていた。前回は上回ったのは「参加していたが途中でやめた」だけであり、前回は1.0ポイント上回って11.9%であった。



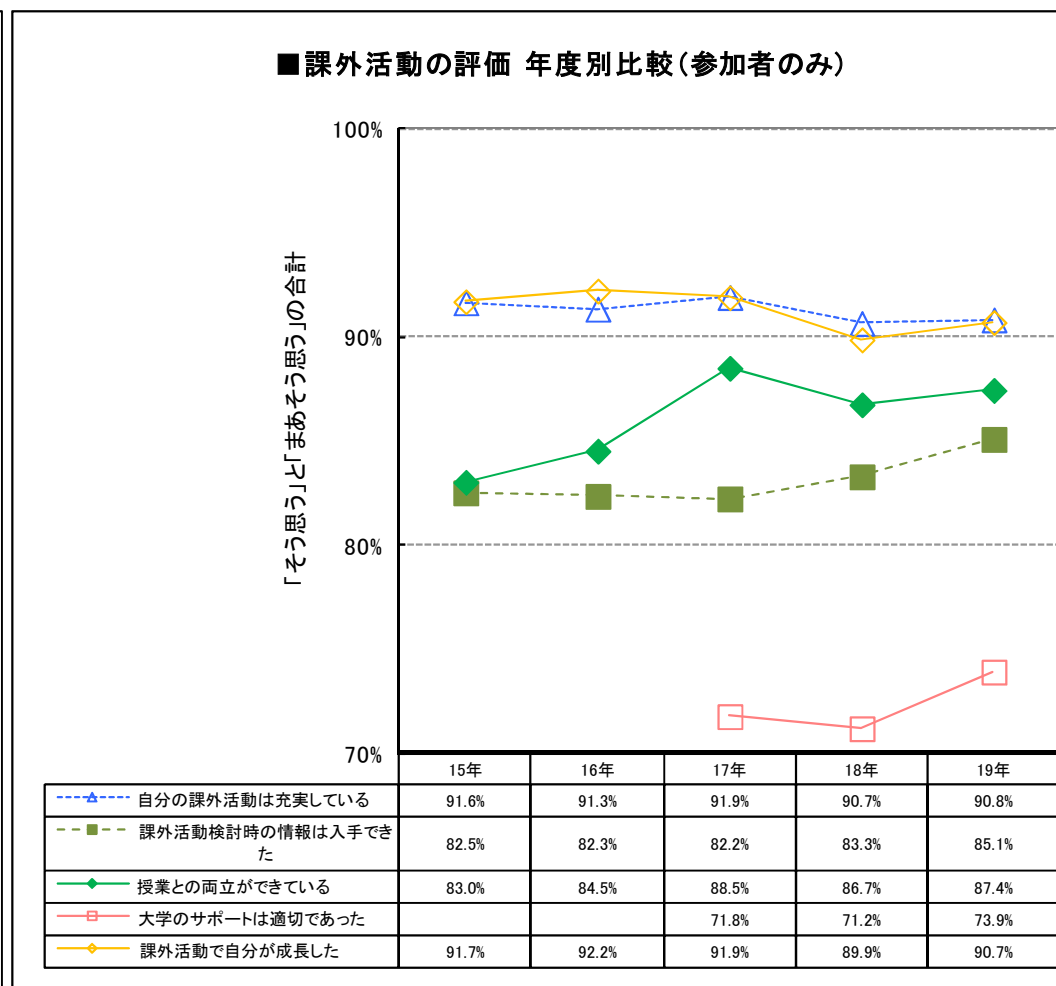
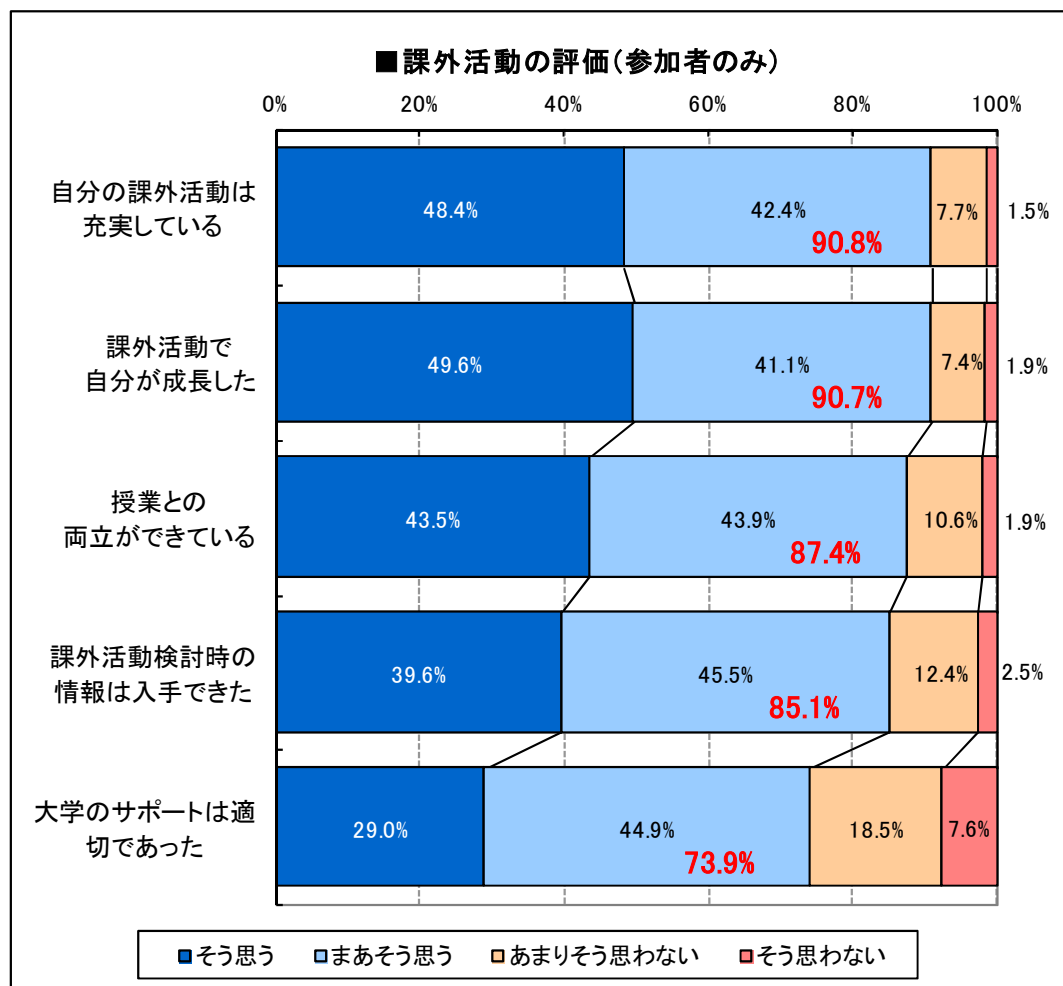
■ 課外活動の内容

- 現在参加している課外活動の内容で最も多かったのは「学友会関連(部活・サークル・委員会)」の51.4%であり、次いで「夢考房関連」が16.5%、「産学・地域連携教育研究関連」が15.5%、「学科・課程・研究室関連」が10.6%で続いていた。
- 前回と比較してあまり大きな変化は見られなかったが、「学友会関連(部活・サークル・委員会)」がわずかに減少し、「学科・課程・研究室関連」「産学・地域連携教育研究関連」「夢考房関連」が増加していた。



■ 課外活動の評価 年度別比較

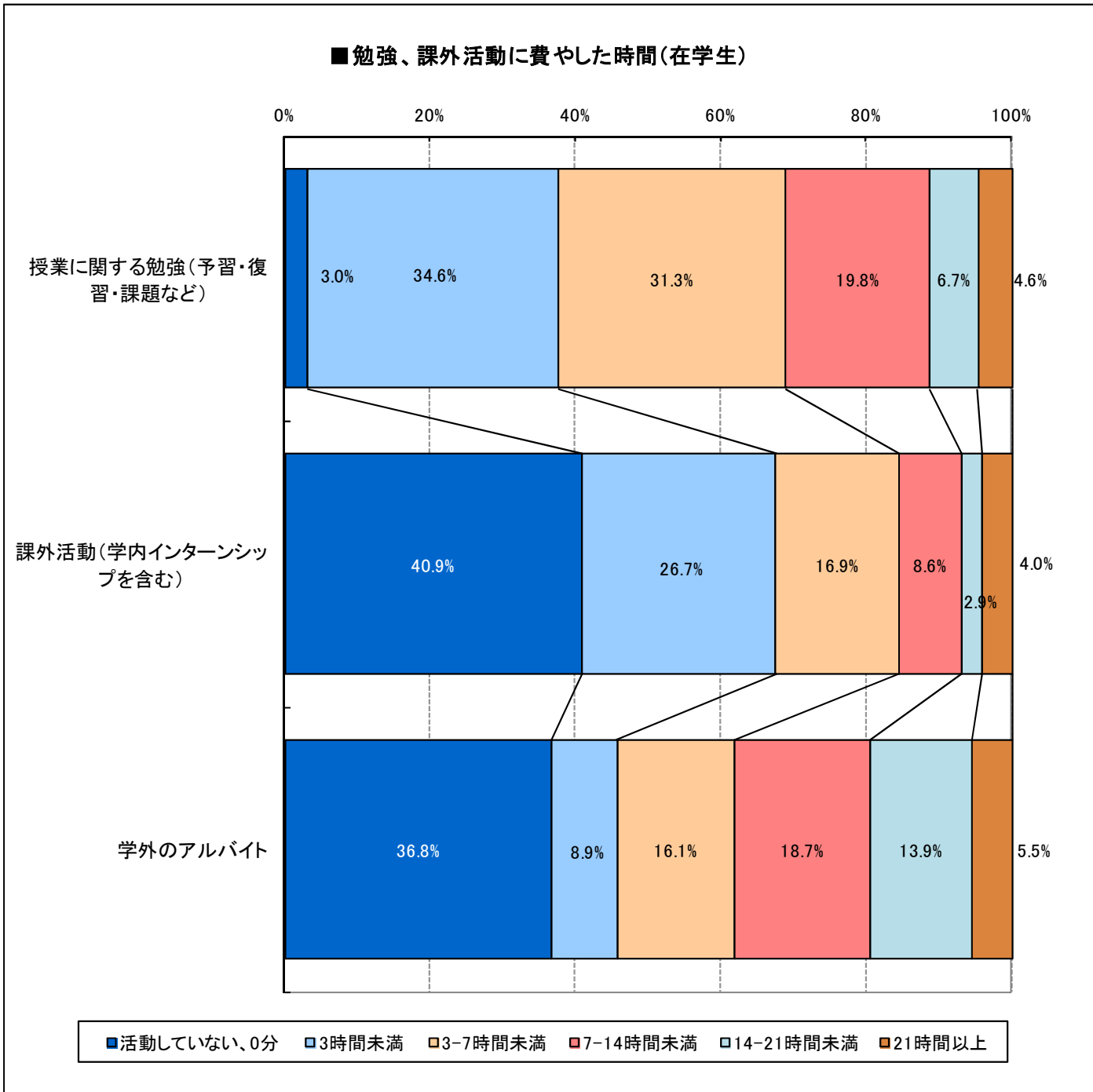
- 課外活動の内容の評価を聞いたところ、「自分の課外活動は充実している」では90.8%、「課外活動で自分が成長した」では90.7%が肯定的な意見であり、非常に充実している様子が見えられた。
- 上記に次いで、「授業との両立ができている」では87.4%、「課外活動検討時の情報は入手できた」では85.1%、「大学のサポートは適切であった」では73.9%が肯定的な意見であり、大きな不満は感じていないようであった。
- 年度別の比較を見ると全項目で横這いから上向きとなっていた。そして、「課外活動検討時の情報は入手できた」と「大学のサポートは適切であった」の2項目は過去最高の評価であった。



<7-1>勉強、課外活動に費やした時間

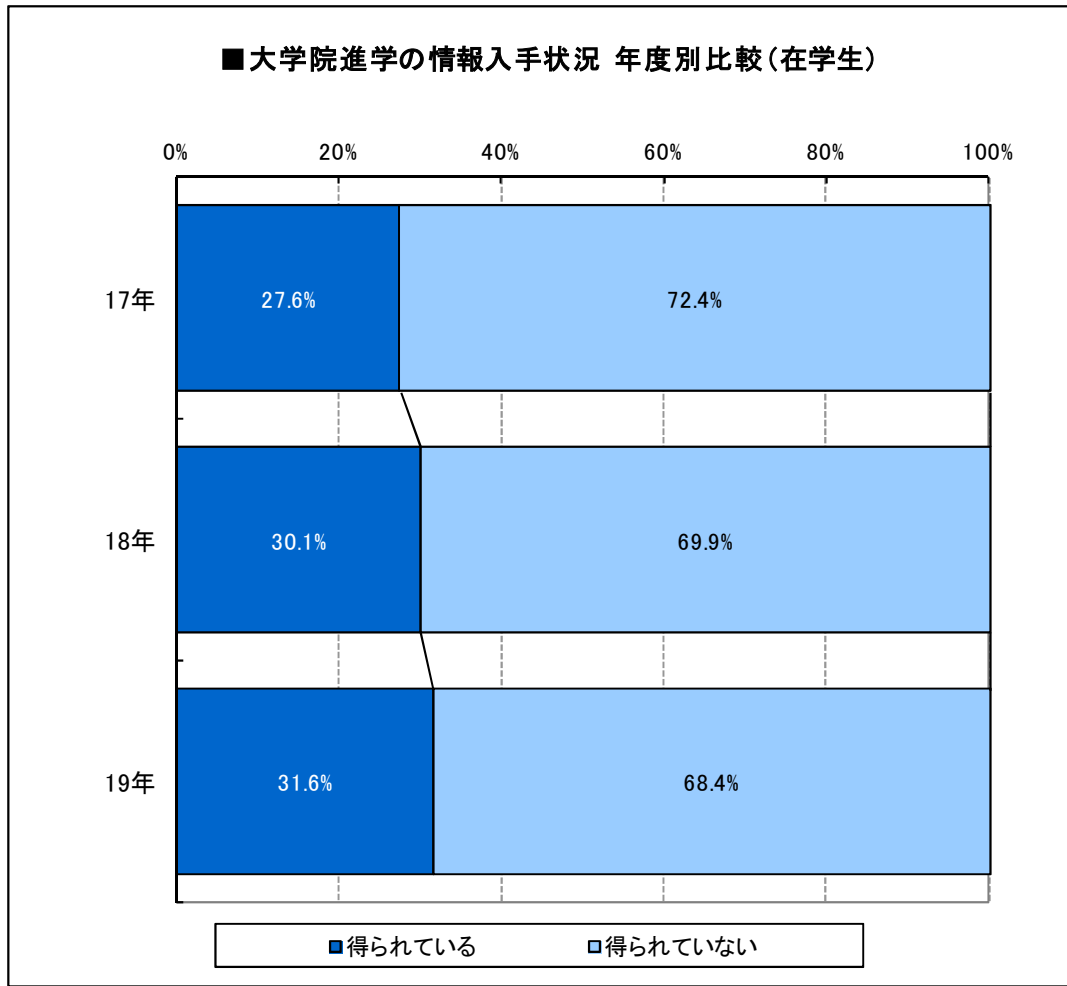
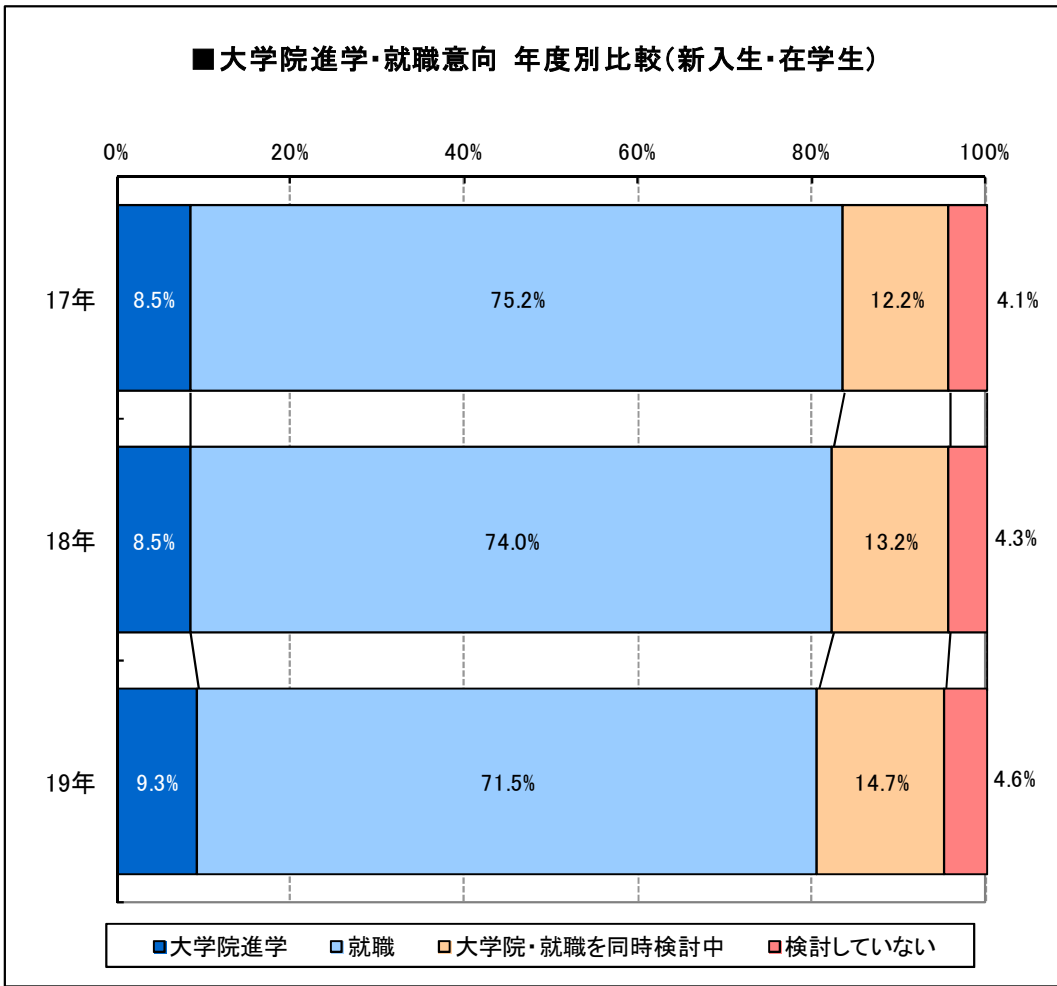
■勉強、課外活動に費やした時間

- 勉強、課外活動に費やした時間は、普段の1週間の生活の中で費やした時間(1週間の合計)を聞いている。
- 「授業に関する勉強」では「活動していない、0分」が3.0%、「3時間未満」が34.6%、「3-7時間未満」が31.3%であり、ここまでの合計は68.9%であった。そして、これ以降の7時間以上(1日に1時間以上)の合計は31.1%であった。
- 「課外活動」では「活動していない、0分」が40.9%と非常に多い点特徴的であった。そして、「3時間未満」が26.7%、「3-7時間未満」が16.9%であり、ここまでの合計は84.5%であり、これ以降の合計は15.5%であった。
- 「学外のアルバイト」では、「活動していない、0分」という、アルバイトをしていない学生が36.8%であった。そして、「3時間未満」が8.9%、「3-7時間未満」が16.1%であった。そして、これ以降の合計は38.1%であり、「授業に関する勉強」の同じ時間帯の合計を7.0ポイント上回っていた。



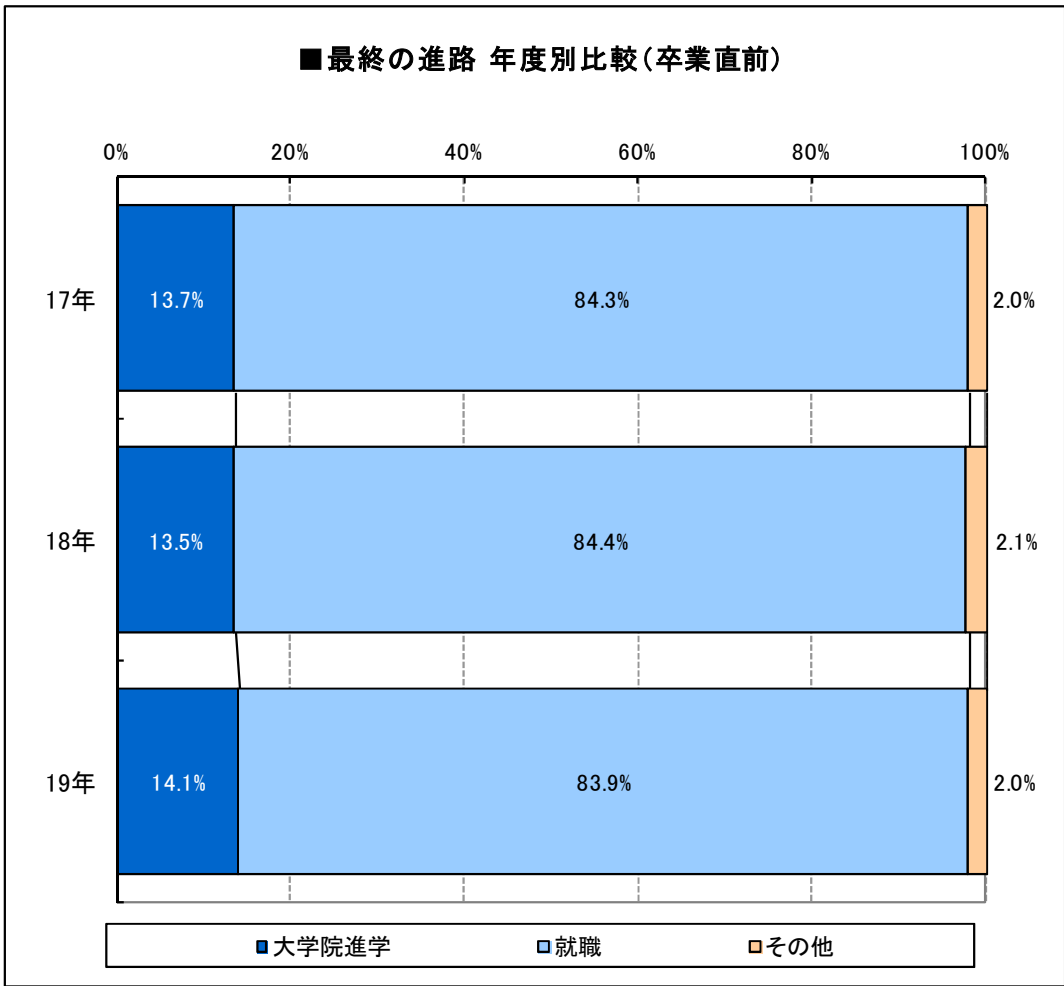
■大学院進学・就職意向、情報の入手状況

- 「大学院進学・就職意向」に関しては、「就職」が71.5%であり、前回は2.5ポイント下回っていた。そして、「大学院進学」は前回は0.8ポイント上回って9.3%、「大学院・就職を同時検討中」も前回は1.5ポイント上回って14.7%となっていた。
- 「大学院進学への情報は得られていますか？」という問いに対しては、「得られている」が31.6%で前回は1.5ポイント上回り、情報の入手状況はわずかに改善されていた。ただし、「得られていない」が68.4%であり、十分とは言えない状況であった。



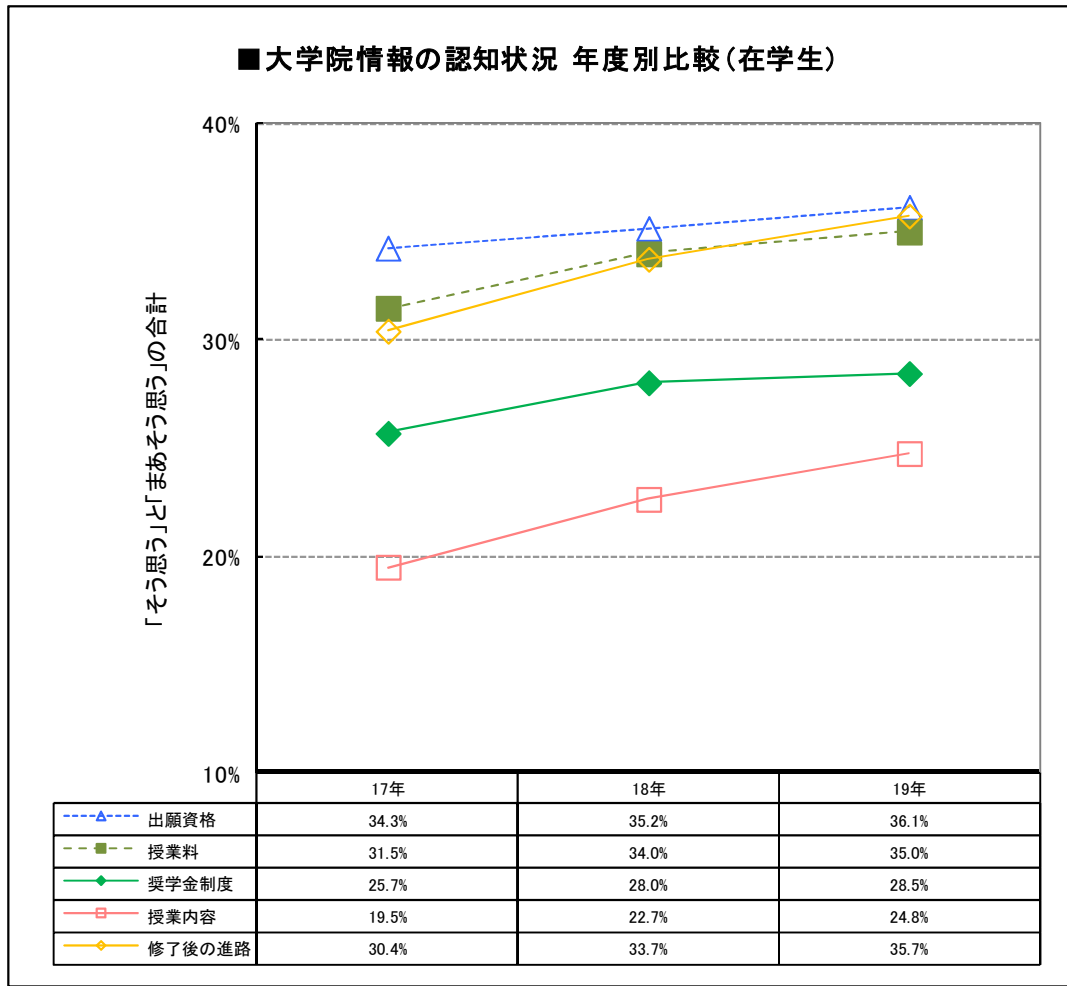
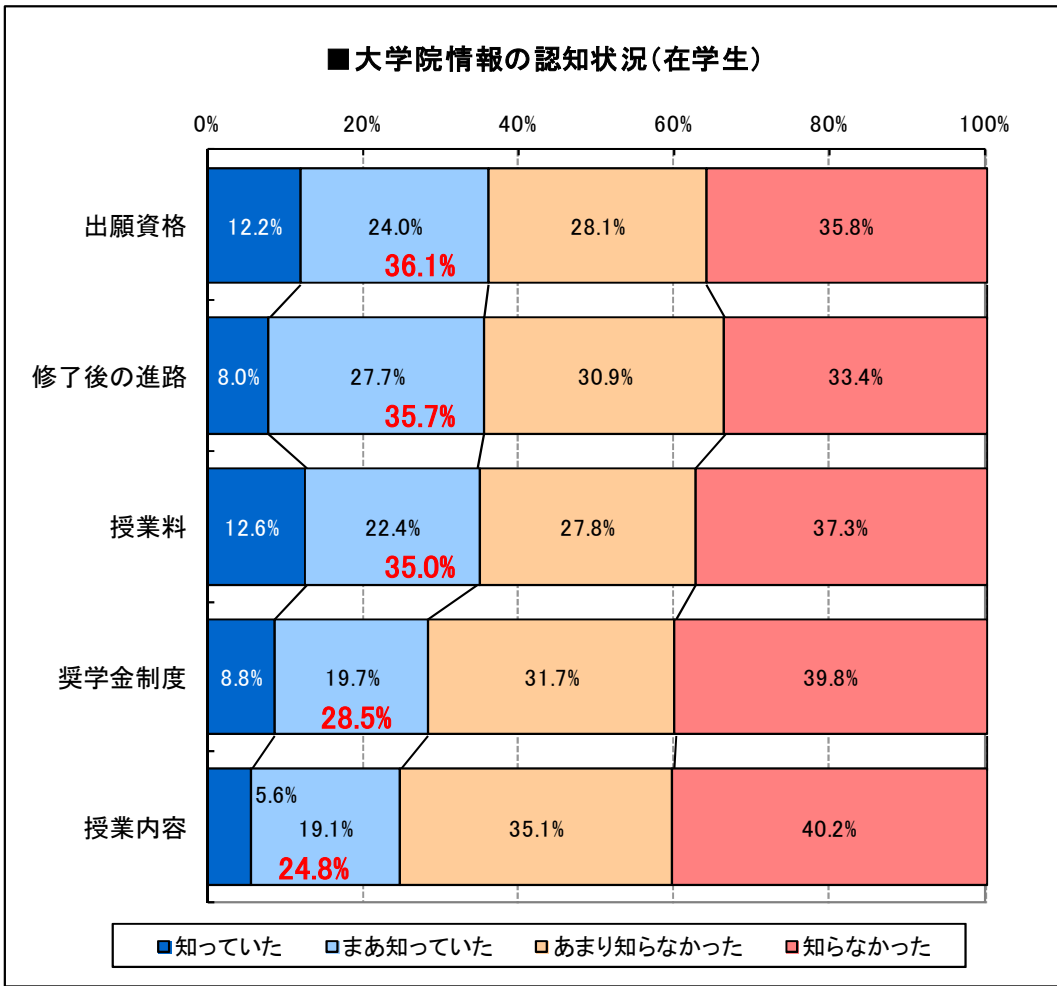
■最終の進路

● 「卒業直前」に対して「最終の進路」を聞いたところ、「大学院進学」が14.1%、「就職」が83.9%、「その他」が2.0%であり、17年からほとんど変化は見られなかった。



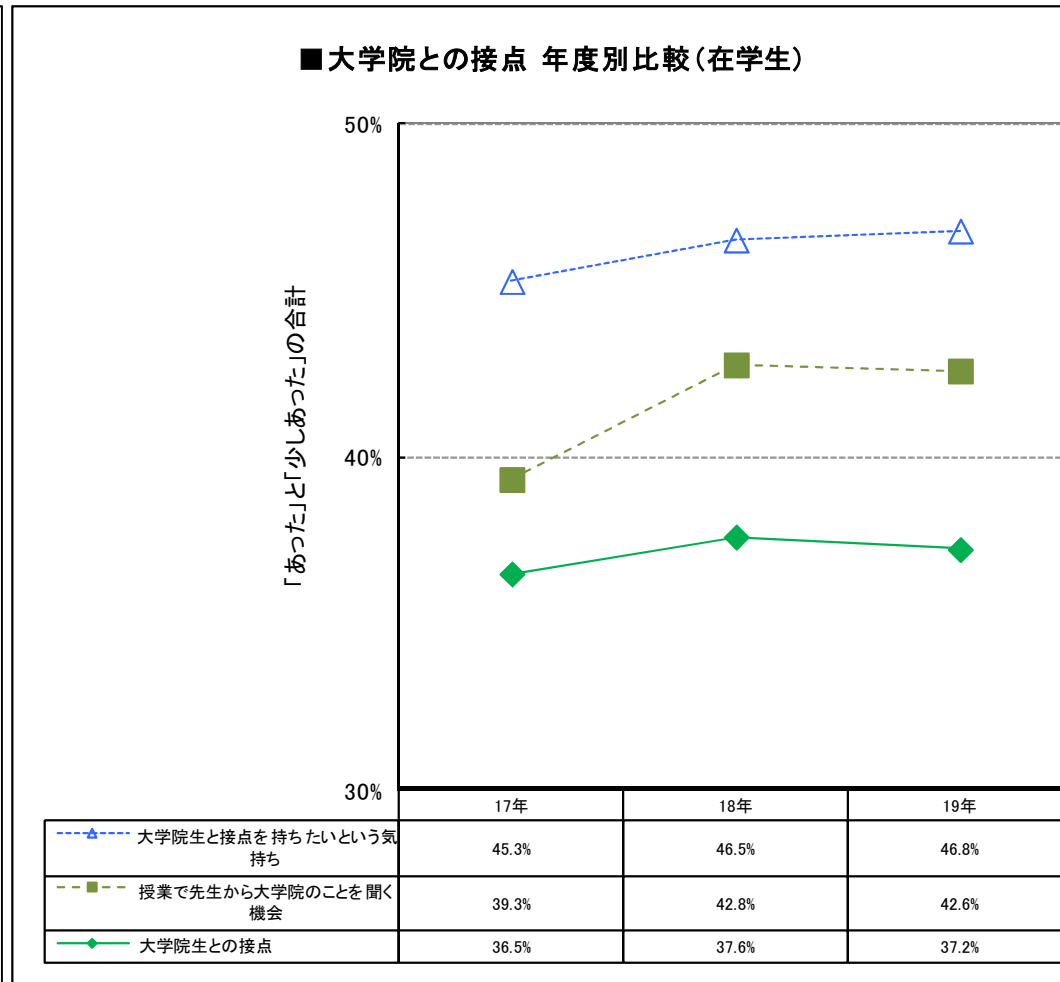
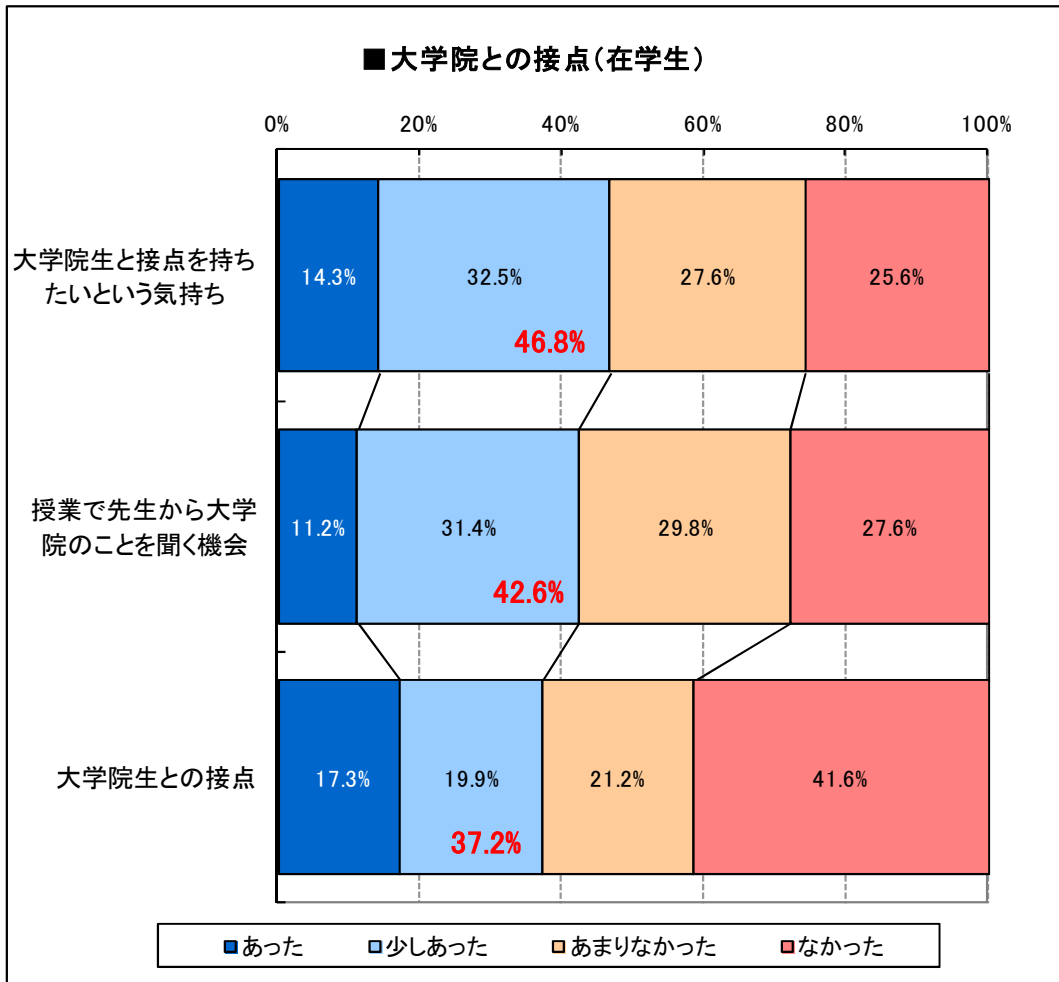
■ 大学院情報の認知状況

- 「大学院進学に関する情報や現状の認知状況」を肯定的な意見の合計で比較すると、「出願資格」の認知度が36.1%で最も高く、次いで「修了後の進路」が35.7%、「授業料」が35.0%、「奨学金制度」が28.5%、「授業内容」が24.8%と続いており、5項目ともに高い認知度とは言えない数値であった。
- 肯定的な意見の合計で年度別の比較をしたところ、すべての項目で前回は上回り、改善は進んでいるようであった。ただし、向上はわずかであり、最も上がった「授業内容」でも2.1ポイントの向上であった。



■大学院との接点

- 大学院との接点に関して肯定的な意見の合計を見ると、「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」では46.8%と、半数近くが肯定的な意見であった。そして、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」では42.6%、「大学院生との接点(があった)」では37.2%が肯定的な意見であり、4割前後が大学院を身近に感じているようであった。
- 年度別に比較すると、変化の幅は非常に小さかったものの、「大学院生と接点を持ちたいという気持ち」はわずかに増加して要望は大きくなってきているものの、「授業で先生から大学院のことを聞く機会」と「大学院生との接点」という実際の接点はわずかに減少していた。

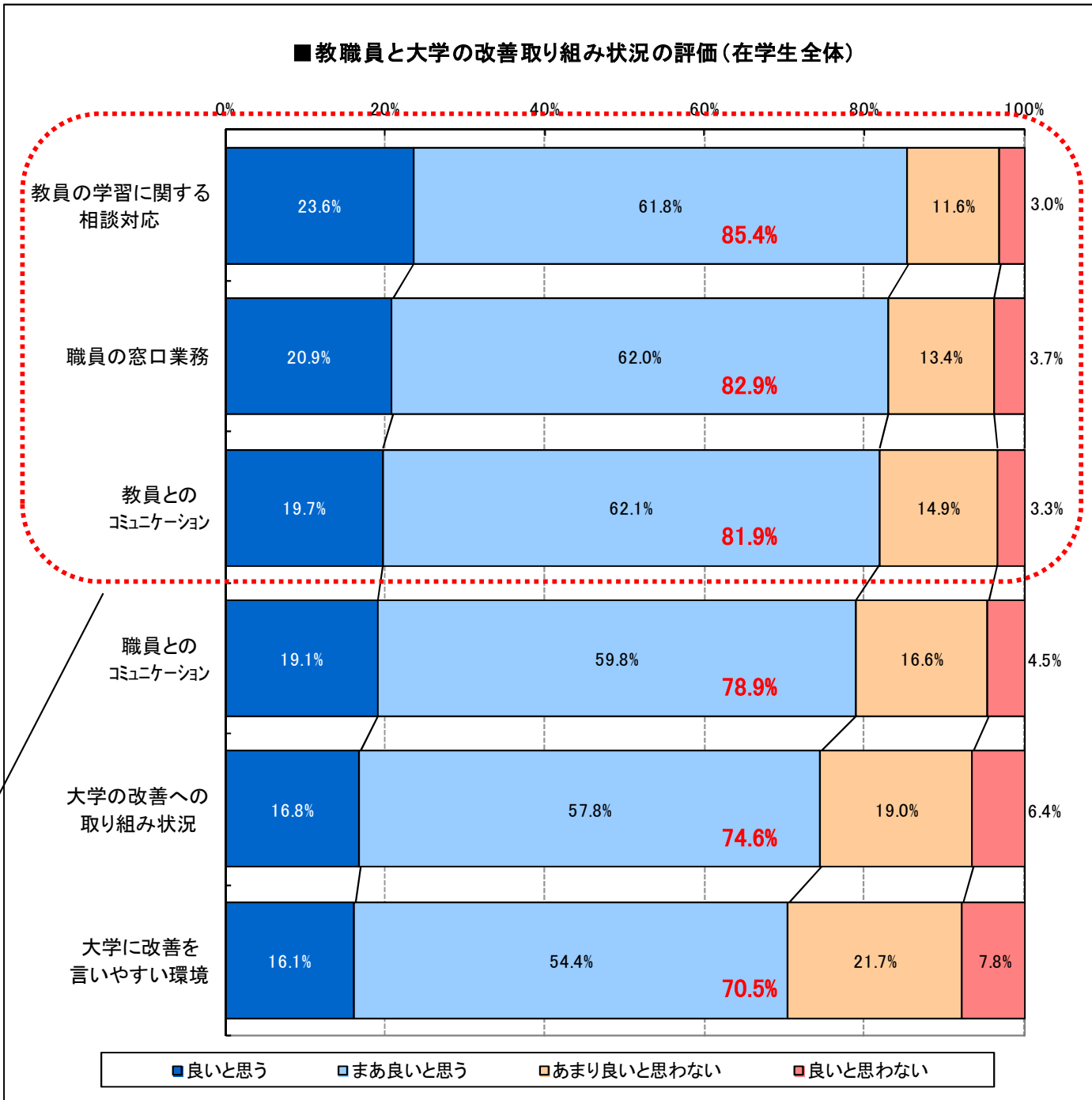


<9-1>教職員と大学の改善取り組み状況の評価

■教職員と大学の改善取り組み状況の評価

- 教職員と大学の改善への取り組み状況の評価で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「教員の学習に関する相談対応」の85.4%であり、「職員の窓口業務」が82.9%、「教員とのコミュニケーション」が81.9%と続いており、ここまでの3項目では8割以上の学生が満足していた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「大学に改善を言いやすい環境」の70.5%だったが、それほど厳しい評価ではなかった。次いで、「大学の改善への取り組み状況」が74.6%、「職員とのコミュニケーション」が78.9%であり、これらに関しては2～3割の学生が不満を持っていた。

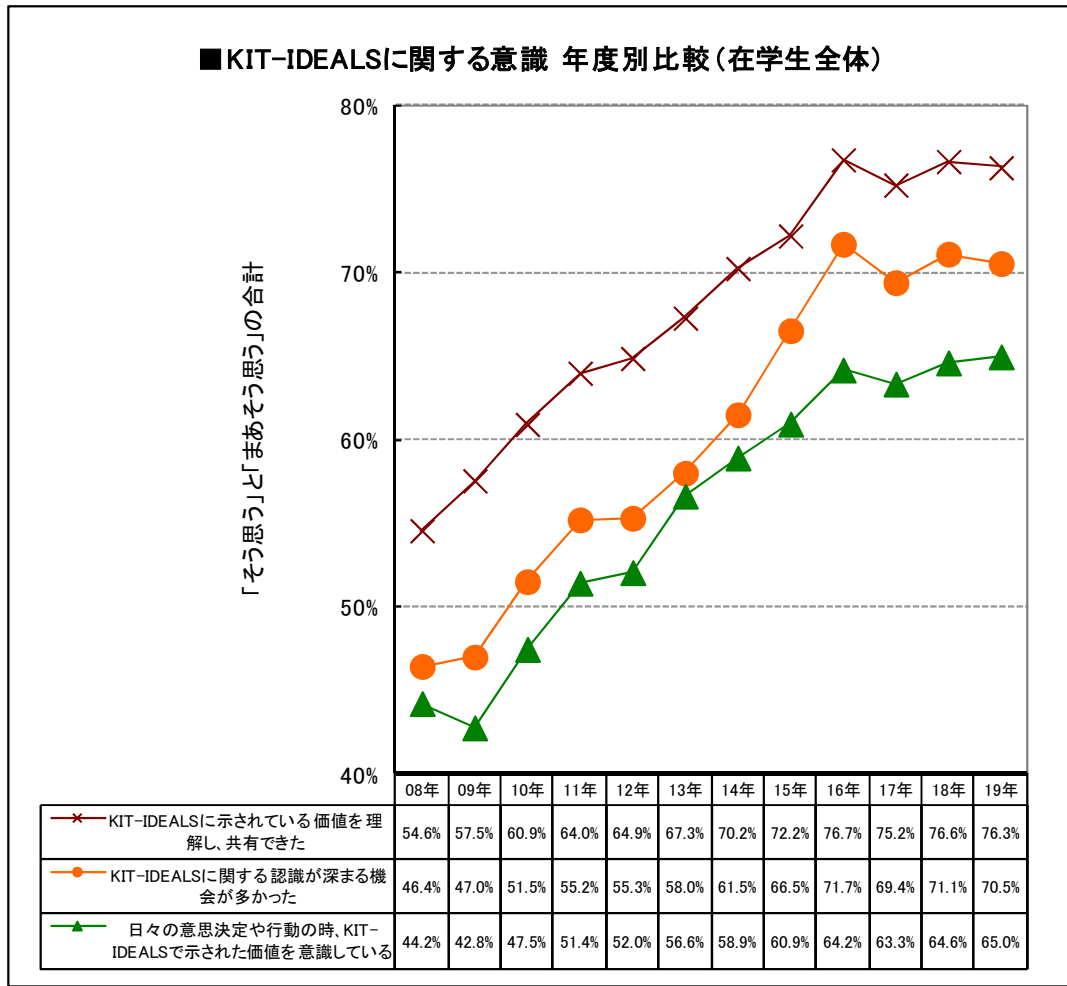
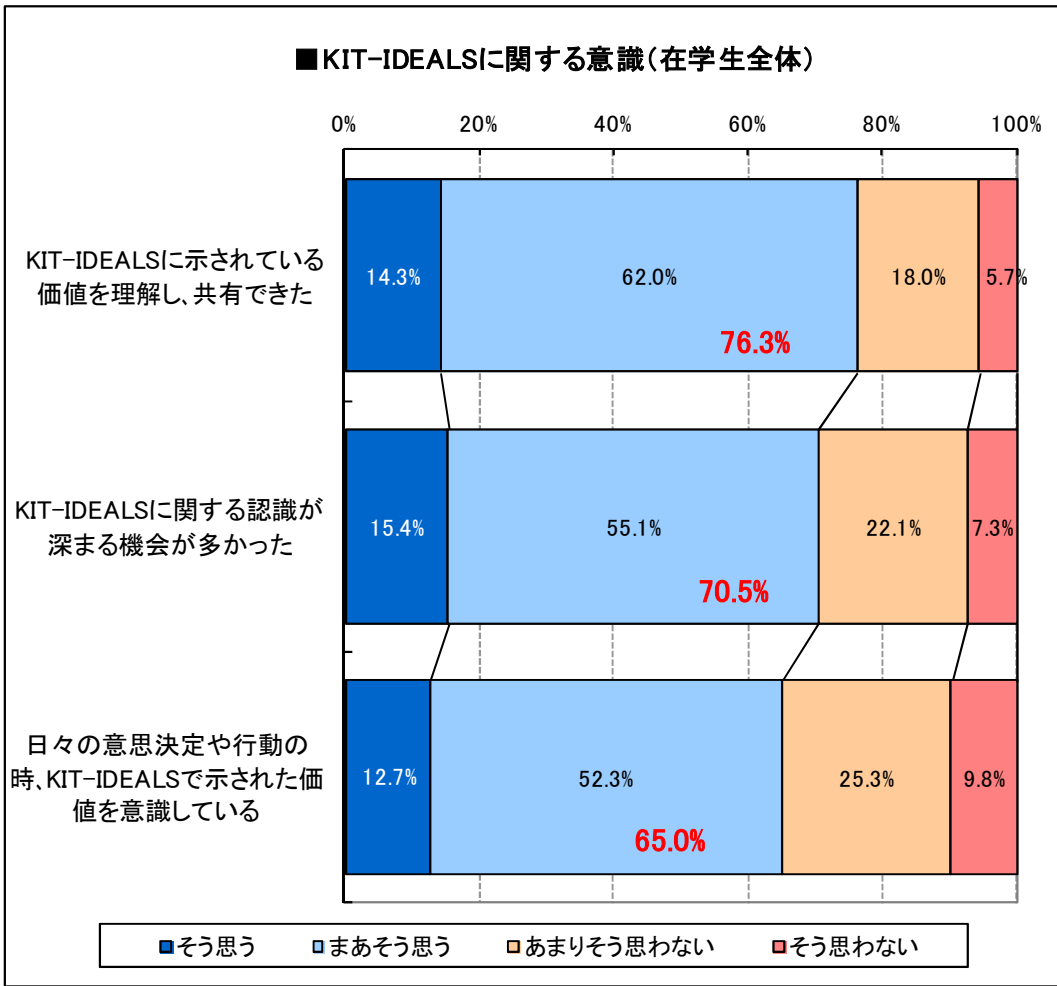
良い評価が8割以上



<10-1> KIT-IDEALSに関する意識

■KIT-IDEALSに関する意識、年度別比較

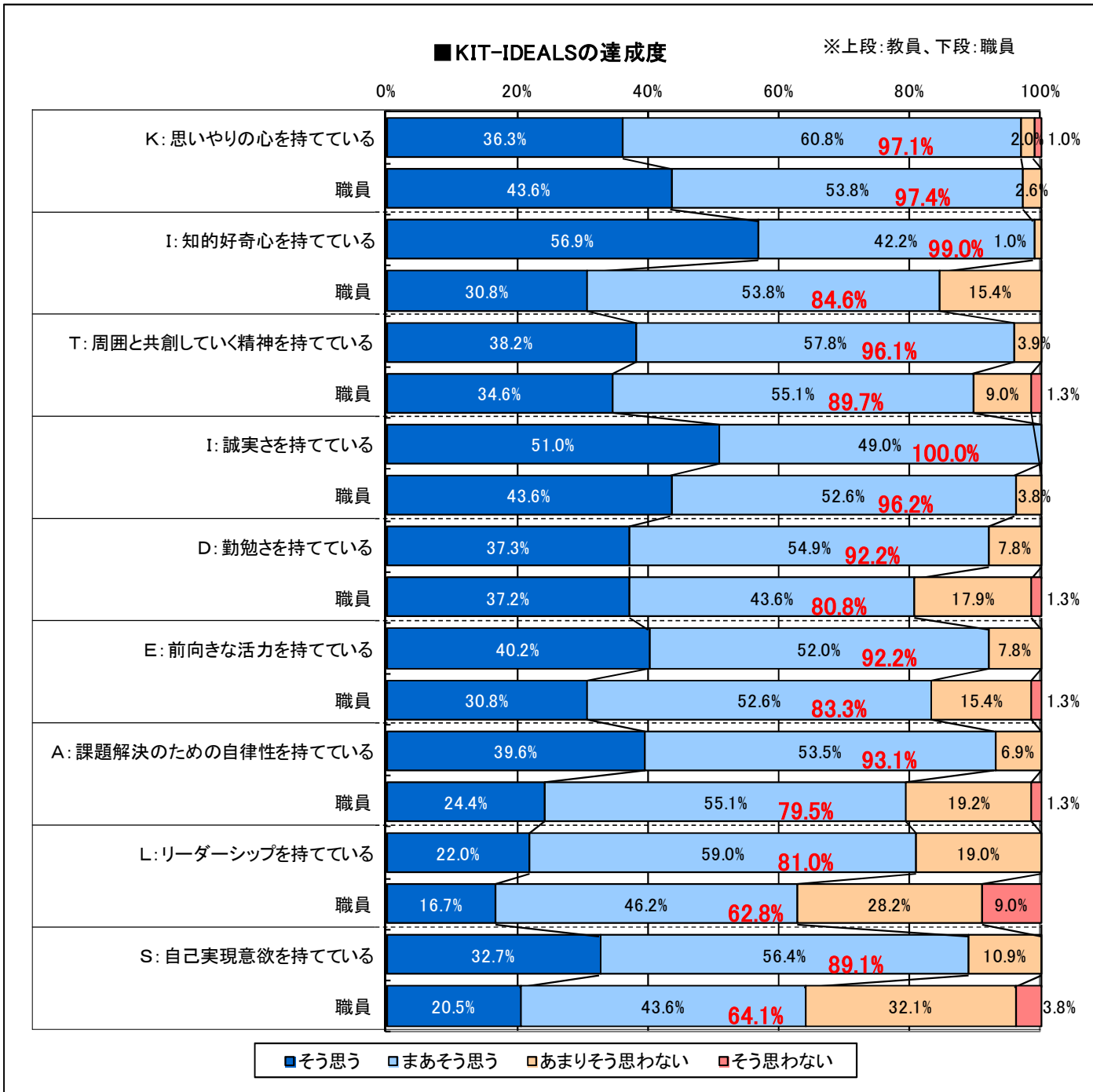
- 在学生のKIT-IDEALSに関する意識を見ると、肯定的な意見が最も多かったのは「KIT-IDEALSに示されている価値を理解し、共有できた」の76.3%で、続いて「KIT-IDEALSに関する認識が深まる機会が多かった」の70.5%、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」の65.0%であり、6～7割の在学生がKIT-IDEALSを意識している様子がうかがえた。
- KIT-IDEALSに対する意識の年度別比較を見ると、「日々の意思決定や行動の時、KIT-IDEALSで示された価値を意識している」は前回は上回って過去最高となったものの、他の2項目はわずかに前回は下回り、17年に低下してからはほぼ横這い状態となっていた。



<10-2>教職員のKIT-IDEALSの達成度

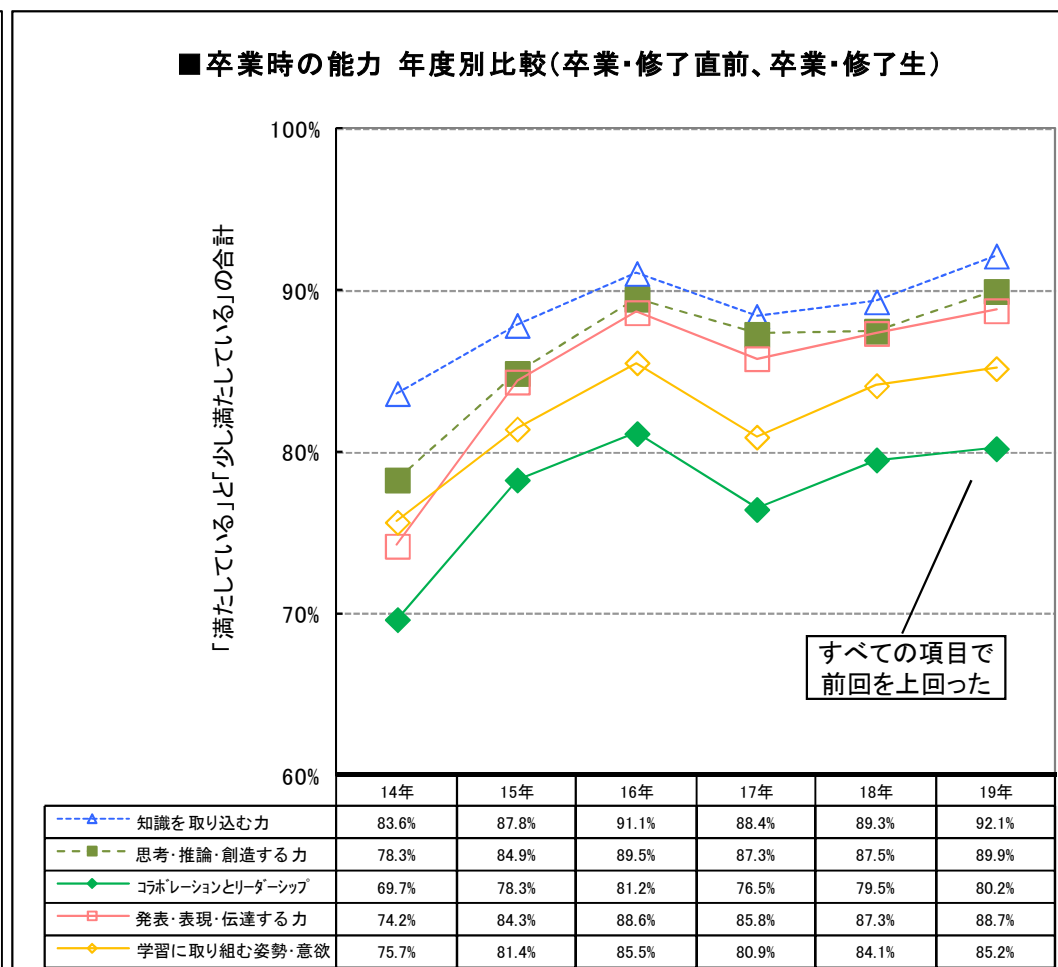
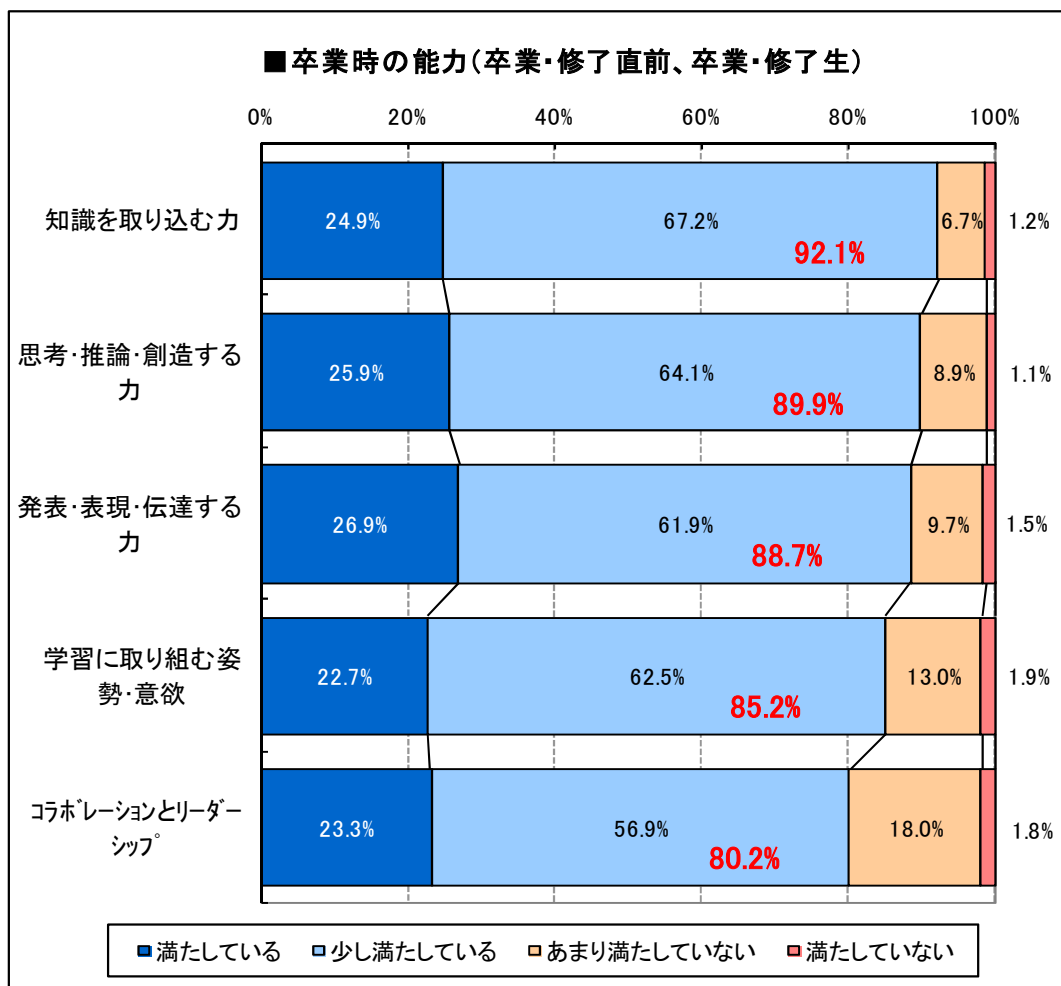
■教職員のKIT-IDEALSの達成度

- 「教員」と「職員」には「KIT-IDEALS」の9項目の達成度を聞いている。
- 肯定的な意見の合計を見ると、「教員」「職員」ともに、ほとんどの項目で8割以上が肯定的な意見となっており、達成度は高いと言える。
- 「教員」では全体的に肯定的な意見が多かったが、「L:リーダーシップを持っている」で肯定的な意見が81.0%、「S:自己実現意欲を持っている」が89.1%であり、この2項目のみ肯定的な意見が9割に満たなかった。一方、肯定的な意見が最も多かったのは「I:誠実さを持っている」の100%であった。
- 「職員」では肯定的な意見が少ないものはいくつか見られ、「L:リーダーシップを持っている」は62.8%、「S:自己実現意欲を持っている」が64.1%で低さが目立っていた。そして、「A:課題解決のための自律性を持っている」が79.5%となっており、ここまでの3項目では肯定的な意見が8割に満たなかった。



■卒業時の能力 年度別比較

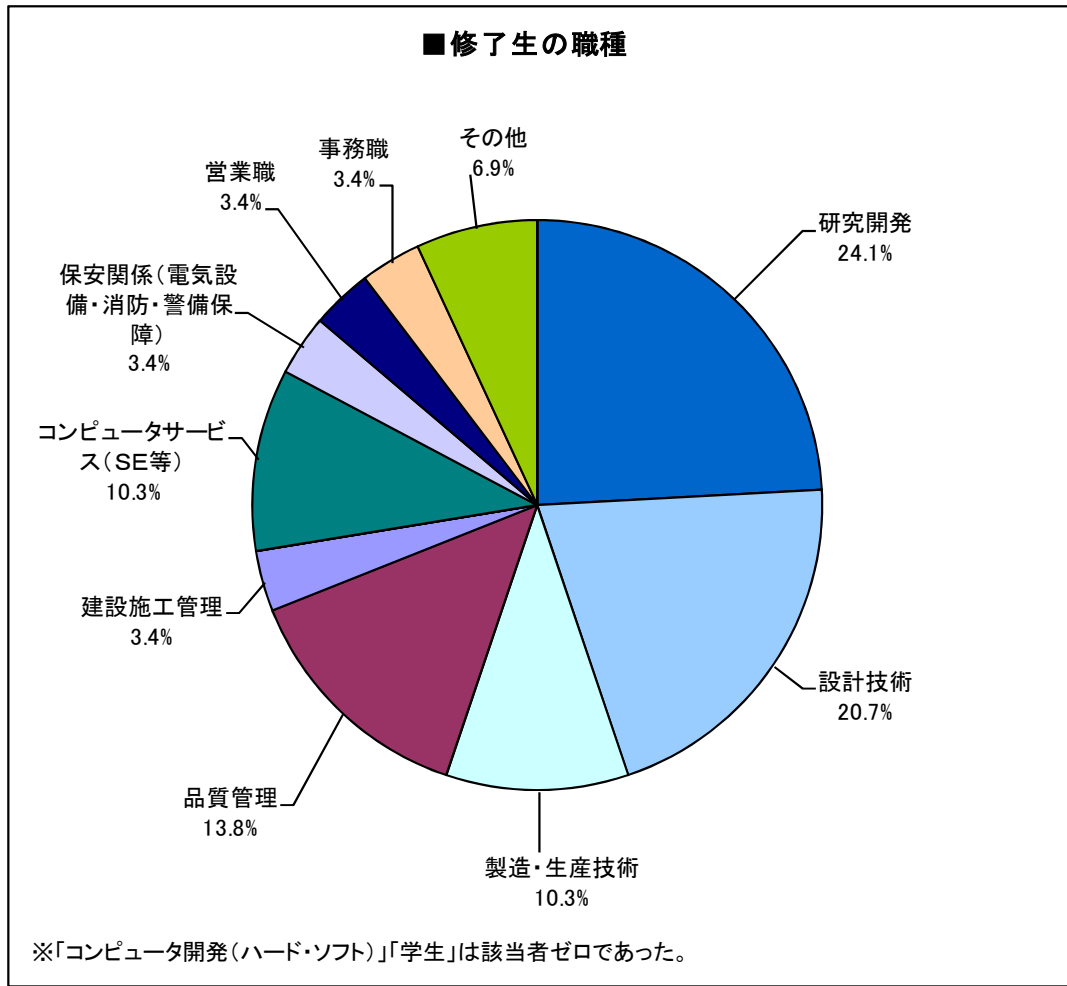
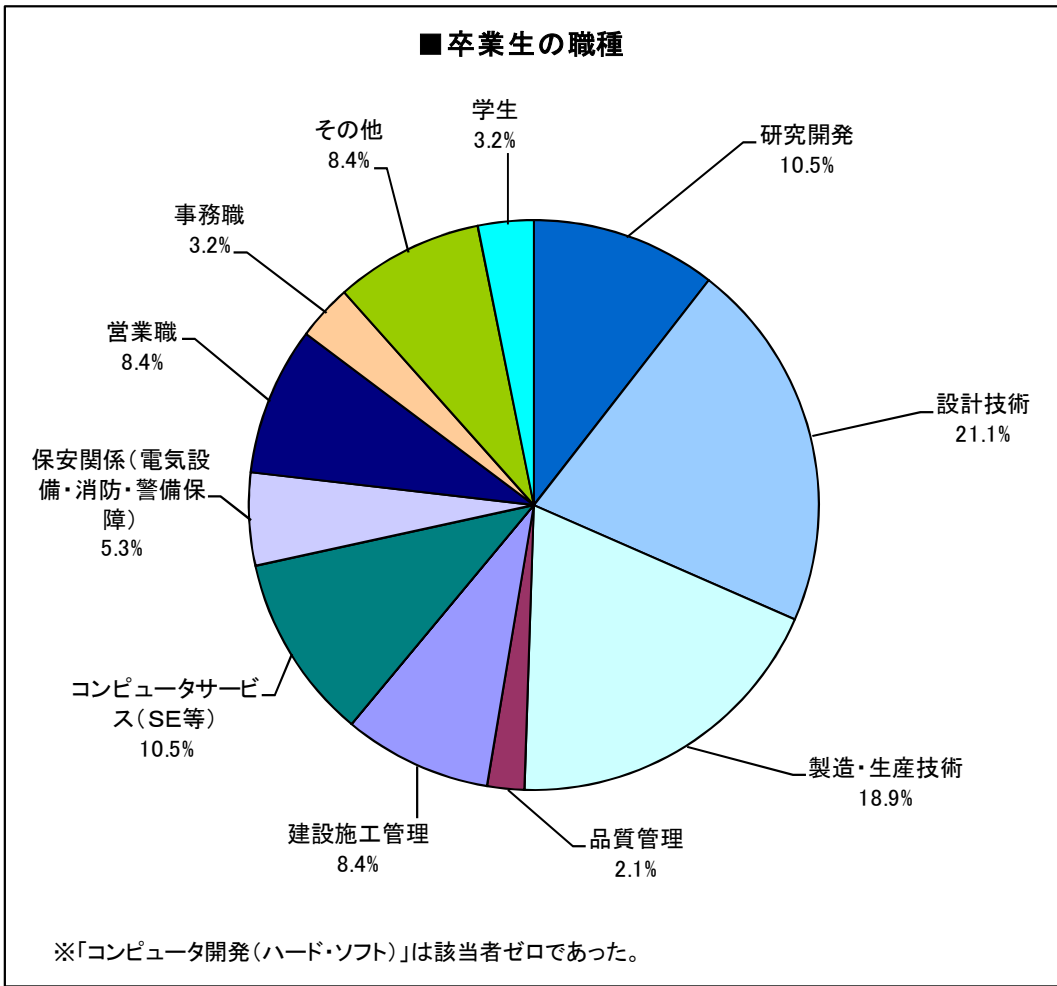
- 「卒業・修了直前」「卒業・修了生」に卒業時の自分自身の能力を自己評価として聞いたところ、肯定的な意見が最も多かったのは「知識を取り込む力」の92.1%であり、「思考・推論・創造する力」が89.9%、「発表・表現・伝達する力」が88.7%で続いていた。そして、肯定的な意見が最も少なかったのは「コラボレーションとリーダーシップ」の80.2%であった。
- 年度別の比較を見ると、今回はすべての項目で前回は上回っており、17年からの向上傾向が続いていた。特に「知識を取り込む力」「思考・推論・創造する力」「発表・表現・伝達する力」の3項目は過去最高の自己評価であった。



<12-1>卒業・修了生の基本属性

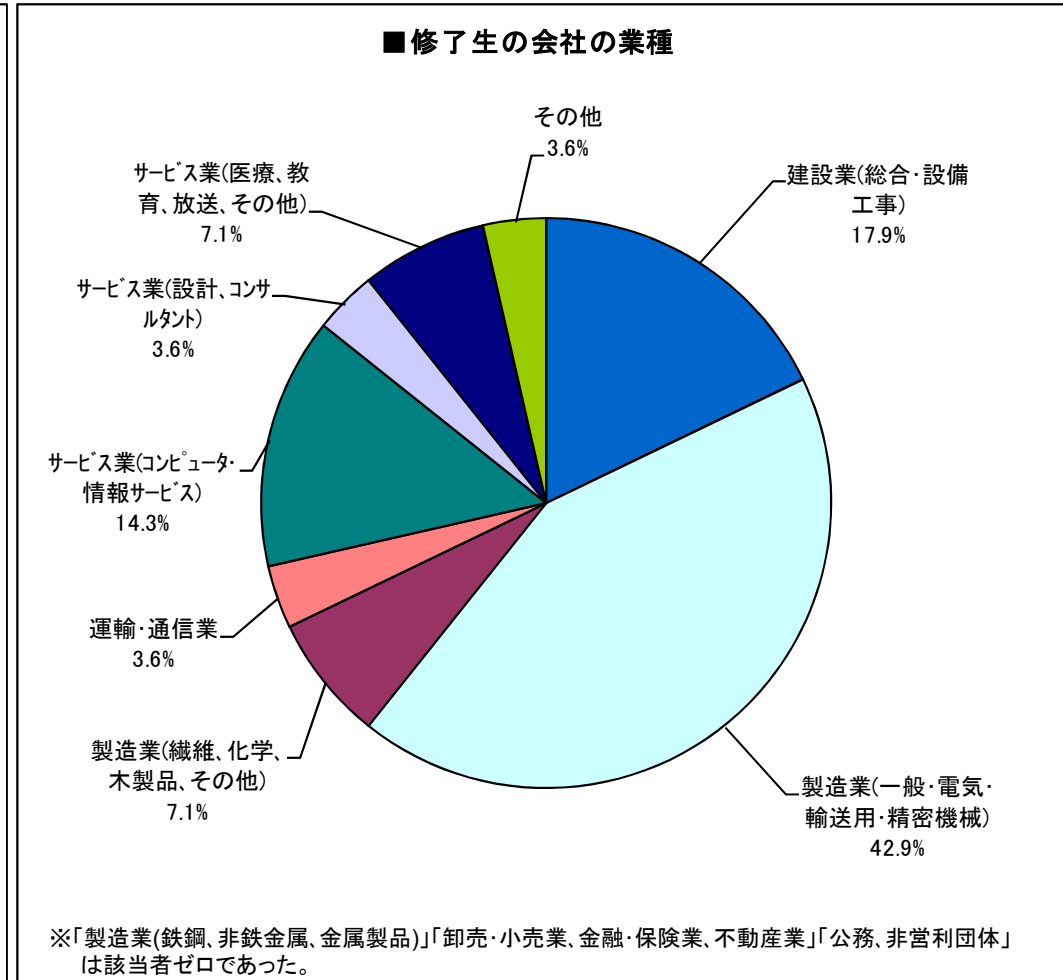
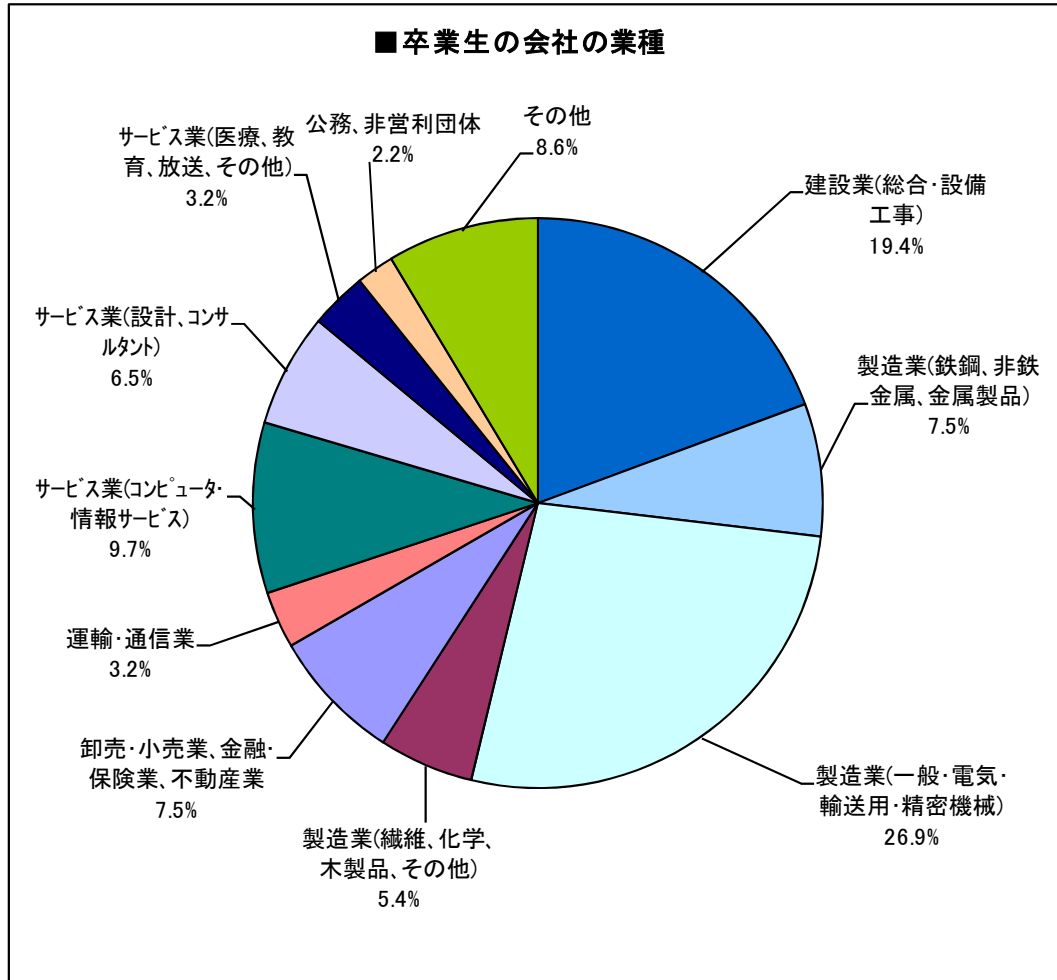
■現在の職種

- 卒業生の職種は、「設計技術」が21.1%で最も多く、「製造・生産技術」が18.9%、「研究開発」と「コンピュータサービス(SE等)」が10.5%が続いていた。
- 修了生の職種は、「研究開発」が24.1%で最も多く、「設計技術」が20.7%、「品質管理」が13.8%、「製造・生産技術」「コンピュータサービス(SE等)」が10.3%が続いていた。



■現在の会社の業種

- 卒業生の会社の業種は、「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が26.9%で最も多く、次いで、「建設業(総合・設備工事)」が19.4%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が9.7%、「その他」が8.6%、「製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属製品)」と「卸売・小売業、金融・保険業、不動産業」が7.5%となっていた。
- 修了生では「製造業(一般・電気・輸送用・精密機械)」が42.9%で最も多く、次いで、「建設業(総合・設備工事)」が17.9%、「サービス業(コンピュータ・情報サービス)」が14.3%、「製造業(繊維、化学、木製品、その他)」と「サービス業(医療、教育、放送、その他)」が7.1%であった。

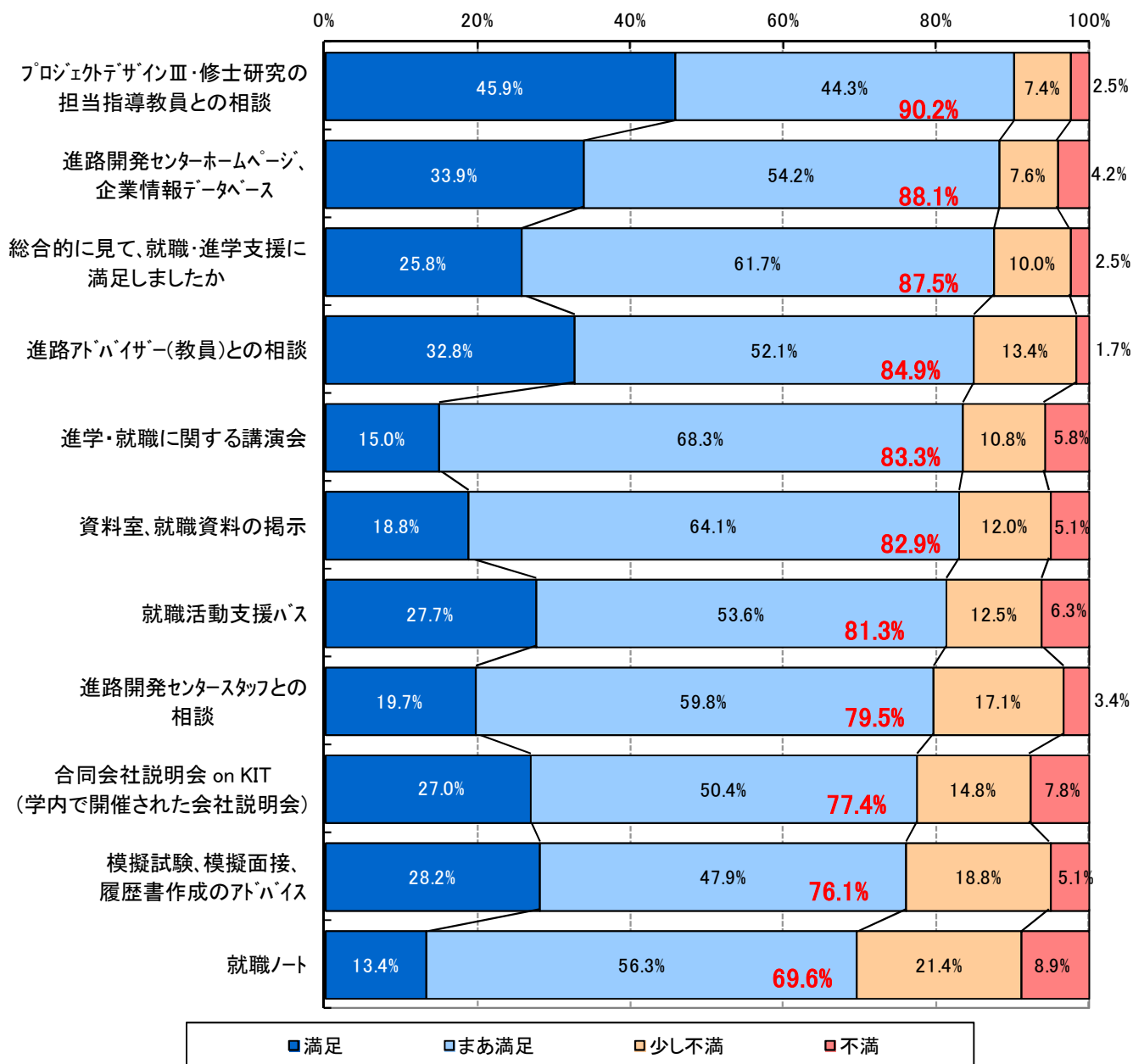


<12-2>就職・進学支援の評価

■就職・進学支援の評価

- 「卒業生」「修了生」には就職・進学支援策の満足度を聞いているが、まず、「総合的に見て、就職・進学支援に満足しましたか」を見ると、「満足」が25.8%、「まあ満足」が61.7%で、合わせると87.5%が満足という回答であり、満足度は高いと言える。
- 上記以外は具体的なサポート策の満足度となるが、最も満足度が高かったのは「プロジェクトデザインⅢ・修士研究の担当指導教員との相談」の90.2%であった。次いで、「進路開発センターホームページ、企業情報データベース」が88.1%、「進路アドバイザー(教員)との相談」が84.9%で続いていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「就職ノート」の69.6%であり、唯一、満足度が7割を下回っていた。そして、「模擬試験、模擬面接、履歴書作成のアドバイス」が76.1%、「合同会社説明会 on KIT(学内で開催された会社説明会)」が77.4%となっていた。

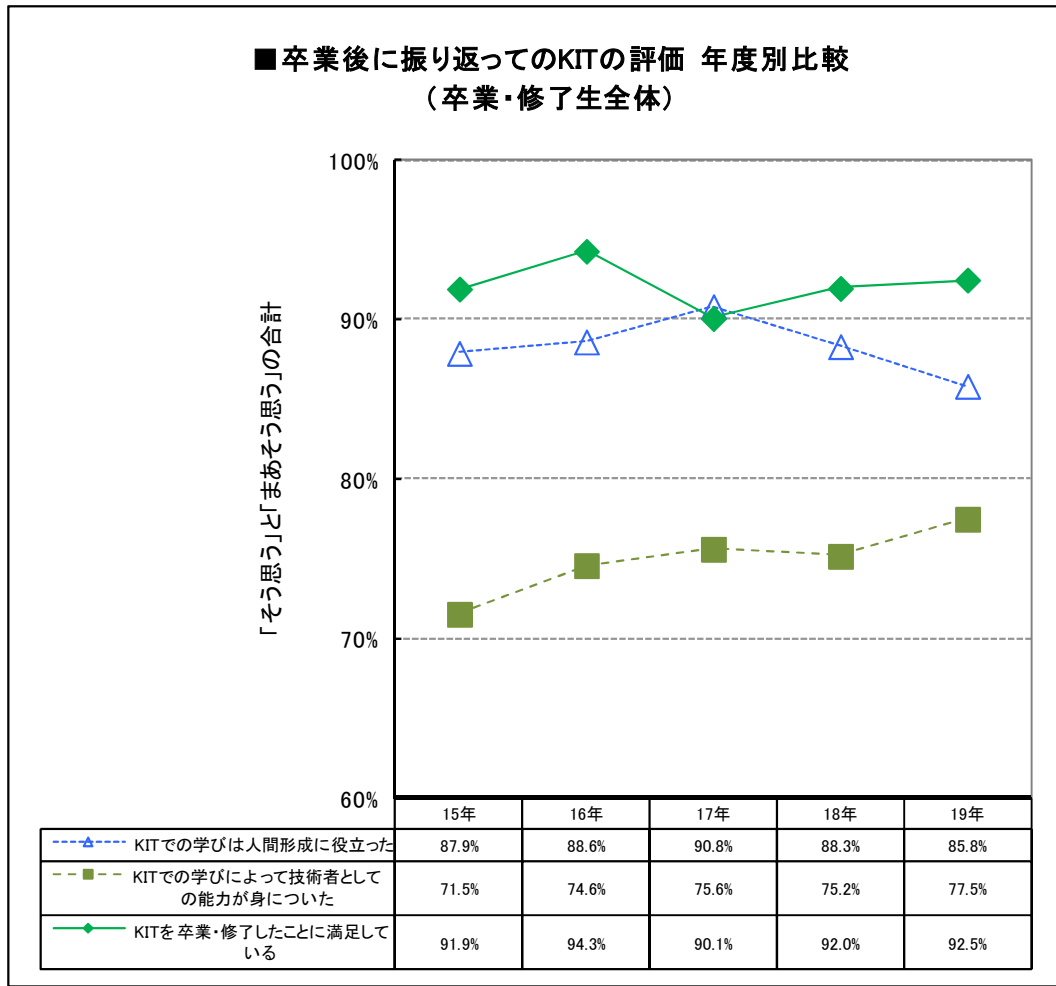
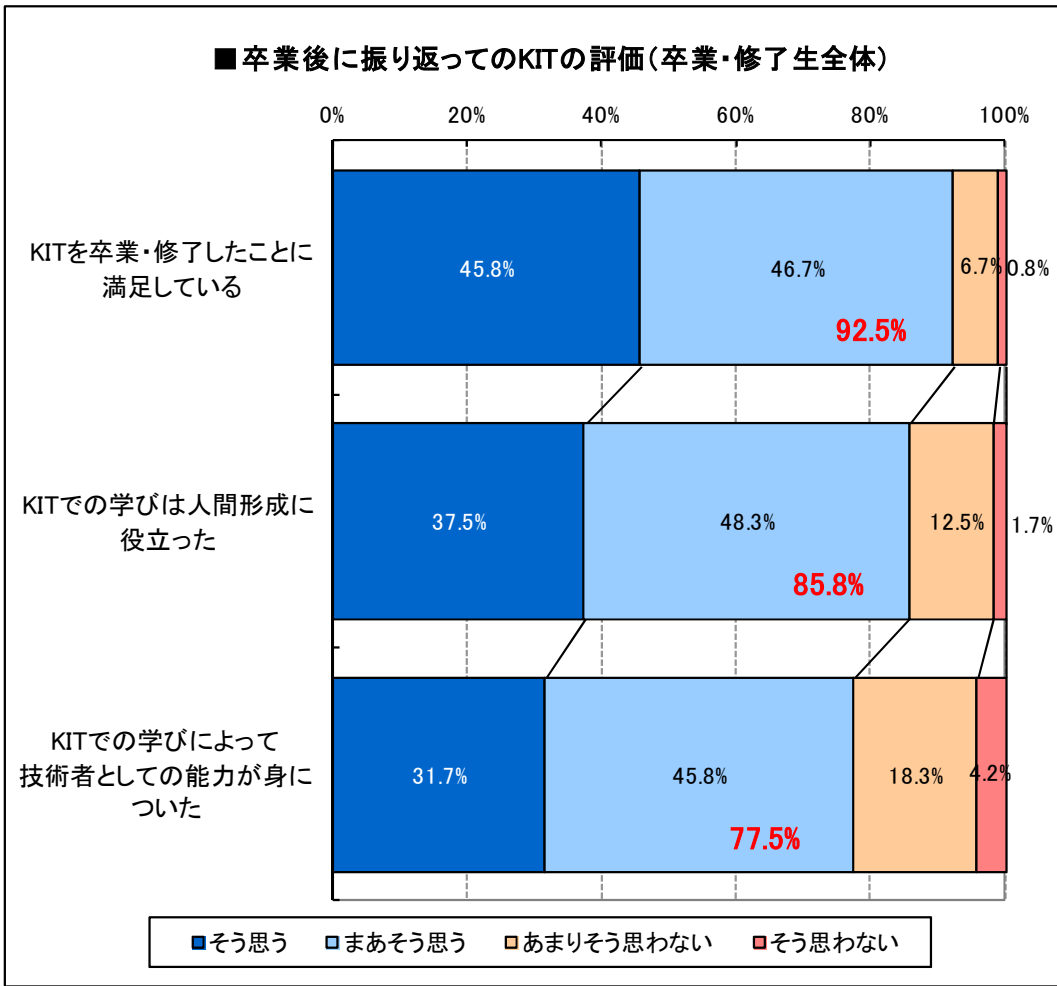
■就職・進学支援の評価(卒業・修了生全体)



<12-3>卒業後のKITの評価

■卒業後のKITの評価 年度別比較

- 「卒業生」「修了生」に、卒業後に振り返ってのKITの評価を聞いたところ、「KITを卒業・修了したことに満足している」では「そう思う」が45.8%、「まあそう思う」が46.7%であり、合わせると92.5%が満足と答えていた。
- 上記に次いで、「KITでの学びは人間形成に役立った」では85.8%、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」では77.5%が肯定的な意見であり、全体的に満足度は高いと言える。
- 年度別に比較したところ、「KITを卒業・修了したことに満足している」は0.5ポイントと、わずかではあるが前回を上回った。そして、「KITでの学びによって技術者としての能力が身についた」も前回を2.3ポイント上回って過去最高となっていたが、「KITでの学びは人間形成に役立った」だけは前回を2.5ポイント下回った。



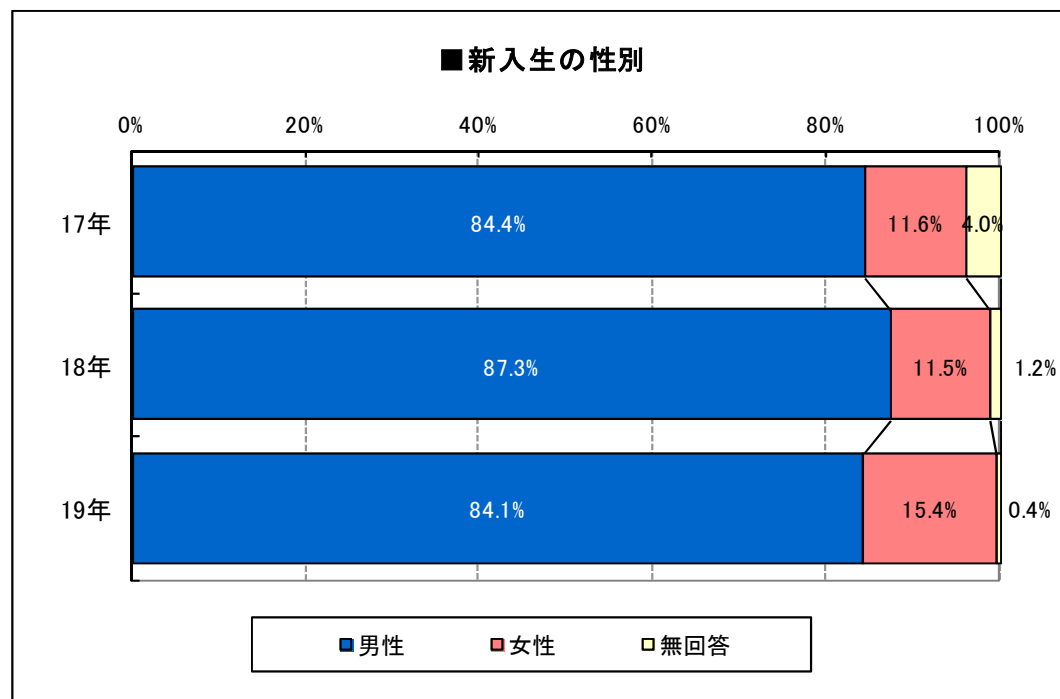
<13-1>新入生のプロフィール

■新入生の学部・学科、性別

- 新入生の学部・学科の割合は学科が無回答の2名は除外して集計しているが、「工学部」が59.4%、「情報フロンティア学部」が16.9%、「環境・建築学部」が12.5%、「バイオ・化学部」が11.3%という割合であった。
- 学科では「電気電子工学科」が15.5%と最も多く、「情報工学科」が14.6%、「機械工学科」が13.0%で続いていた。
- 性別では、「男性」が84.1%、「女性」が15.4%であった。

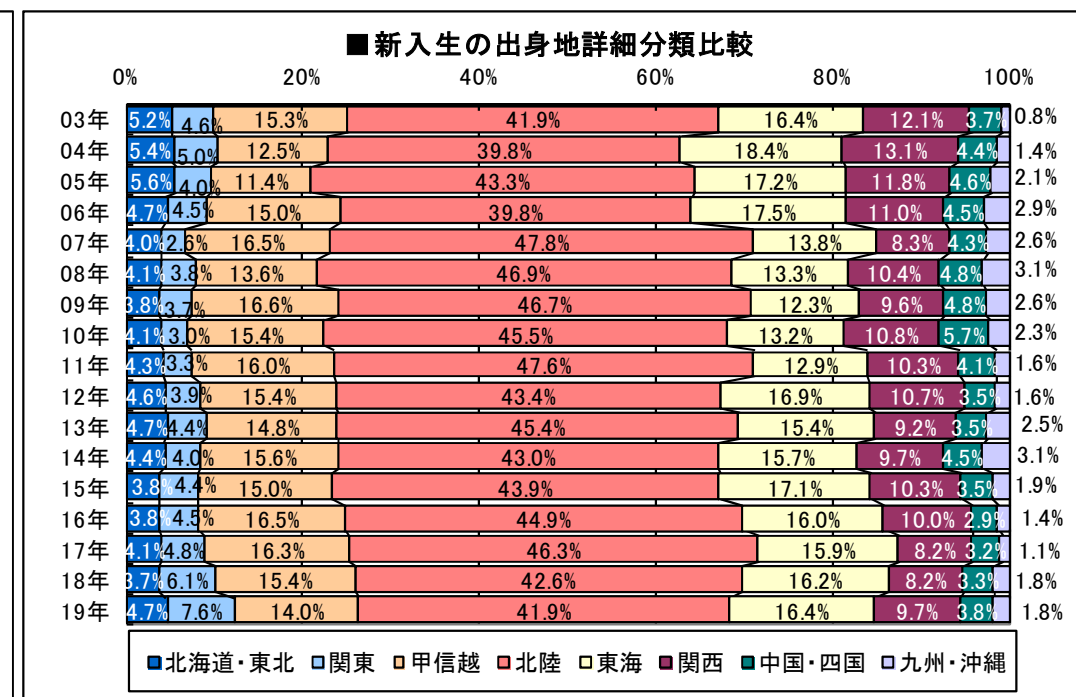
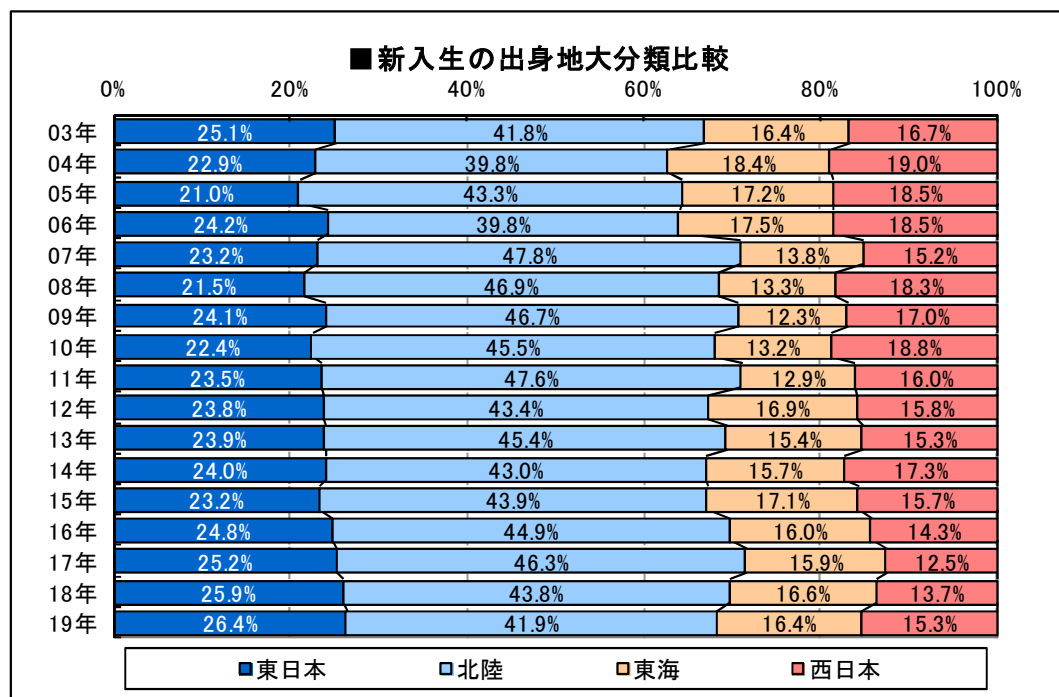
■新入生の学部・学科割合

学部	学科	回答者数	割合	回答者数	割合
工学部	機械工学科	944	59.4%	206	13.0%
	航空システム工学科			60	3.8%
	ロボティクス学科			101	6.4%
	電気電子工学科			247	15.5%
	情報工学科			232	14.6%
	環境土木工学科			98	6.2%
情報フロンティア学部	メディア情報学科	268	16.9%	150	9.4%
	経営情報学科			69	4.3%
	心理科学科			49	3.1%
環境・建築学部	建築学科	199	12.5%	199	12.5%
バイオ・化学部	応用化学科	179	11.3%	80	5.0%
	応用バイオ学科			99	6.2%
合計	総計	1,590	100.0%	1,590	100.0%



■新入生の出身地

- 出身地の大分類を見ると、「北陸」が41.9%で最も多く、「東日本」が過去最高の26.4%、「東海」が16.4%、「西日本」が15.3%であり、「東日本」が増加する傾向が続いていた。
- 出身地詳細分類でも「北陸」が最も多かった。「東日本」の中では「甲信越」が14.0%と多かったが、「関東」が継続的に増加する傾向が見られた。



■過去4年間の出身地一覧

■16年 出身地一覧

■17年 出身地一覧

■18年 出身地一覧

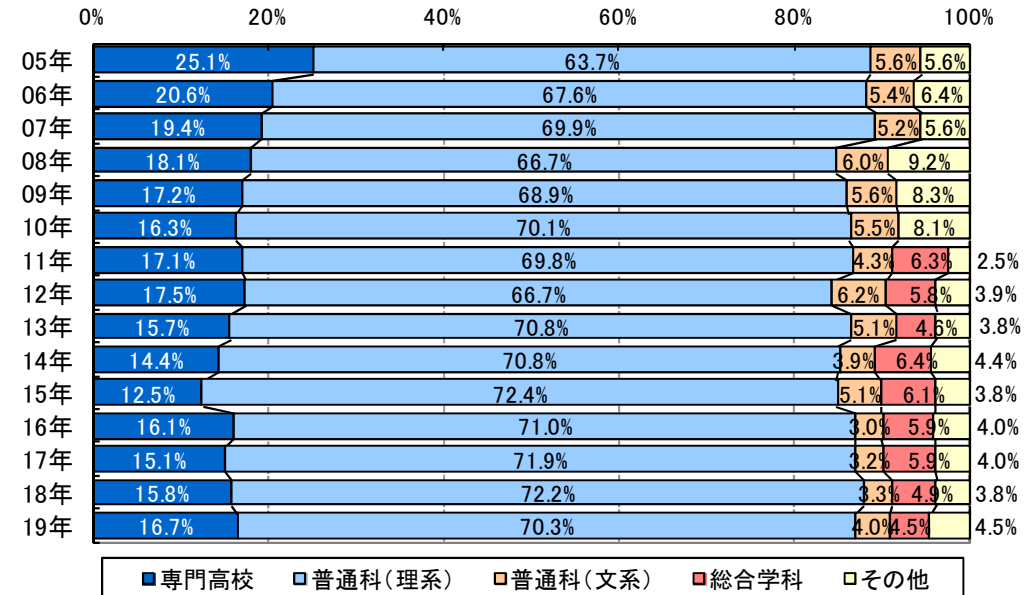
■19年 出身地一覧

都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類	都道府県	人数	割合	大分類	詳細分類								
北海道	16	1.0%	東日本	北海道・東北	北海道	15	1.0%	東日本	北海道・東北	北海道	20	1.2%	東日本	北海道・東北	北海道	20	1.3%	東日本	北海道・東北								
青森県	4	0.2%			青森県	6	0.4%			青森県	8	0.5%			青森県	7	0.4%										
岩手県	6	0.4%			岩手県	4	0.3%			岩手県	4	0.2%			岩手県	3	0.2%										
宮城県	5	0.3%			宮城県	7	0.5%			宮城県	6	0.4%			宮城県	10	0.6%										
秋田県	3	0.2%			秋田県	9	0.6%			秋田県	5	0.3%			秋田県	9	0.6%										
山形県	19	1.2%			山形県	16	1.0%			山形県	8	0.5%			山形県	13	0.8%										
福島県	7	0.4%			福島県	6	0.4%			福島県	10	0.6%			福島県	13	0.8%										
茨城県	8	0.5%			茨城県	9	0.6%			茨城県	13	0.8%			茨城県	11	0.7%										
栃木県	7	0.4%			栃木県	10	0.6%			栃木県	9	0.5%			栃木県	13	0.8%										
群馬県	25	1.6%			群馬県	24	1.6%			群馬県	42	2.6%			群馬県	42	2.6%										
埼玉県	3	0.2%			埼玉県	16	1.0%			埼玉県	9	0.5%			埼玉県	16	1.0%										
千葉県	5	0.3%			千葉県	4	0.3%			千葉県	6	0.4%			千葉県	10	0.6%										
東京都	15	0.9%			東京都	6	0.4%			東京都	13	0.8%			東京都	17	1.1%										
神奈川県	9	0.6%			神奈川県	5	0.3%			神奈川県	10	0.6%			神奈川県	12	0.8%										
新潟県	135	8.4%	北陸	甲信越	新潟県	130	8.4%	北陸	甲信越	新潟県	104	6.3%	北陸	甲信越	新潟県	102	6.4%	北陸	甲信越								
山梨県	10	0.6%			山梨県	7	0.5%			山梨県	9	0.5%			山梨県	9	0.6%										
長野県	119	7.4%			長野県	112	7.3%			長野県	143	8.7%			長野県	112	7.0%										
富山県	206	12.8%			富山県	166	10.8%			富山県	211	12.9%			富山県	207	13.0%										
石川県	399	24.9%			石川県	438	28.4%			石川県	402	24.5%			石川県	369	23.2%										
福井県	112	7.0%			福井県	105	6.8%			福井県	94	5.7%			福井県	90	5.7%										
岐阜県	72	4.5%			東海	東海	岐阜県			67	4.3%	東海			東海	岐阜県	84			5.1%	東海	東海	岐阜県	75	4.7%	東海	東海
静岡県	89	5.5%					静岡県			63	4.1%					静岡県	66			4.0%			静岡県	79	5.0%		
愛知県	62	3.9%					愛知県			73	4.7%					愛知県	74			4.5%			愛知県	78	4.9%		
三重県	33	2.1%					三重県			40	2.6%					三重県	45			2.7%			三重県	29	1.8%		
滋賀県	33	2.1%					滋賀県			47	3.0%					滋賀県	36			2.2%			滋賀県	36	2.3%		
京都府	27	1.7%					京都府			24	1.6%					京都府	24			1.5%			京都府	27	1.7%		
大阪府	26	1.6%					大阪府			16	1.0%					大阪府	14			0.9%			大阪府	24	1.5%		
兵庫県	55	3.4%					兵庫県			28	1.8%					兵庫県	51			3.1%			兵庫県	47	3.0%		
奈良県	5	0.3%	奈良県	6			0.4%	奈良県	3	0.2%	奈良県		11	0.7%													
和歌山県	13	0.8%	和歌山県	5			0.3%	和歌山県	8	0.5%	和歌山県		10	0.6%													
鳥取県	4	0.2%	西日本	中国・四国			鳥取県	6	0.4%	西日本	中国・四国		鳥取県	9		0.5%	西日本	中国・四国	鳥取県	4			0.3%	西日本	中国・四国		
島根県	5	0.3%					島根県	3	0.2%				島根県	6		0.4%			島根県	8			0.5%				
岡山県	11	0.7%					岡山県	9	0.6%				岡山県	6		0.4%			岡山県	15			0.9%				
広島県	6	0.4%					広島県	10	0.6%				広島県	10		0.6%			広島県	10			0.6%				
山口県	4	0.2%			山口県	3	0.2%	山口県	6			0.4%	山口県	1	0.1%												
徳島県	9	0.6%			徳島県	7	0.5%	徳島県	9			0.5%	徳島県	12	0.8%												
香川県	2	0.1%			香川県	2	0.1%	香川県	4			0.2%	香川県	8	0.5%												
愛媛県	3	0.2%			愛媛県	6	0.4%	愛媛県	2			0.1%	愛媛県	1	0.1%												
高知県	3	0.2%			高知県	3	0.2%	高知県	3			0.2%	高知県	1	0.1%												
福岡県	5	0.3%			福岡県	7	0.5%	福岡県	8			0.5%	福岡県	8	0.5%												
佐賀県	0	0.0%			佐賀県	1	0.1%	佐賀県	1			0.1%	佐賀県	0	0.0%												
長崎県	3	0.2%			長崎県	2	0.1%	長崎県	4			0.2%	長崎県	3	0.2%												
熊本県	5	0.3%			熊本県	4	0.3%	熊本県	6			0.4%	熊本県	1	0.1%												
大分県	1	0.1%			大分県	0	0.0%	大分県	1			0.1%	大分県	1	0.1%												
宮崎県	1	0.1%	宮崎県	1	0.1%	宮崎県	3	0.2%	宮崎県	3	0.2%																
鹿児島	3	0.2%	鹿児島	1	0.1%	鹿児島	2	0.1%	鹿児島	3	0.2%																
沖縄県	4	0.2%	沖縄県	1	0.1%	沖縄県	5	0.3%	沖縄県	10	0.6%																
不明	7	0.4%	不明	11	0.7%	不明	11	0.7%	不明	2	0.1%																
合計	1,604	100.0%	1,604	100.0%	1,604	100.0%	1,604	100.0%	1,604	100.0%	1,604	100.0%	1,604	100.0%	1,592	100.0%	1,592	100.0%	1,592	100.0%							

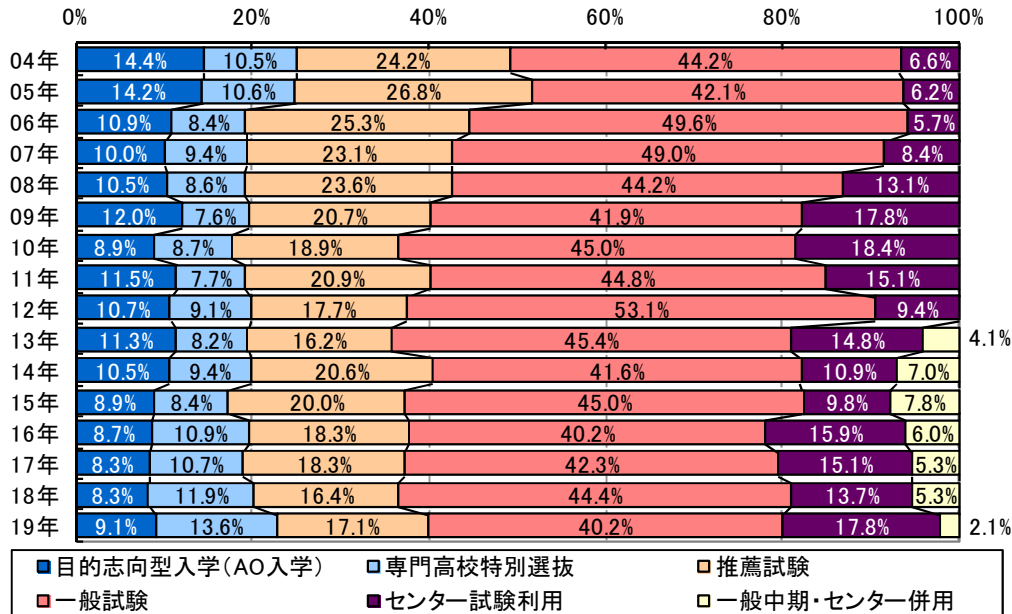
■ 新入生の入試の種類、高校課程、現浪

- 入試の種類では「一般試験」が40.2%で最も多く、「センター試験利用」が17.8%、「推薦試験」が17.1%、「専門高校特別選抜」が13.6%で続いていた。以前と比べて大きな変化は見られなかったが、「専門高校特別選抜」の増加傾向が続いていた。
- 出身高校の課程では「普通科(理系)」が70.3%で最も多く、次いで「専門高校」が16.7%、「総合学科」が4.5%で続いており、以前と比較して大きな変化は見られなかった。
- 入学時の現浪の比較を見ると、「現役入学」が89.4%、「浪人後入学」が10.6%であり、17年から「現役入学」が減少する傾向が続いていた。

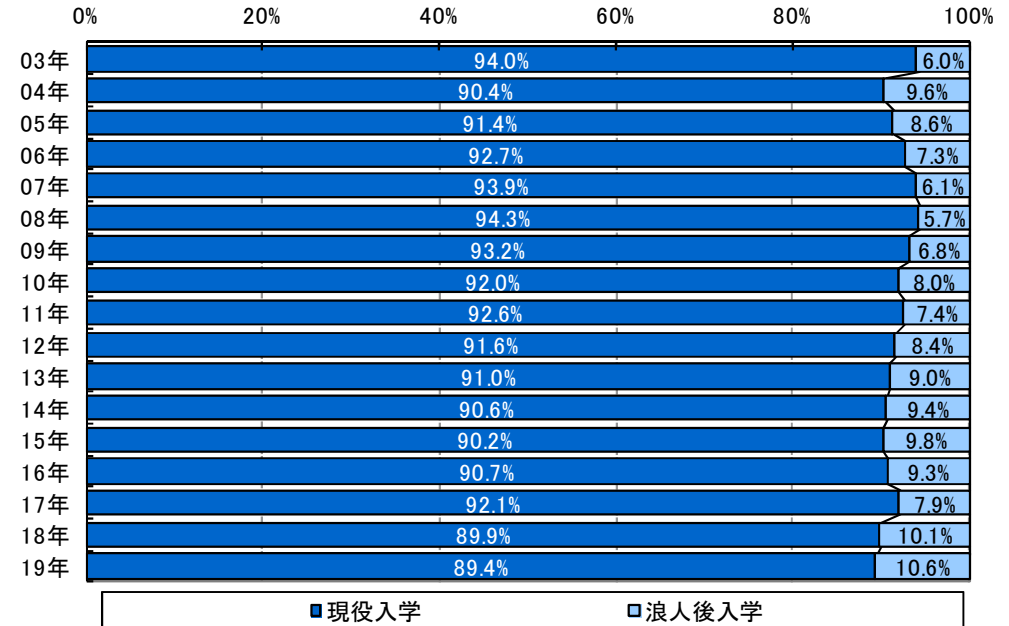
■ 新入生の出身高校課程比較



■ 新入生の入試の種類

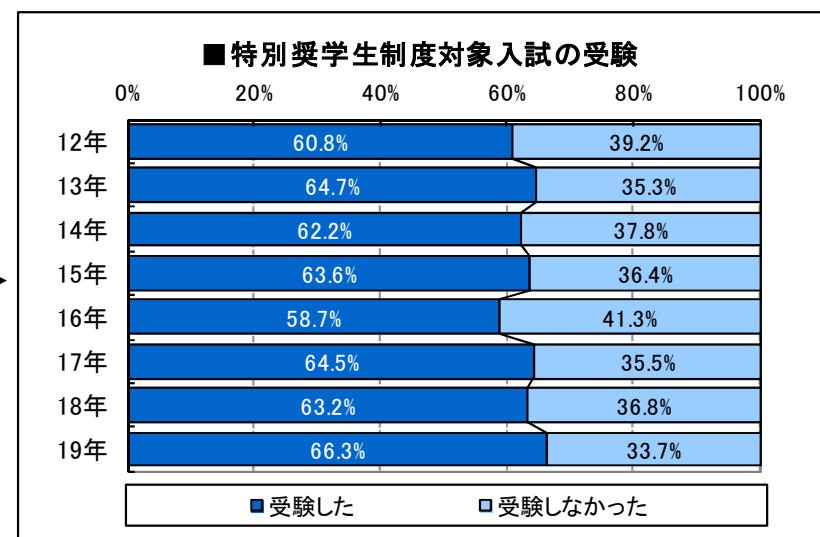
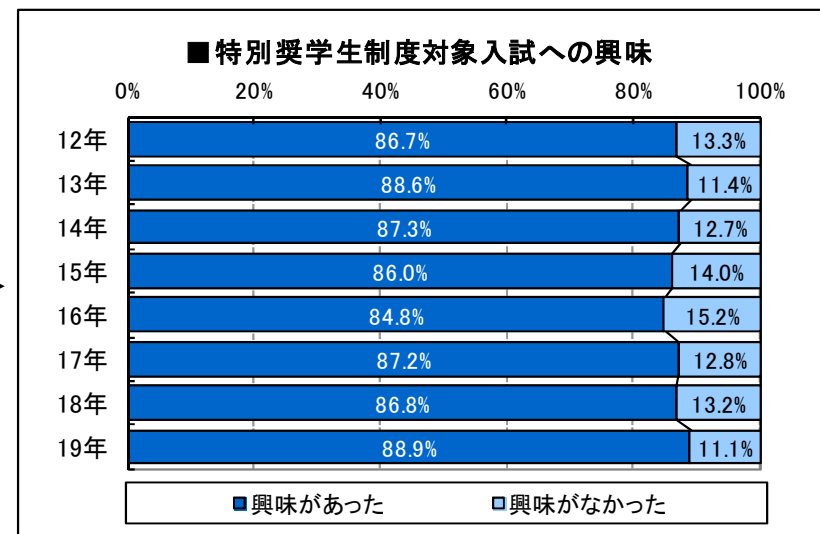
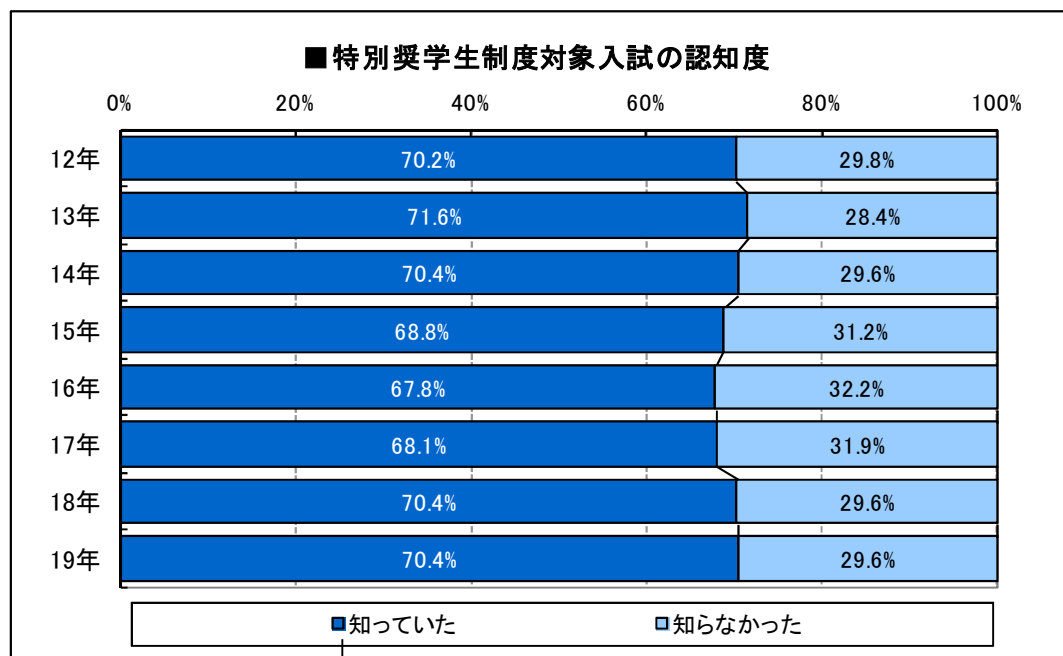


■ 新入生の入学時の現浪比較



■特別奨学生制度対象入試の認知度、興味、受験

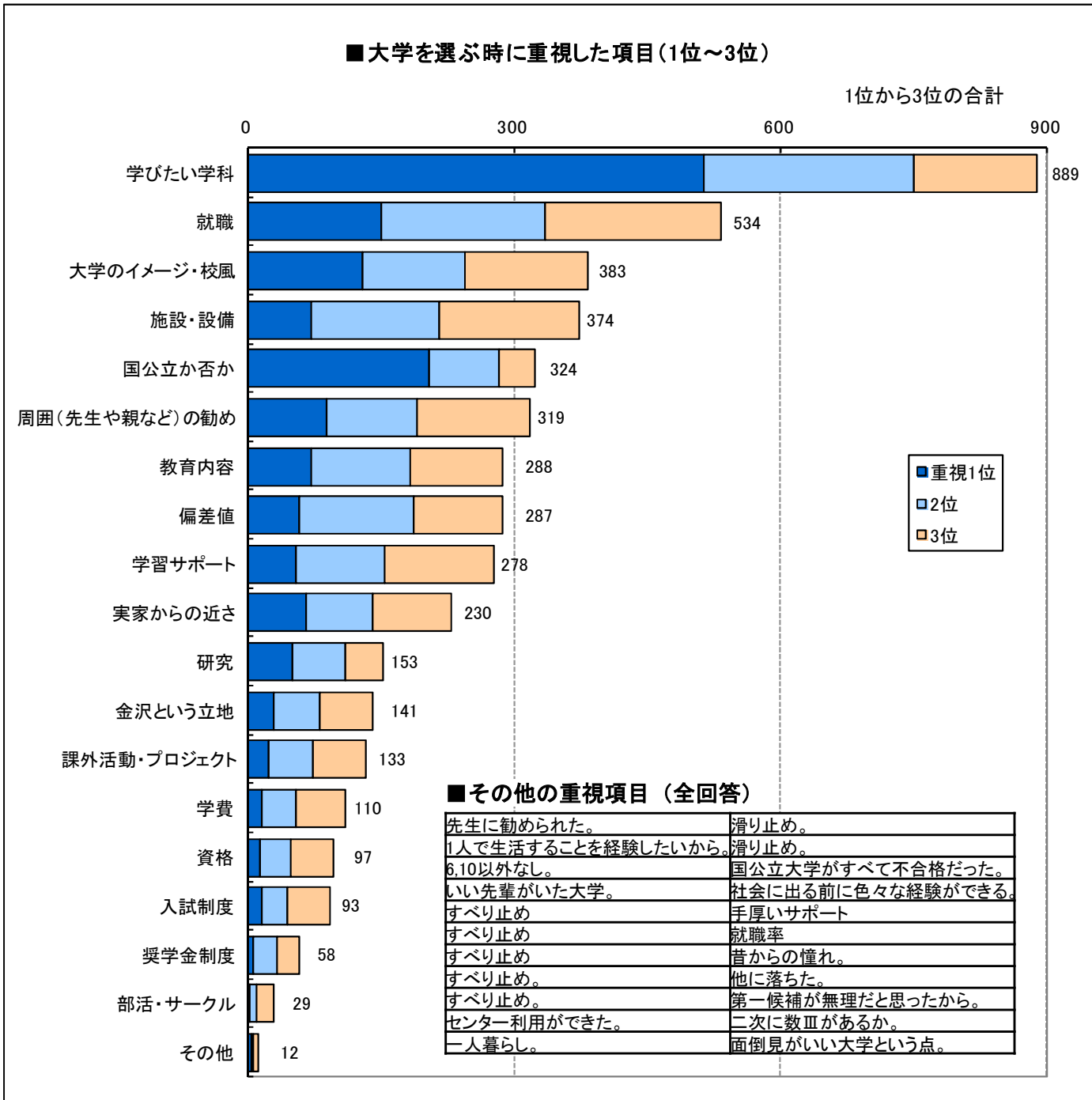
- 「特別奨学生制度対象入試」に関しては、「知っていた」が70.4%であり、前回と同じであった。
- 「特別奨学生制度対象入試」を「知っていた」と答えた学生に対して「特別奨学生制度対象入試」への興味を聞くと、「興味があった」が88.9%であり、前回は2.1ポイント上回って過去最高となった。
- 上記と同様に「特別奨学生制度対象入試の受験の有無」を聞いたところ、「受験した」という回答は66.3%であり、前回は3.1ポイント上回って過去最高となった。



<13-3> 大学選びに関して

■大学を選ぶ時に重視した項目

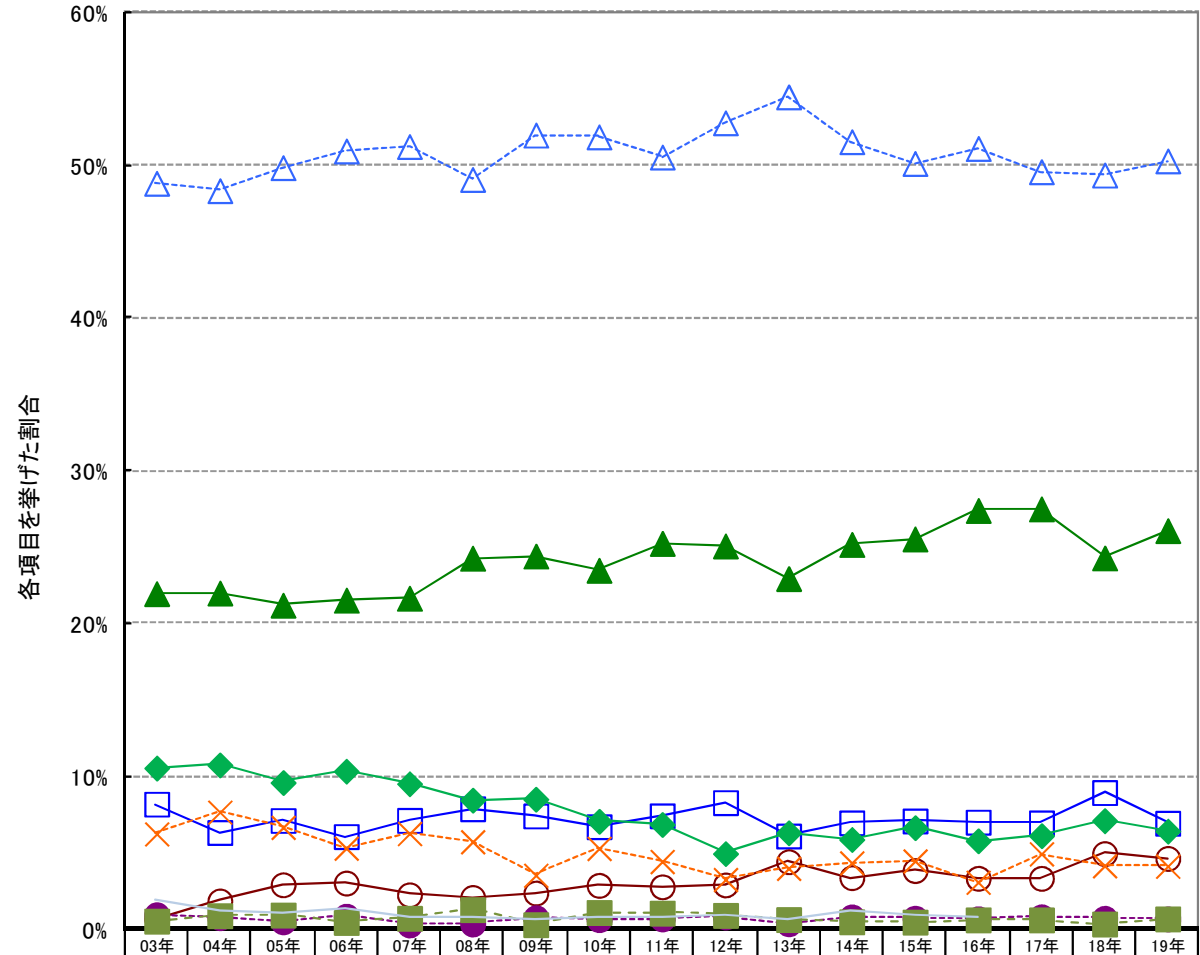
- 「大学を選ぶ時に重視した項目」は「重視1位」から「3位」までを聞いているが、それらを色分けした実数の積み上げ形式グラフとしている。
- 合計値が最も多かったのは「学びたい学科」の889件であった。特に「重視1位」の回答数の多さが目立っており、大学選びの大きなポイントになっていると言える。
- 2番目は「就職」の534件であり、これも3番目以降とは回答数に大きな差があり、重要なポイントになっていると言える。
- 3番目以降を見ると、「大学のイメージ・校風」「施設・設備」「教育内容」「学習サポート」といった学習環境に関するものと、「国公立か否か」「偏差値」といった自分自身の学習成績に関するものが中盤を占めており、これらも重要なポイントになっていることがわかった。
- 「国公立か否か」は積み上げた合計では5番目に多かったが、「重視1位」として挙げる件数が多く、強く重視している様子がうかがえた。



■ KIT入学を相談した人

- 「KIT入学を相談した人」で最も多かったのは「親・親戚」の50.3%であり、過半数を占めていた。
- 上記に次いで、「高校の担任の先生」が26.1%、「高校の進路の先生」が7.0%となっており、「相談しなかった」は6.4%であった。
- 以前との比較を見ると、全体的に目立って大きな変化は見られなかったが、「高校の担任の先生」が前回は1.8ポイント上回り、「高校の進路の先生」が2.0ポイント下回っていた。

■KIT入学を相談した人



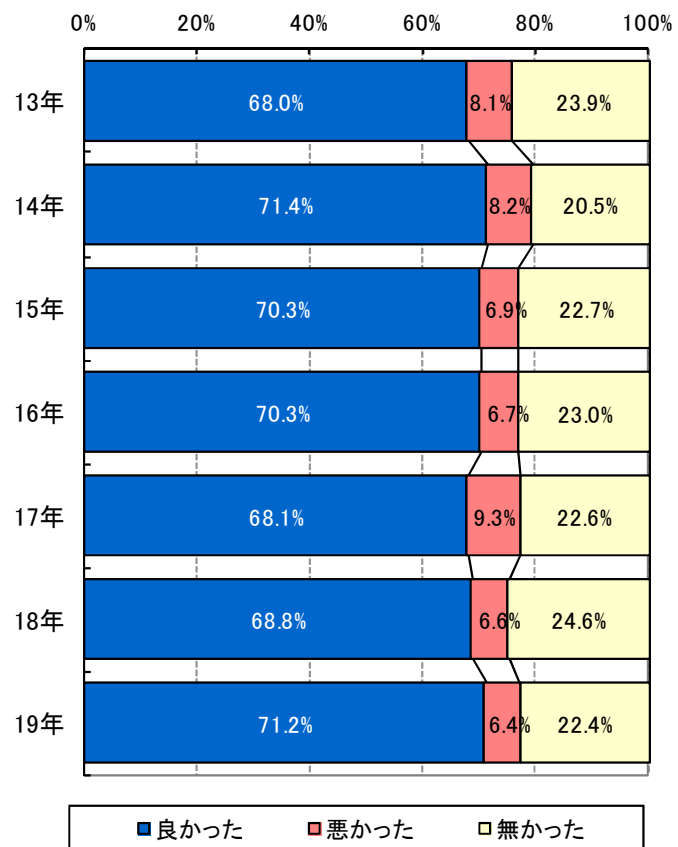
▲ 高校の担任の先生	22.0%	22.0%	21.2%	21.5%	21.7%	24.3%	24.4%	23.5%	25.3%	25.1%	23.0%	25.2%	25.6%	27.4%	27.5%	24.3%	26.1%
□ 高校の進路の先生	8.2%	6.4%	7.1%	6.1%	7.1%	7.9%	7.4%	6.7%	7.4%	8.3%	6.1%	7.0%	7.1%	7.0%	7.0%	9.0%	7.0%
○ 予備校の先生	0.7%	1.9%	2.9%	3.0%	2.3%	2.1%	2.4%	2.9%	2.8%	2.9%	4.4%	3.4%	3.9%	3.4%	3.4%	5.0%	4.7%
× 友人	6.3%	7.7%	6.7%	5.3%	6.3%	5.7%	3.6%	5.3%	4.5%	3.3%	4.0%	4.4%	4.5%	3.1%	5.0%	4.2%	4.1%
● 先輩	1.0%	0.8%	0.5%	0.9%	0.3%	0.4%	0.8%	0.6%	0.7%	0.8%	0.4%	0.8%	0.7%	0.7%	0.8%	0.7%	0.7%
△ 親・親戚	48.8%	48.3%	49.8%	50.9%	51.2%	49.1%	52.0%	51.9%	50.5%	52.8%	54.5%	51.5%	50.1%	51.1%	49.6%	49.4%	50.3%
■ 兄弟姉妹	0.6%	0.9%	1.0%	0.5%	0.7%	1.3%	0.3%	1.1%	1.1%	0.9%	0.6%	0.5%	0.5%	0.6%	0.6%	0.4%	0.7%
◆ 相談しなかった	10.6%	10.8%	9.6%	10.4%	9.5%	8.5%	8.5%	7.1%	6.9%	5.0%	6.3%	5.9%	6.7%	5.8%	6.1%	7.1%	6.4%
— その他	1.9%	1.3%	1.1%	1.3%	0.8%	0.7%	0.6%	0.8%	0.8%	0.9%	0.6%	1.3%	0.9%	0.8%			

※17年から「その他」の選択肢がなくなっている。

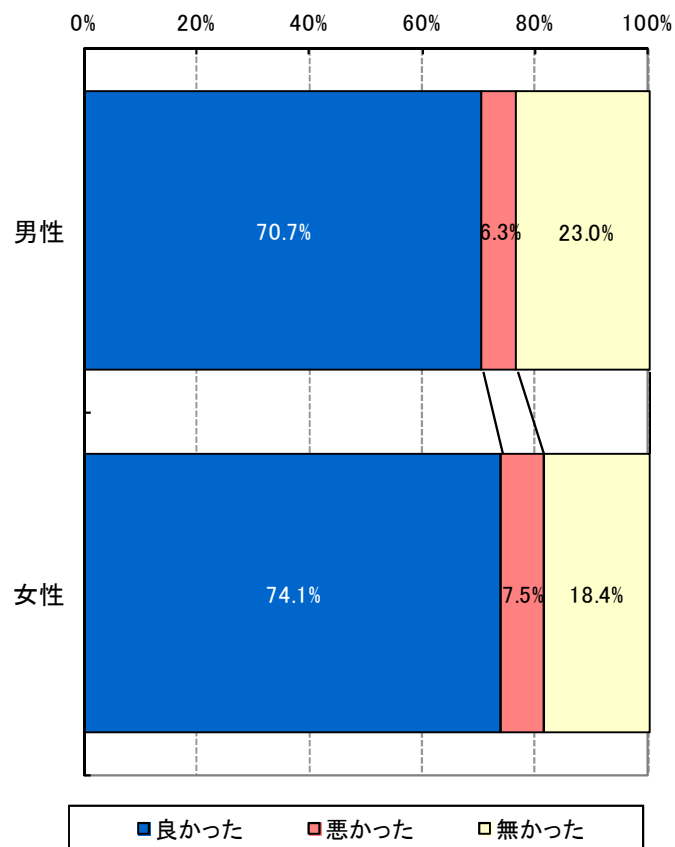
■入学前のKITのイメージ

- 「入学前のKITのイメージ」に対しては、「良かった」が71.2%で14年以来の高さとなっており、「悪かった」は過去最低の6.4%、「無かった」は22.4%であった。
- 男女別に「入学前のKITのイメージ」を比較すると、「良かった」の割合は「男性」の70.7%に対して「女性」は74.1%であり、「女性」の方が良いイメージを持っていることがわかった。ただし、「悪かった」に関しても女性の方が1.2ポイントとわずかに多かった。
- 学科別に「良かった」の割合を比較すると、「応用化学」が52.6%と少なさが目立っていた。ただし、「応用化学」では「悪かった」は5.3%で他の学科と大きな差はなく、「無かった」が42.1%と多い点が特徴的であった。一方、「良かった」の割合は「建築」で79.0%、「環境土木」で78.9%と多くなっていた。

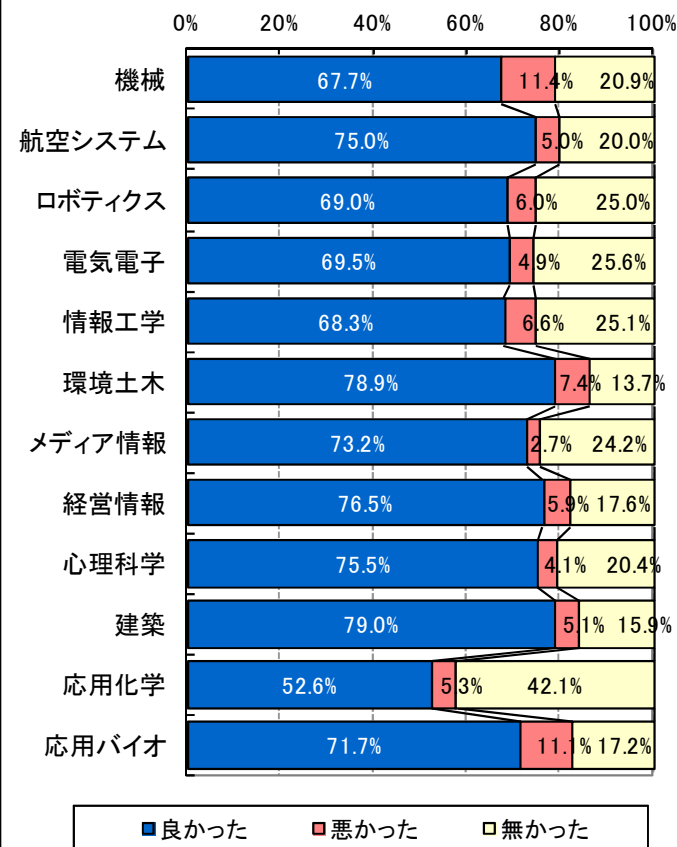
■入学前のKITのイメージ



■入学前のKITのイメージ 男女別比較



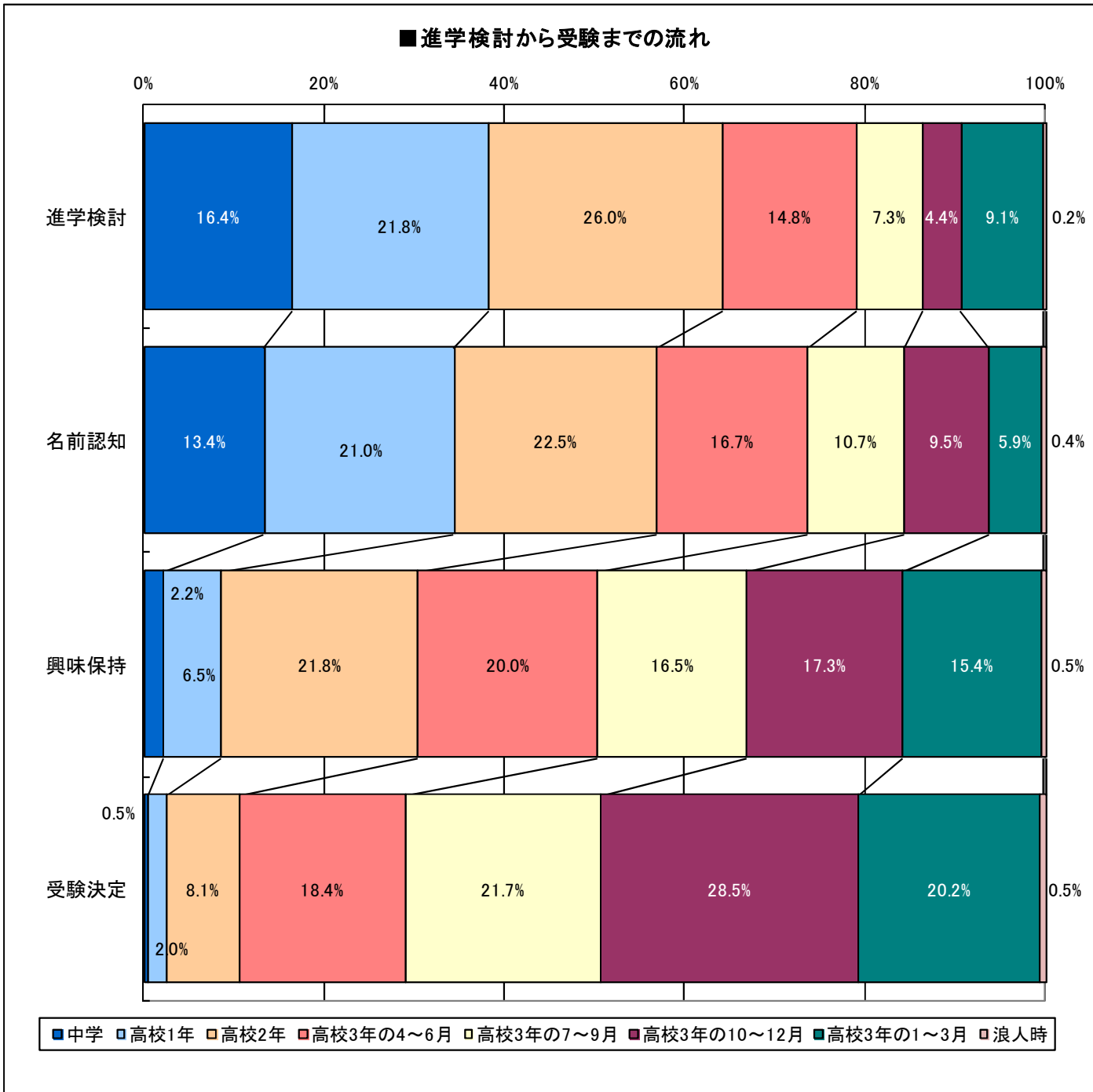
■入学前のKITのイメージ 学科別比較



<13-4> 進学検討から受験までの流れに関して

■ 進学検討から受験までの流れ

- 「進学検討から受験までの流れ」は「進学検討」「名前認知」「興味保持」「受験決定」の4つのポイントの時期を、同じ選択肢で聞いており、今回から選択肢に「浪人時」を加えている。
- 4つのポイントで似た傾向にあったのは「進学検討」と「名前認知」であり、「進学検討」がわずかに早いものの、ほぼ同時に進行しているようであった。そして、「高校2年」までの合計を見ると、「進学検討」は64.2%、「名前認知」は56.9%であった。
- 「興味保持」の時期は上記に比べて遅くなっており、「高校2年」までの合計は30.5%であった。そして、高校3年の「10～12月」と「1～3月」の合計は32.7%であった。
- 次に「受験決定」では、「高校2年」までの合計が10.6%であり、9割は高校3年になって受験を決定していることがわかった。そして、高校3年の「10～12月」と「1～3月」の合計は48.7%で、ほぼ半数を占めていた。



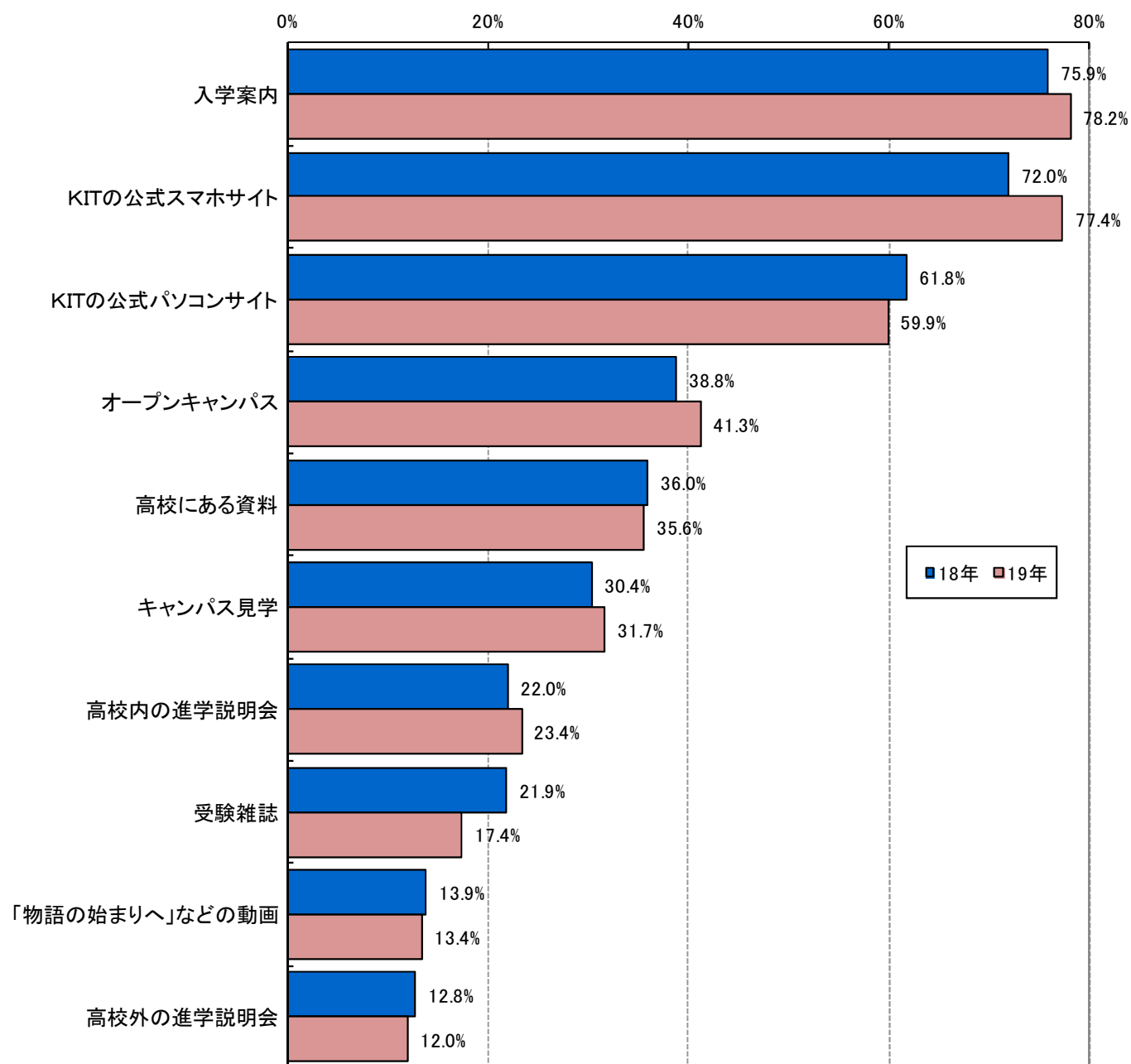
※進学検討: 大学への進学を意識し始めた時期
 名前認知: 金沢工大の名前を知った時期
 興味保持: 金沢工大に興味を持った時期
 受験決定: 金沢工大の受験を決めた時期

<13-5> 受験媒体に関して

■ 受験媒体の利用状況

- 今回、「受験媒体の利用状況」で利用者の割合が最も多かったのは「入学案内」の78.2%であり、「KITの公式スマホサイト」が77.4%、「KITの公式パソコンサイト」が59.9%と続いていた。
- 前回と比較すると、「入学案内」「KITの公式スマホサイト」「オープンキャンパス」「キャンパス見学」「高校内の進学説明会」の利用率が増加していた。一方、前回より利用率が低下していたのは「KITの公式パソコンサイト」「受験雑誌」などであり、近年の媒体の利用率の変化がよくわかる結果となっていた。

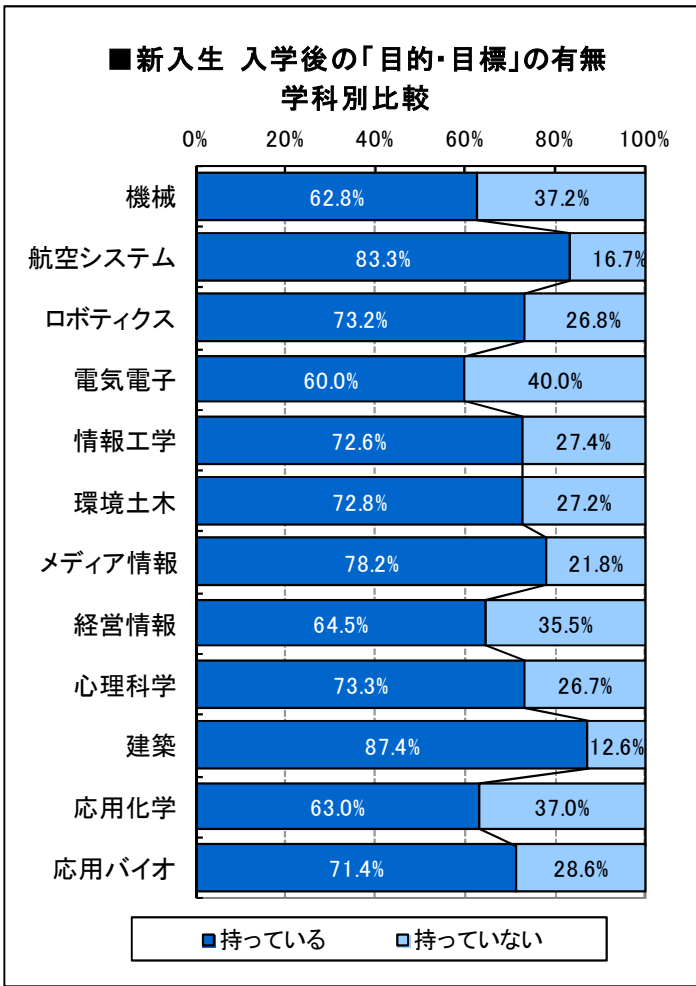
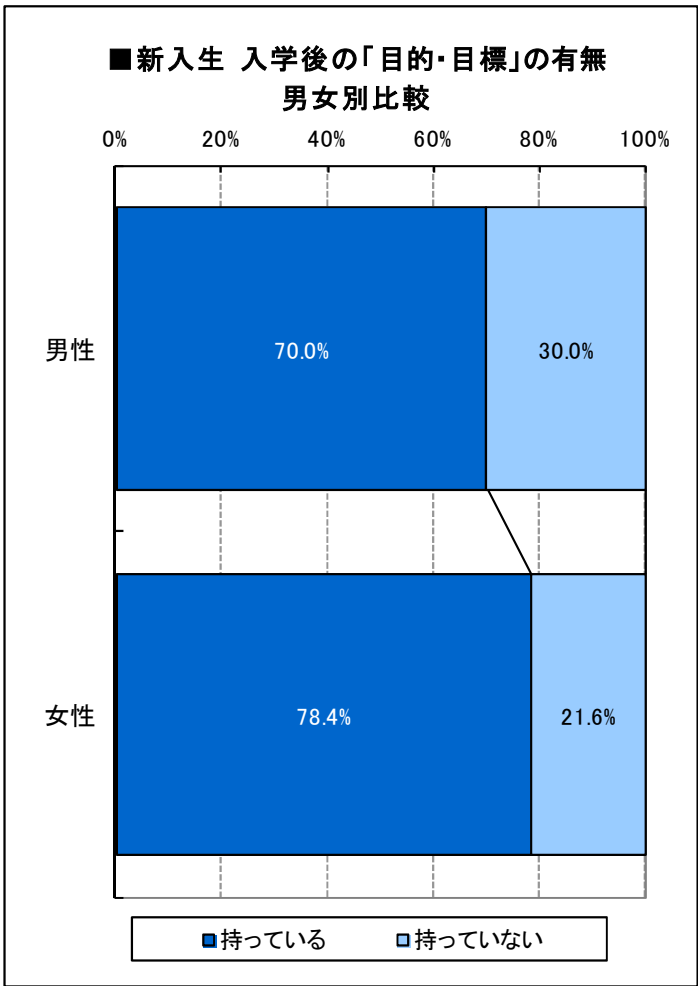
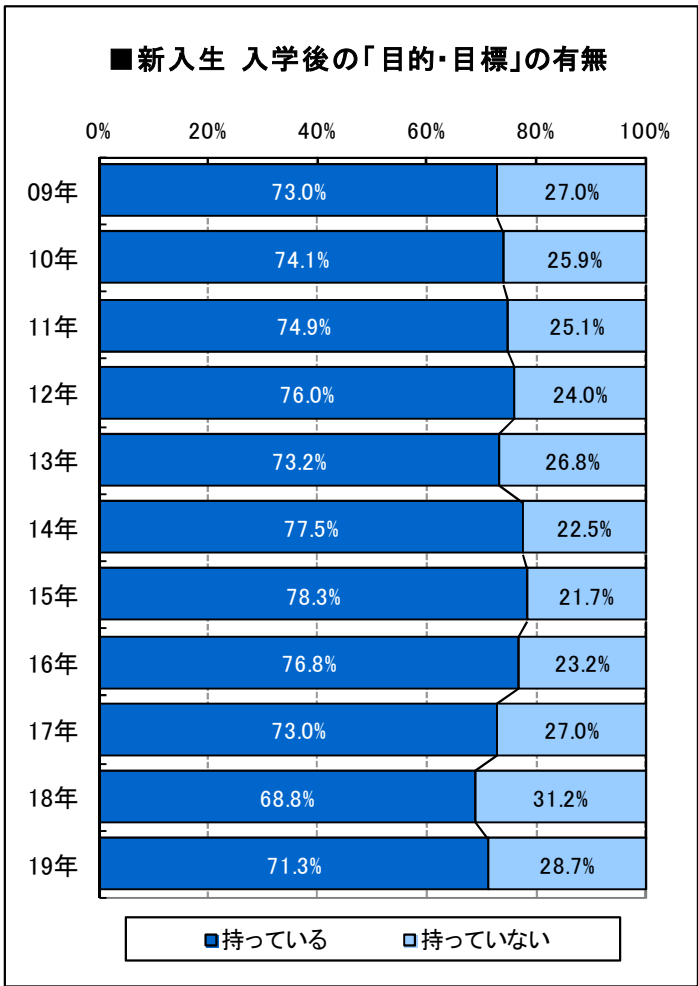
■ 受験媒体の利用の利用経験者割合 年度別比較



<13-6>入学後の目的・目標、期待に関して

■入学後の目的・目標の有無

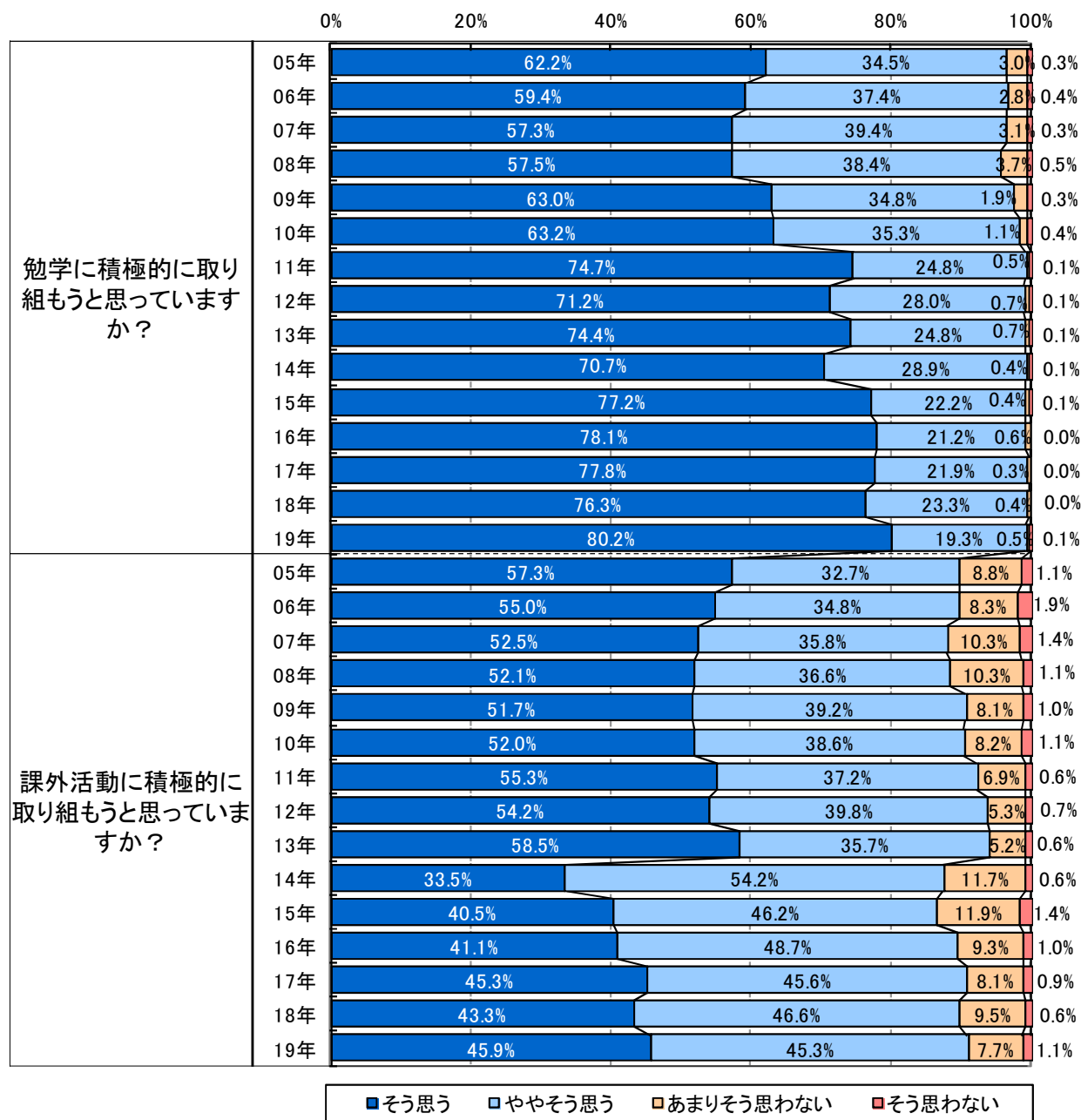
- 「大学に入ってからこれがやりたいという目的・目標を持っていますか？」に対しては、「持っている」が71.3%で、前回より2.5ポイント上がったものの、過去2番目の低さとなっていた。
- 「持っている」の割合を男女別に比較したところ、「男性」は70.0%、「女性」は78.4%であり、「女性」の方が8.4ポイント多かった。
- 「持っている」の割合を学科別に比較すると、「建築」が87.4%で最も多く、次いで、「航空システム」が83.3%、「メディア情報」が78.2%、「心理科学」が73.3%が続いていた。一方、最も少なかったのは「電気電子」の60.0%で、「機械」が62.8%が続いていた。



■KITへの期待、心構え

- KITへの期待、心構えの質問に関しては、13年までの「勉強に積極的に取り組もうと思っていますか？」という質問を14年からは「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」と聞いており、同様に「勉強以外に積極的に取り組めるものを探そうと思っていますか？」という質問を「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」と、少しニュアンスを変えて聞いており、結果に対する影響も考えられる。
- 「勉学に積極的に取り組もうと思っていますか？」に対しては、「そう思う」が80.2%となり、初めて8割を超えた。そして、「ややそう思う」の19.3%を加えると99.5%とほぼ全員が肯定的な意見であり、この傾向は11年頃から継続していた。
- 「課外活動に積極的に取り組もうと思っていますか？」に対しては、「そう思う」が45.9%、「ややそう思う」が45.3%であり、合わせると91.2%が肯定的な意見となっていた。質問文が変わった14年以降で見ると肯定的な意見は最も多くなっており、課外活動にも積極的な様子がうかがえた。

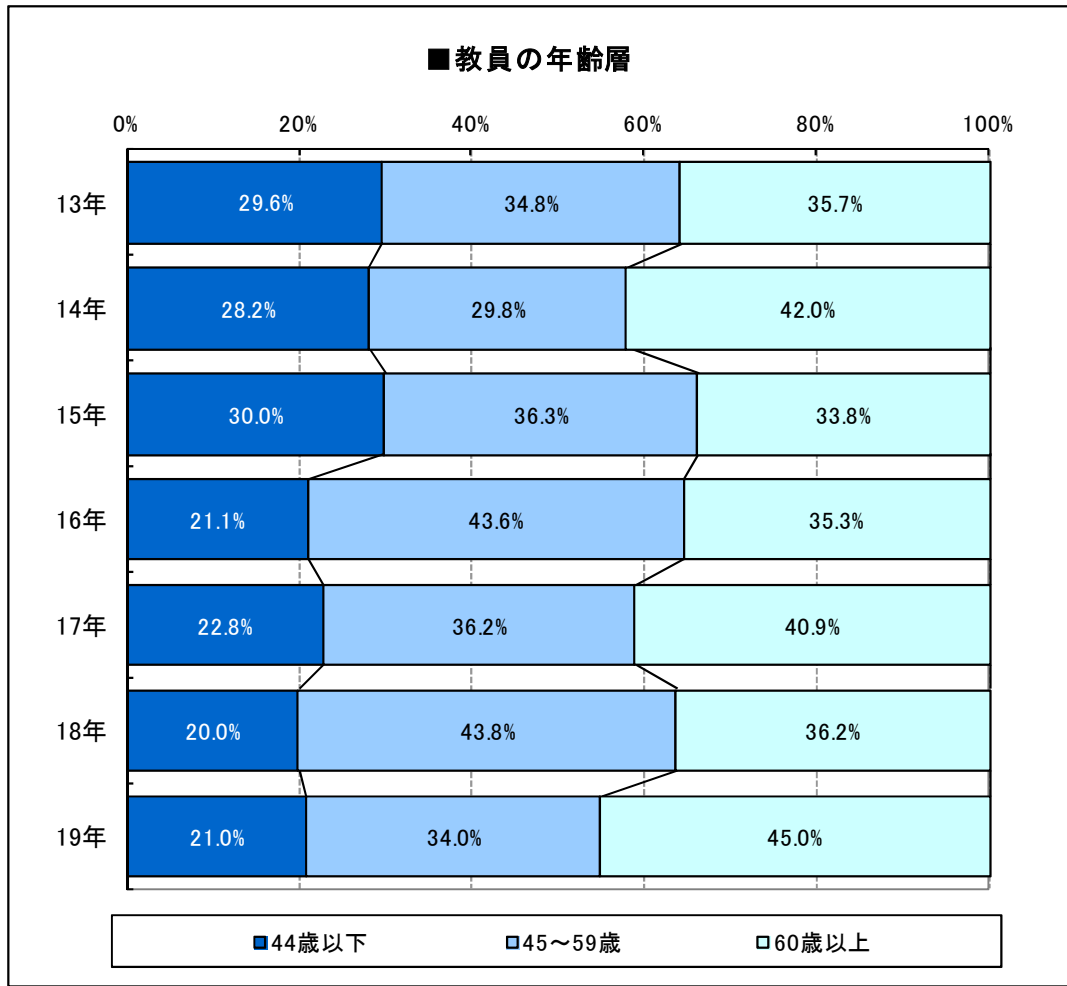
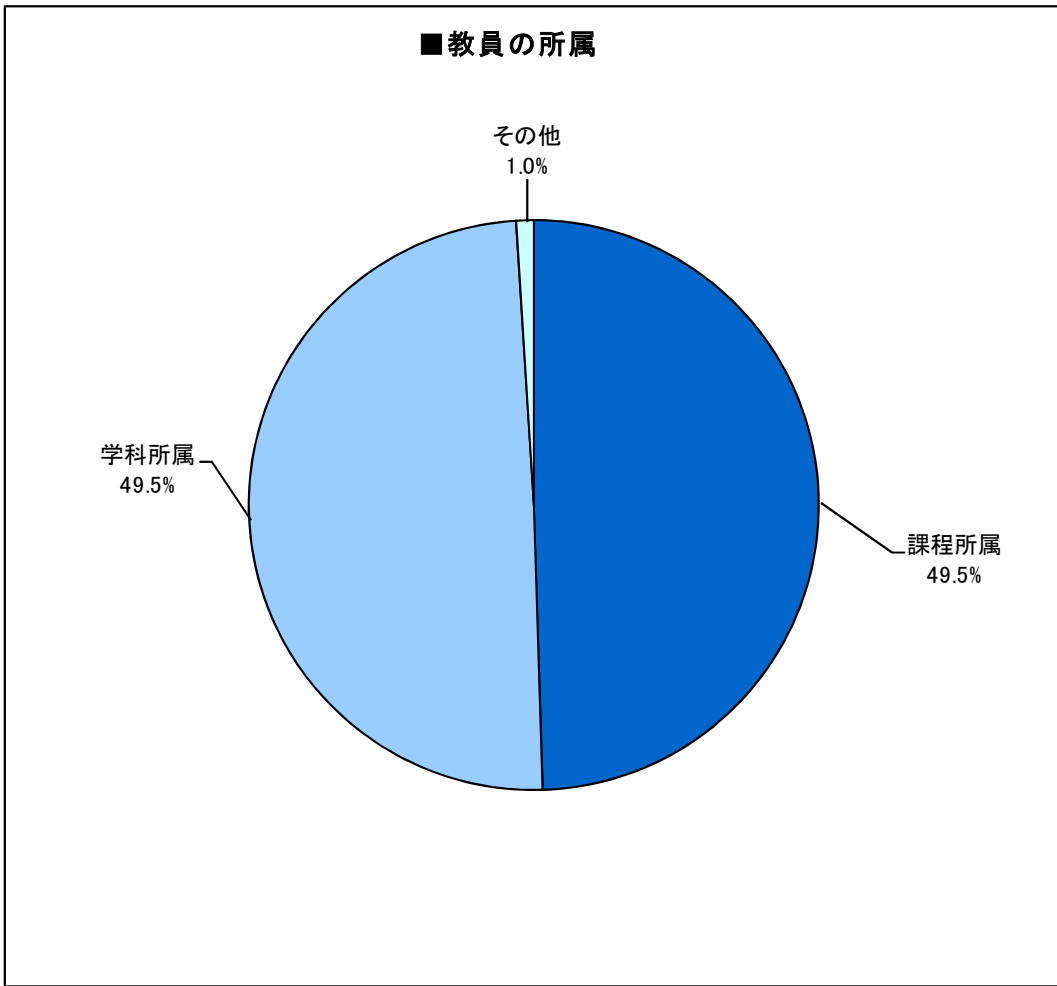
■新入生 KITへの期待、心構え



<14-1>教職員の基本属性

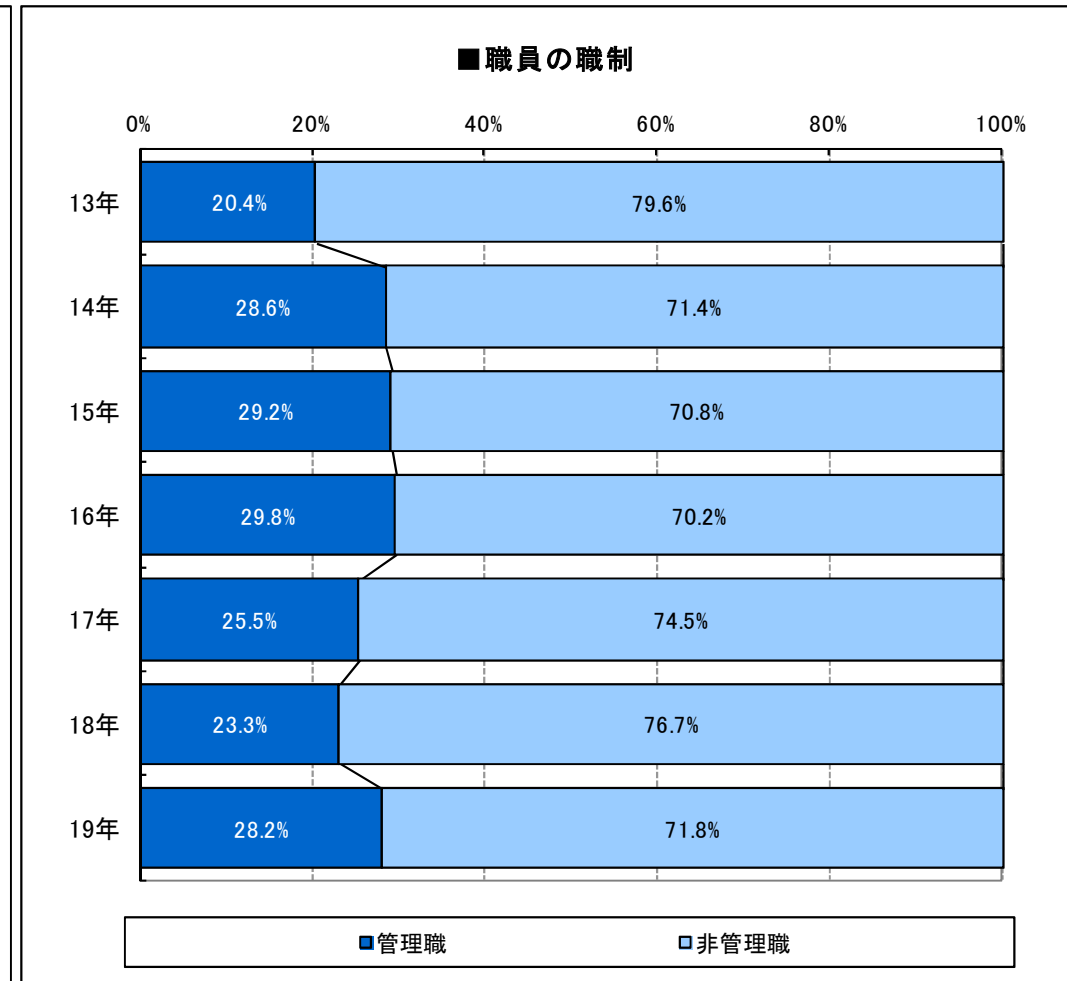
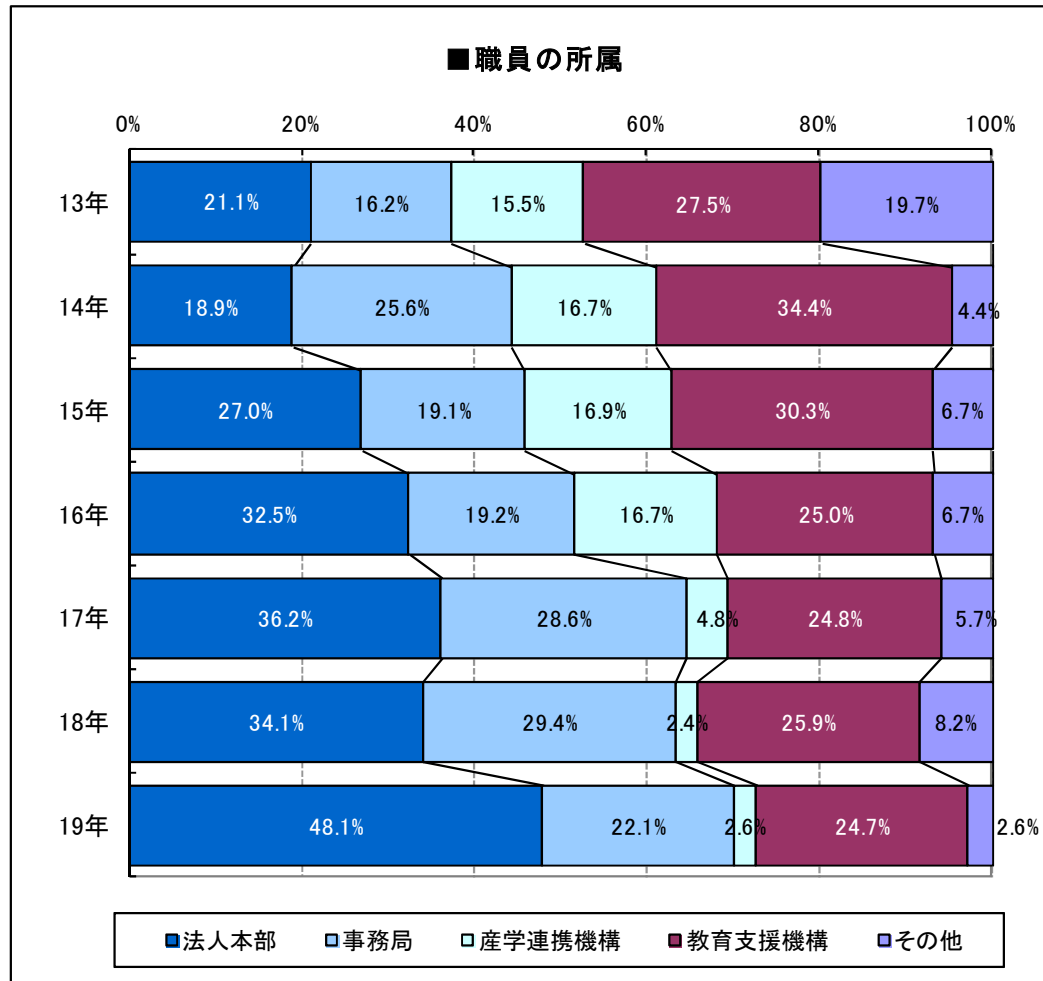
■教員の基本属性

- 「教員の所属」に関する選択肢は今回から変更になっているが、「課程所属」と「学科所属」がともに49.5%であり、「その他」が1.0%であった。
- 「教員の年齢層」では、「44歳以下」が21.0%、「45歳～59歳」が34.0%、「60歳以上」が45.0%であり、前回と比較すると「60歳以上」が前回は8.8ポイント上回って過去最高となった。



■ 職員の基本属性

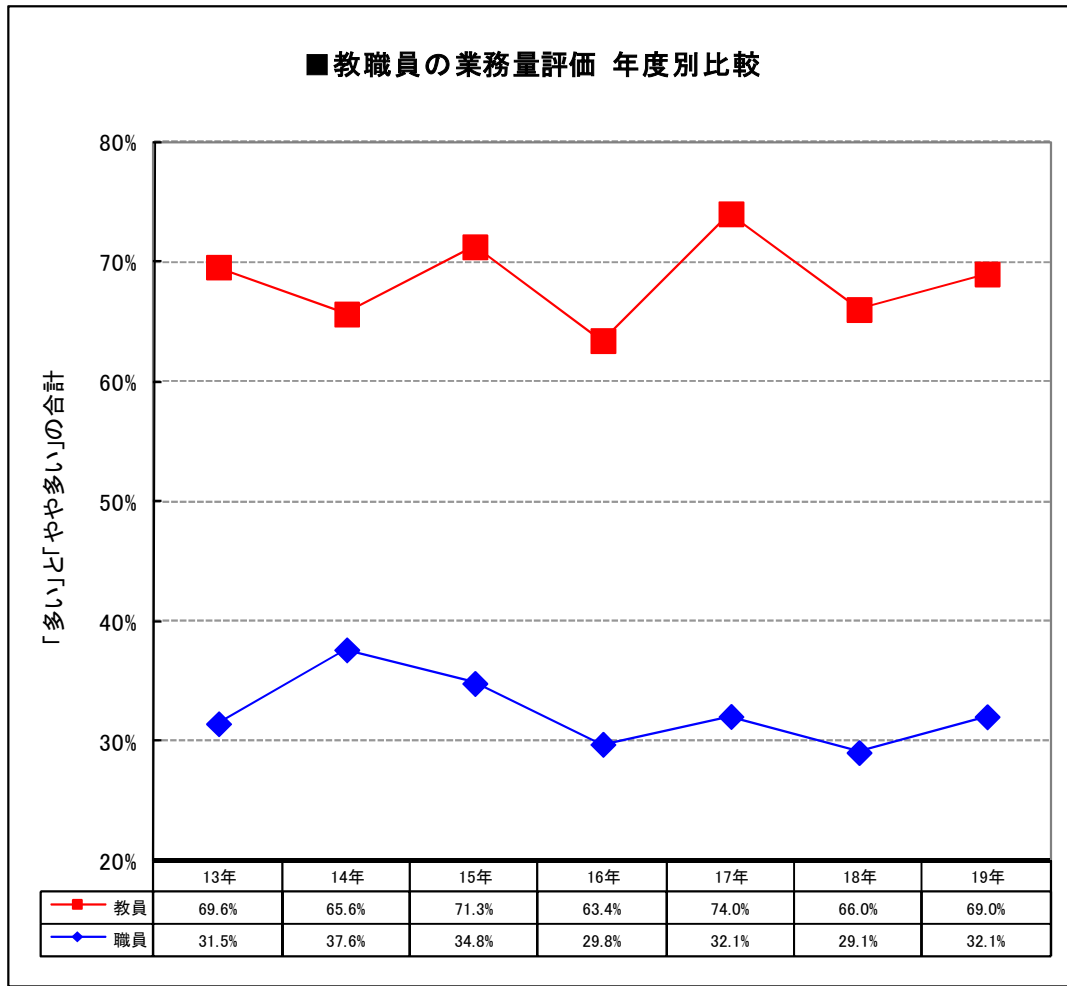
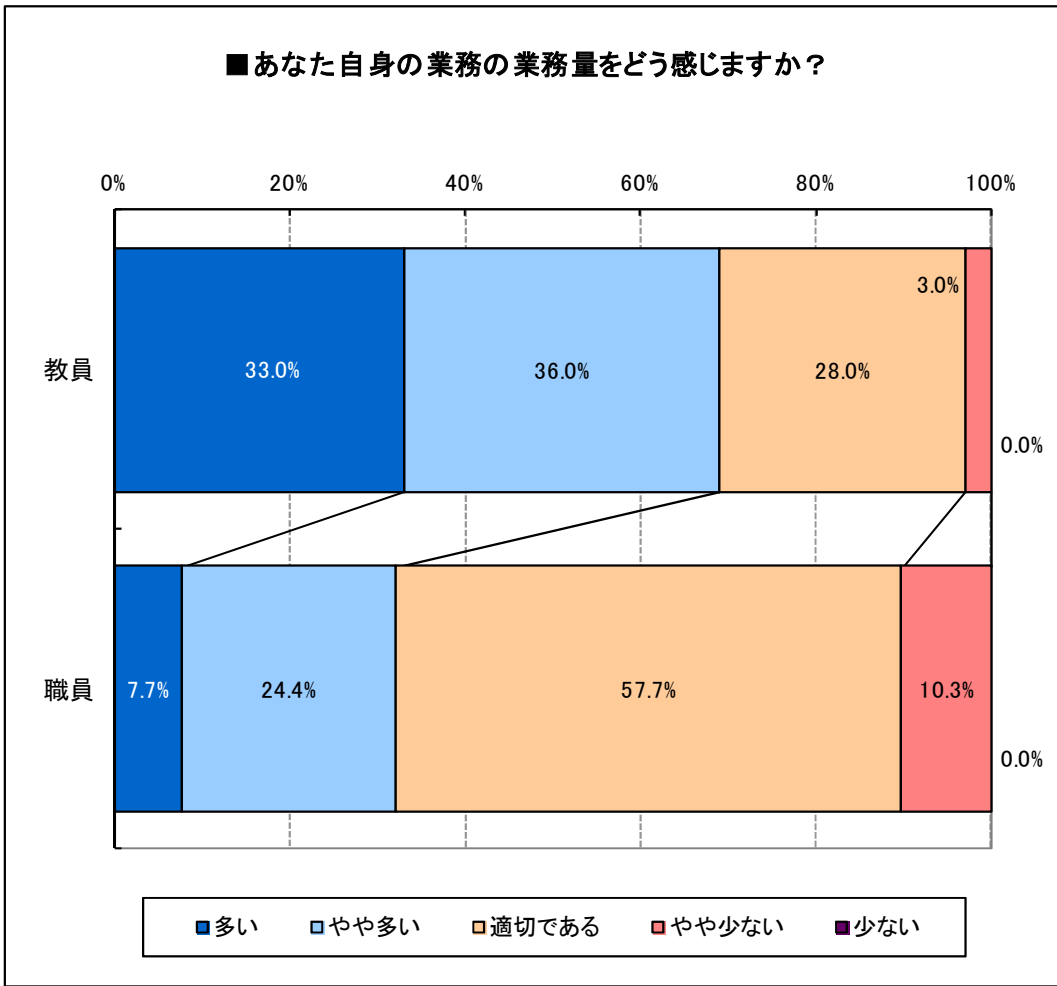
- 「職員の所属」では「法人本部」が前回は14.0ポイント上回って48.1%となり、「事務局」が22.1%、「産学連携機構」が2.6%、「教育支援機構」が24.7%、「その他」が2.6%であった。
- 職員の「職制」では、「管理職」が28.2%、「非管理職」が71.8%であり、16年からの「管理職」の減少傾向が止まっていた。



<14-2>業務の状況に関して

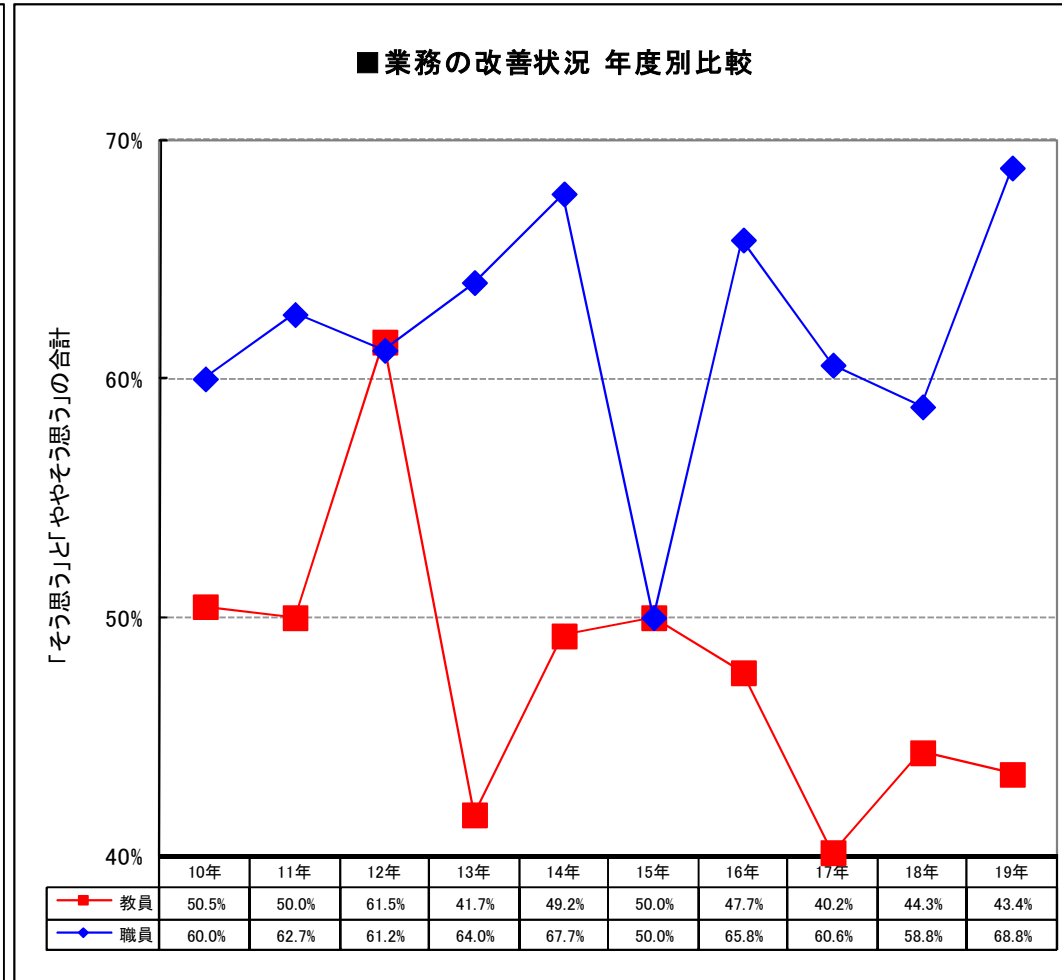
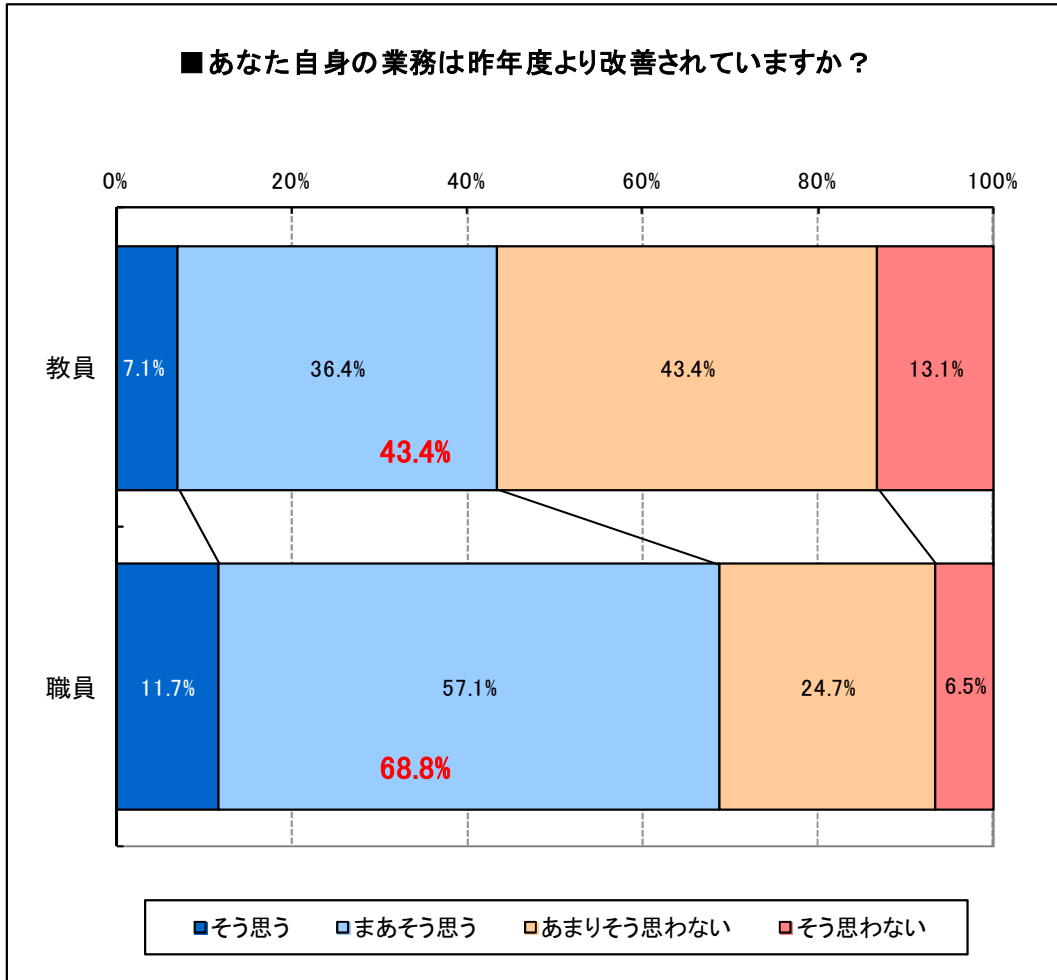
■自分自身の業務量

- 「あなた自身の業務の業務量をどう感じますか？」に対しては、「教員」では「多い」が33.0%、「やや多い」が36.0%であり、合わせると69.0%が業務量が多いと感じていた。そして、「適切である」は28.0%、「やや少ない」は3.0%であった。
- 「職員」では「多い」が7.7%、「やや多い」が24.4%であり、合わせると32.1%が業務量が多いと感じていた。そして、「適切である」は57.7%で半数を超えており、「やや少ない」は10.3%であった。
- 年度別比較は「多い」と「やや多い」の合計で比較しているが、「教員」「職員」ともに前回は3.0ポイント上回っており、いずれも継続的な変化は見られなかった。



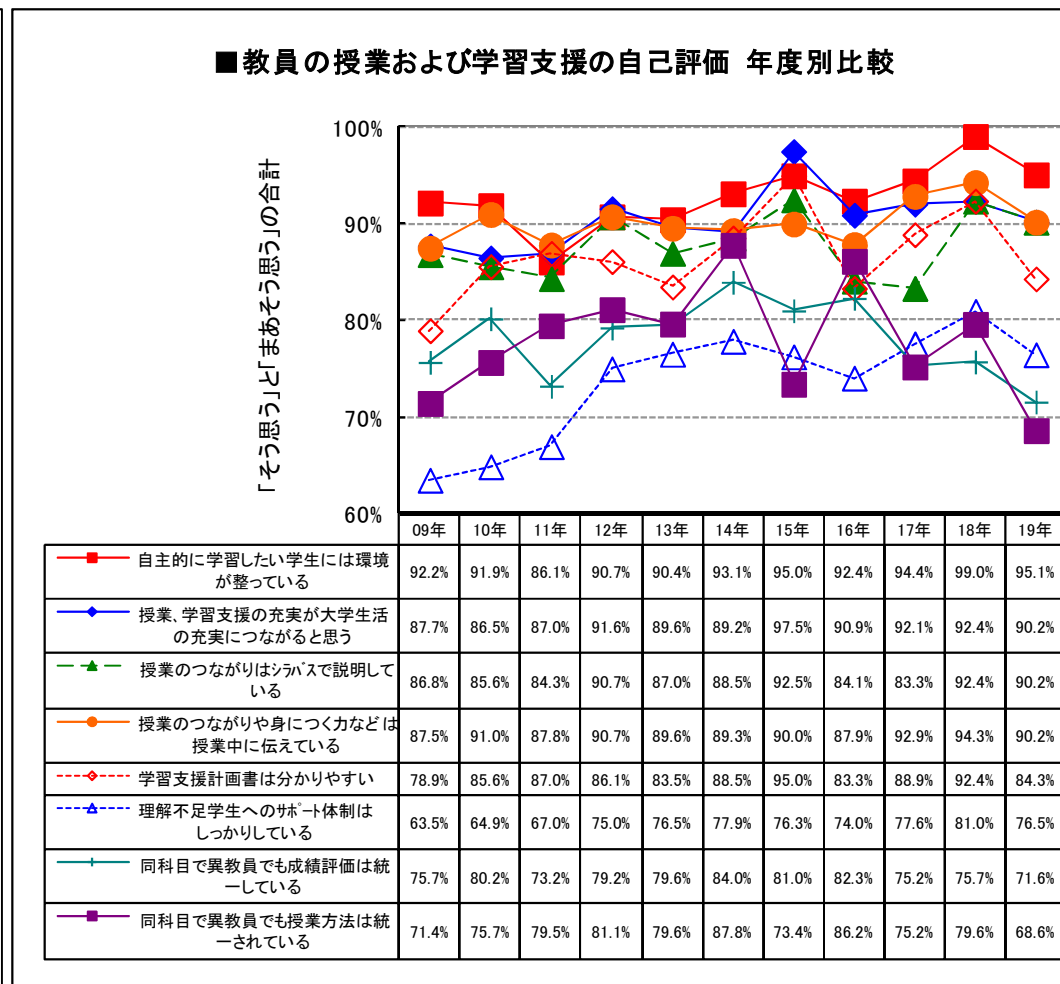
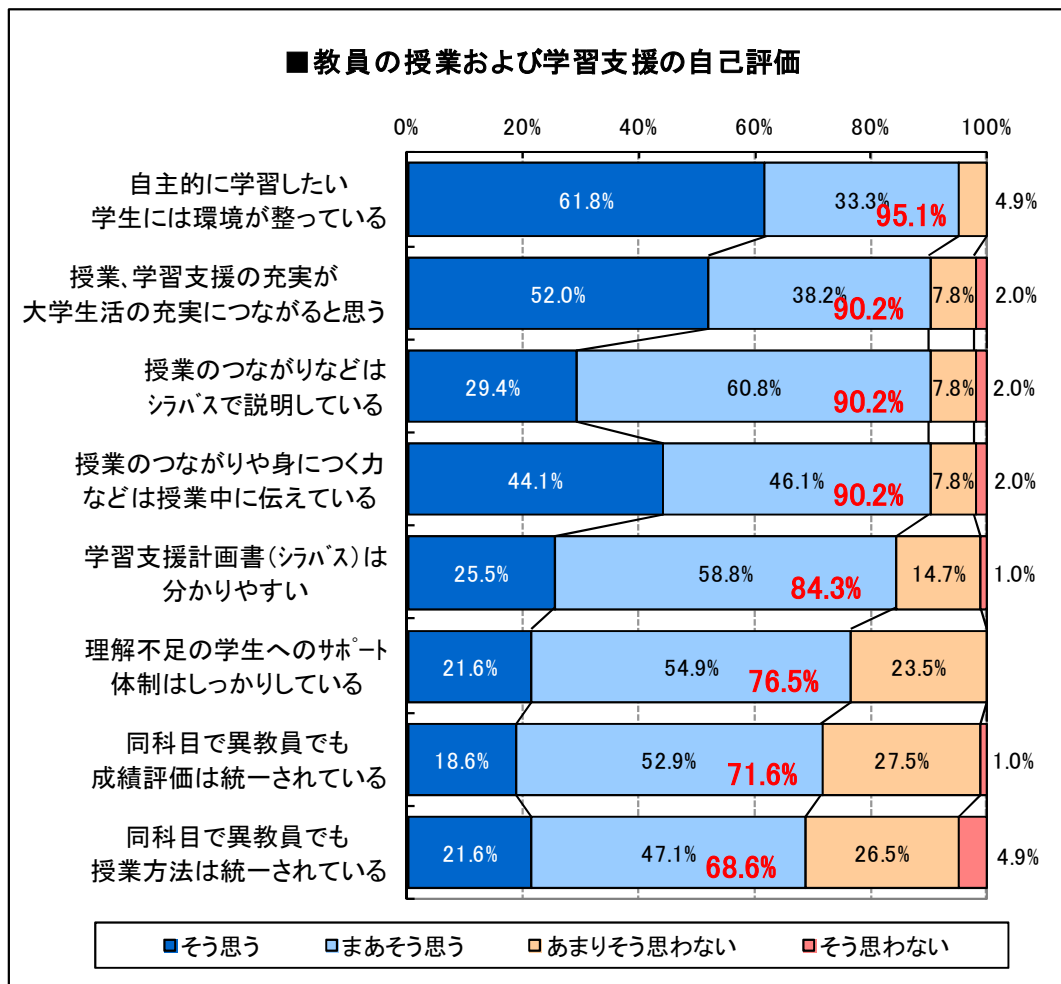
■ 自分自身の業務改善状況

- 「あなた自身の業務は昨年度より改善されていますか？」に対しては、「教員」では「そう思う」が7.1%、「まあそう思う」が36.4%であり、合わせると43.4%が改善されているという回答であった。そして、「職員」では「そう思う」が11.7%、「まあそう思う」が57.1%、合わせると68.8%で、「教員」を25.4ポイント上回っており、両者には大きな意識の差が見られた。
- 「そう思う」と「ややそう思う」の合計を年度別に比較すると、「教員」は前回は0.9ポイント下回っていたが、「職員」は10.0ポイントと大きく上回って過去最高の評価となっていた。



■教員の授業および学習支援の自己評価

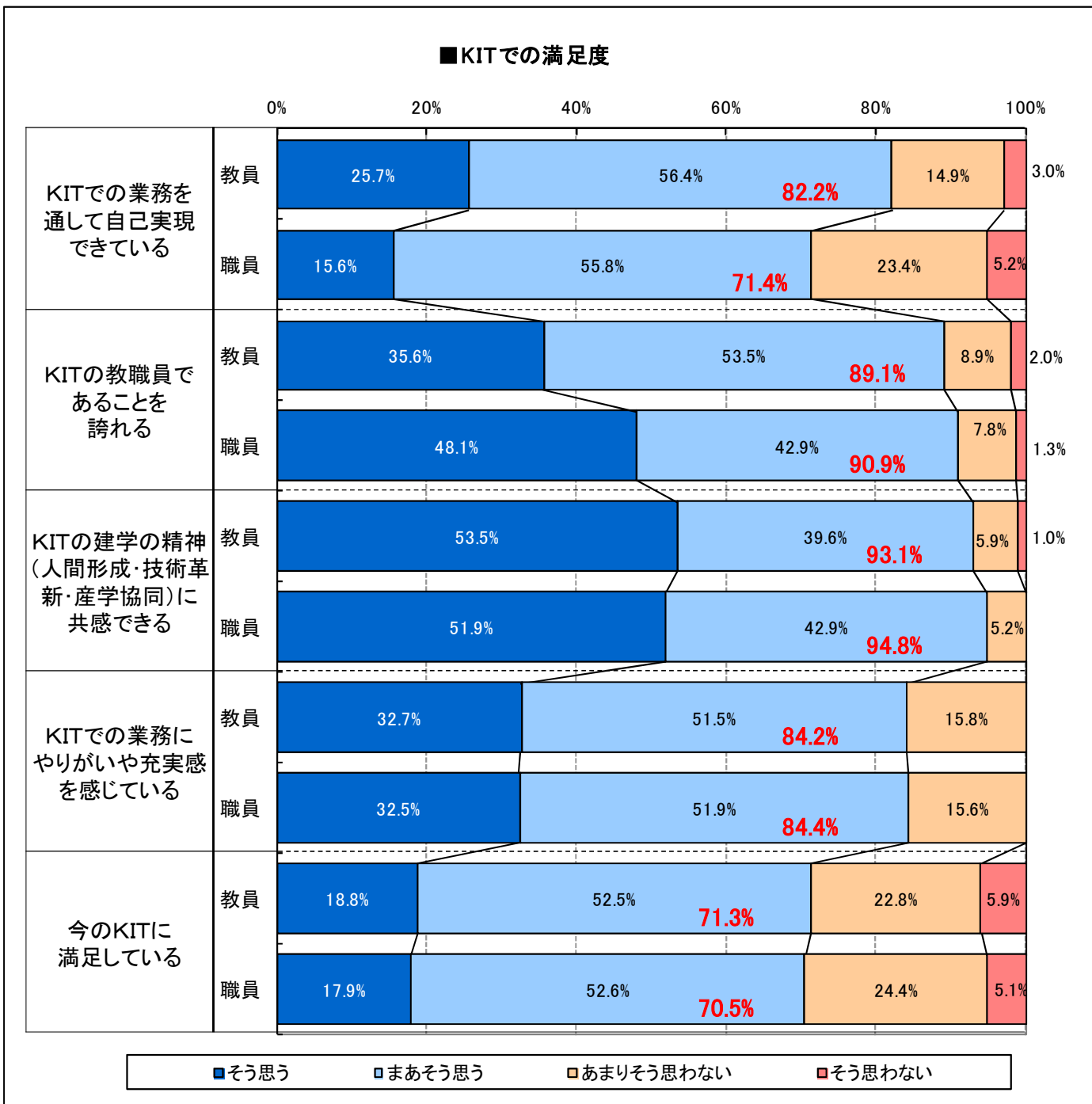
- 教員の授業および学習支援についての8項目のうち、自己評価が最も高かったのは「自主的に学習したい学生には環境が整っている」の95.1%であった。次いで、「授業、学習支援の充実が大学生生活の充実につながると思う」「授業のつながりなどはシラバスで説明している」「授業のつながりや身につく力などは授業中に伝えている」の3項目が90.2%で並んでいた。一方、肯定的な意見が少なかったのは「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」「同科目で異教員でも成績評価は統一されている」であり、「同科目異教員の対応」は教員も課題に感じているようであった。
- 年度別比較を見ると、今回はすべての項目で前回の自己評価を下回っていた。特に低下が大きかったのは「同科目で異教員でも授業方法は統一されている」であり、前回は11.0ポイント低下して過去最低の自己評価となっていた。また、「学習支援計画書は分かりやすい」も前回は8.1ポイントと大きく低下していた。



<14-4>KITでの満足度

■KITでの満足度

- KITでの満足度として、まず、「今のKITに満足している」の肯定的な意見の合計を見ると、「教員」は71.3%、「職員」は70.5%であった。また、「そう思う」だけを見ても「教員」が18.8%、「職員」が17.9%であり、満足度は同じ程度であった。
- 上記の満足度に近い指標である「KITでの業務にやりがいや充実感を感じている」の肯定的な意見も、「教員」が84.2%、「職員」が84.4%となっており、ここでもよく似ており、満足度の高さが感じられた。
- 上記以外で「教員」「職員」ともに肯定的な意見が多かったのは、「KITの建学の精神に共感できる」であり、「教員」は93.1%、「職員」が94.8%となっていた。また、「KITの教職員であることを誇れる」は「教員」が89.1%、「職員」が90.9%であり、いずれも満足度が高い様子が見えてきた。
- 一方、肯定的な意見が少なめであったのは「KITでの業務を通して自己実現できている」であり、肯定的な意見は「教員」で82.2%、「職員」で71.4%であり、特に「職員」の低さが目立っていた。



継続的な改善活動のために!

在学生・卒業生・教職員

2019 KIT総合アンケート調査結果[報告書]

- | | |
|-----------|--------------|
| ■発行日 | 令和元年11月1日 |
| ■発行者 | 学校法人 金沢工業大学 |
| ■調査票設計・分析 | 有限会社 アイ・ポイント |
| ■編集 | 金沢工業大学企画部CS室 |

無断複製厳禁